

令和２年度 第２回 碧南市地域福祉計画策定委員会
次 第

日時 令和２年９月９日（水）

午前１０時から

場所 へきなん福祉センターあいくる
デイルーム

１ あいさつ

２ 議題

- (１) 地域福祉に関する市民アンケートの実施結果について
- (２) へきなん地域福祉ハッピープランの団体等ヒアリングの実施結果について
- (３) へきなん地域福祉ハッピープランの庁内ヒアリングの実施結果について
- (４) 第３次へきなん地域福祉ハッピープランの計画骨子について

３ その他

碧南市地域福祉計画策定委員会名簿

No.	団 体 名	役職名	委員氏名
1	碧南市民生委員児童委員協議会	委員長	河原 厚司
2	碧南市社会福祉協議会	職務代理	杉浦 邦俊
3	碧南市連絡委員		長谷 基宏
4	碧南市老人クラブ連合会		禰宜田 知司
5	碧南市主任児童委員		古井 露子
6	碧南市身体障害者福祉協会		鈴木 たか子
7	碧南市手をつなぐ育成会		牧野 昭彦
8	社会福祉法人樫の木乳幼児福祉会		對馬 幸司
9	碧南市健康推進員		服部 千代美
10	碧南市おやじの会連絡会		磯貝 雅樹
11	碧南市ボランティア連絡協議会		永坂 幸子
12	碧南保護区保護司会 碧南支部		鳥居 寛英
13	碧南市小中学校校長会代表		立花 明德

アドバイザー

14	日本福祉大学社会福祉学部 教授	野尻 紀恵
----	-----------------	-------

事務局

15	碧南市福祉こども部長	杉浦 秀司
16	碧南市福祉課長	杉浦 浩二
17	碧南市福祉課社会福祉係 係長	河原 睦
18	碧南市福祉課社会福祉係 主査	沼田 京子
19	碧南市福祉課社会福祉係 主事	澤田 直也
20	碧南市福祉課社会福祉係 主事	杉浦 久美子
21	碧南市福祉課社会福祉係 主事	板倉 尚宏
22	社会福祉協議会地域福祉課長兼地域福祉係長	鈴木 利男
23	社会福祉協議会地域福祉課地域福祉担当係長	野中 和彦
24	社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係主査	古川 裕隆
25	社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係主査	小島 誠司

へきなん地域福祉ハッピープラン
策定に関するアンケート調査
【結果報告書】

令和2年9月

碧 南 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査の実施概要	2
3	報告書の見方	3
II	市民アンケート 調査結果	5
1	回答者の属性について	6
2	地域との関わりや地域活動等について	12
3	福祉について	23
4	日常生活の中の課題について	34
5	地域の助けあいについて	44
6	災害時のことについて	55
7	福祉のまちづくりについて	62
8	その他・自由意見	71

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「へきなん地域福祉ハッピープラン」を改定するにあたり、市民の地域福祉に関する意識や実態を把握し、計画づくりや施策の立案に活用することを目的として実施しました。

2 調査の実施概要

(1)調査方法

- ・調査対象者 : 令和2年5月1日時点の18歳以上の市民1,000人
- ・調査期間 : 令和2年5月22日から6月4日まで
- ・調査方法 : 郵送配布・郵送回収。調査票による本人記入方式

(2)回収結果

区分	配布数	有効回収数	有効回収率
市民アンケート	1,000	474	47.4%

3 報告書の見方

●集計について

本報告書では、設問ごとに全体の集計結果を記載しています。

●「N」について

グラフ中の「N」とは、Number of Cases の略で、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表します。従って、各選択肢の%に「N」を乗じることで、その選択肢の回答者数が算出できます。

●「%」について

回答結果の割合「%」は、有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。そのため、単数回答と同様、合計が100.0%とならない場合があります。

●「不明・無回答」について

回答がない、または回答の判別が困難なものです。

●選択肢の記載について

グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、一部、必要に応じて省略しています。

●クロス集計表について

表中の網掛けは、「不明・無回答」を除き、最も割合の高い項目と二番目に割合の高い項目で表しています。なお、集計対象者総数(N)が10未満の場合は順位づけを省略し、読取文の対象外としています。

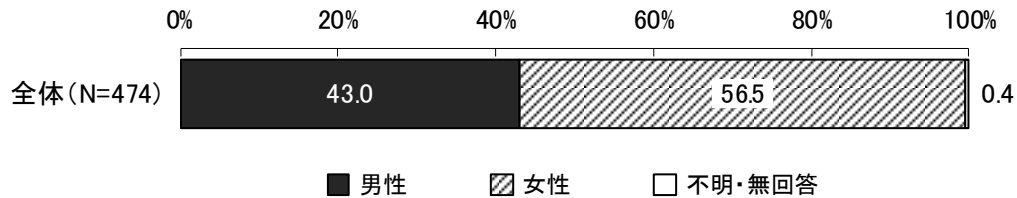
クロス集計表の表側（左端の分類層）は「不明・無回答」を除いているため、各層の実数と集計対象の総数が一致しないことがあります。

Ⅱ 市民アンケート 調査結果

1 回答者の属性について

問1 あなたの性別を教えてください。（○は1つだけ）

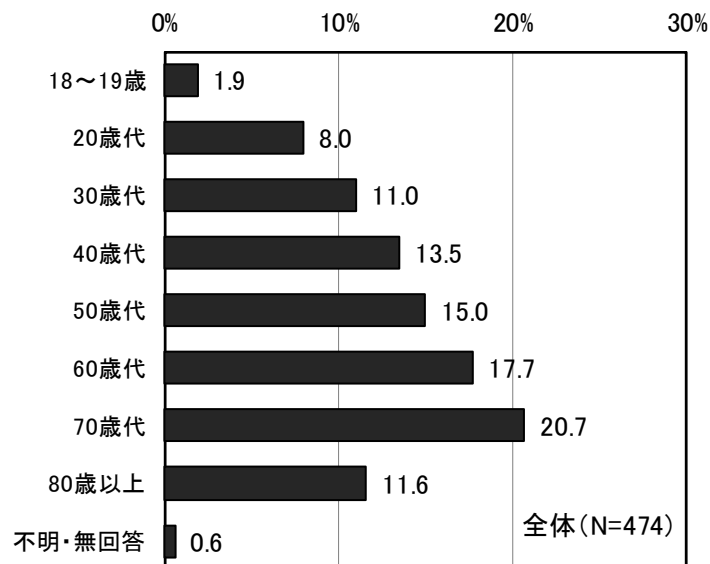
全体では、「男性」が43.0%、「女性」が56.5%となっています。



問2 あなたの年齢を教えてください。（令和2年5月1日現在）（数字を記入）

全体では、「70歳代」が20.7%と最も高く、次いで「60歳代」が17.7%、「50歳代」が15.0%となっています。

地区別でみると、旭地区で「40歳代」、西端地区で「50歳代」が、他の地区と比べて高くなっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

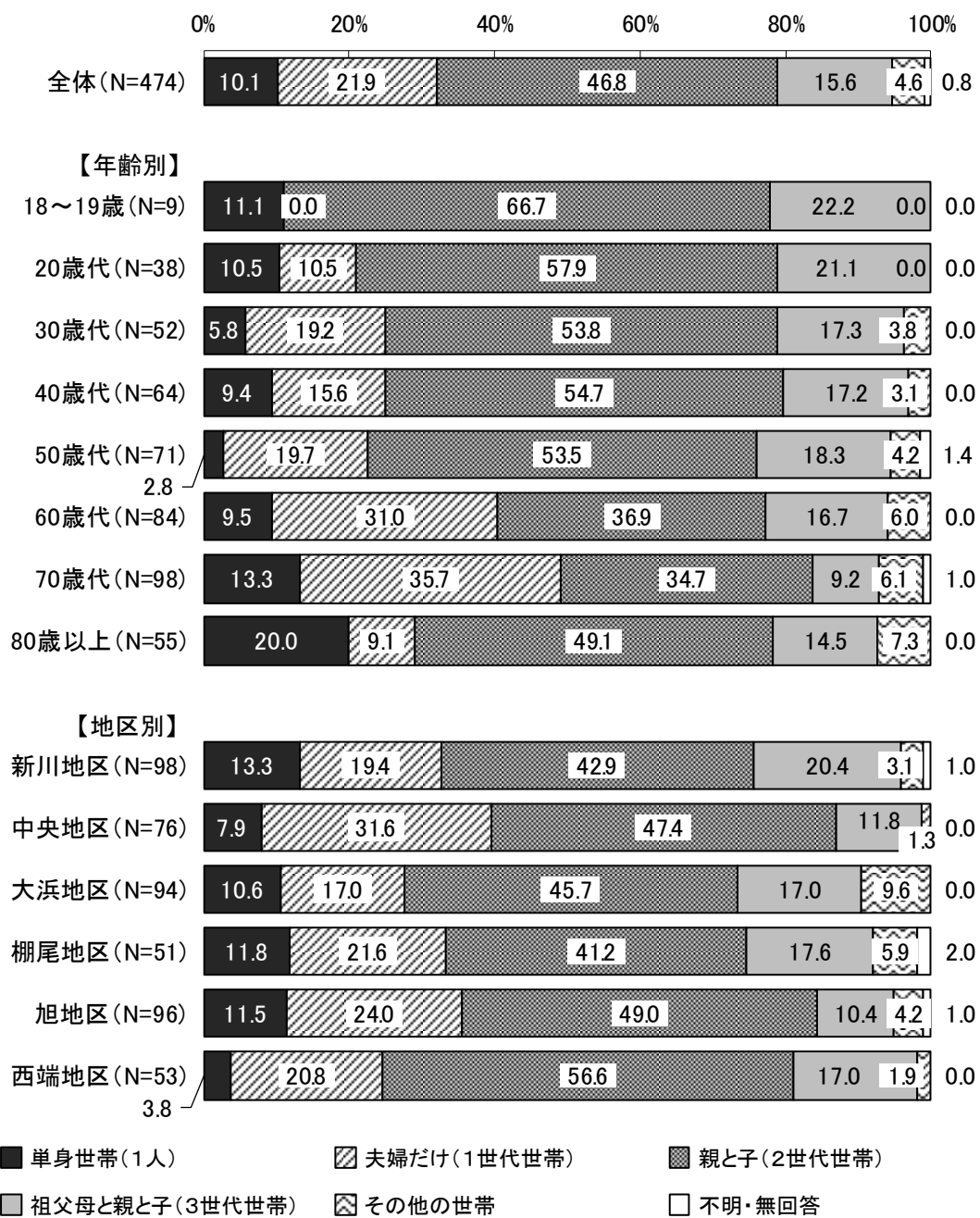
区分	N=	18 ～ 19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳以上	不明・無回答
【地区別】										
新川地区	98	1.0	8.2	8.2	12.2	11.2	19.4	22.4	17.3	17.3
中央地区	76	5.3	7.9	15.8	7.9	18.4	18.4	17.1	9.2	9.2
大浜地区	94	4.3	11.7	10.6	13.8	10.6	21.3	20.2	6.4	6.4
棚尾地区	51	0.0	5.9	13.7	13.7	13.7	19.6	21.6	11.8	11.8
旭地区	96	0.0	4.2	11.5	20.8	13.5	17.7	20.8	10.4	10.4
西端地区	53	0.0	9.4	3.8	11.3	30.2	7.5	22.6	15.1	15.1

問3 あなたの家族構成を教えてください。（○は1つだけ）

全体では、「親と子（2世代世帯）」が46.8％と最も高く、次いで「夫婦だけ（1世代世帯）」が21.9％、「祖父母と親と子（3世代世帯）」が15.6％となっています。

年齢別でみると、60歳代及び70歳代で「夫婦だけ（1世代世帯）」、80歳以上で「単身世帯（1人）」が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、新川地区で「単身世帯（1人）」「祖父母と親と子（3世代世帯）」、中央地区で「夫婦だけ（1世代世帯）」、西端地区で「親と子（2世代世帯）」が、他の地区と比べて高くなっています。

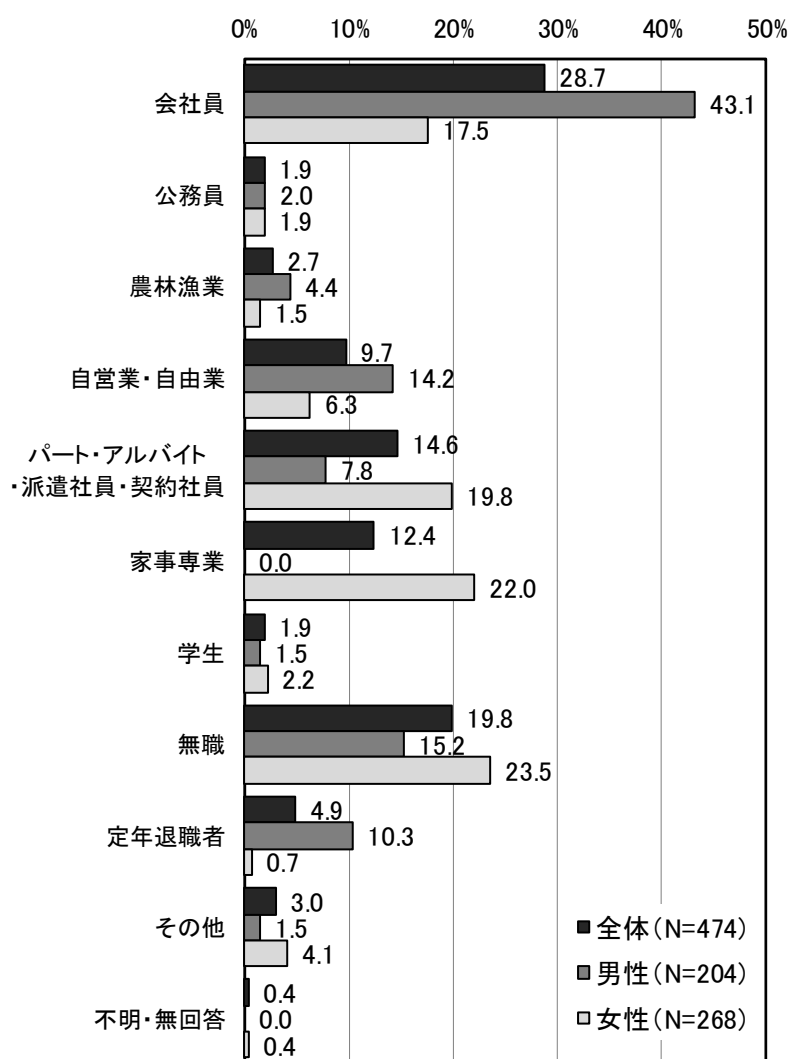


問4 あなたの職業を教えてください。（○は1つだけ）

全体では、「会社員」が28.7%と最も高く、次いで「無職」が19.8%、「パート・アルバイト・派遣社員・契約社員」が14.6%となっています。

性別でみると、男性で「会社員」が女性と比べて高くなっています。一方、女性では「パート・アルバイト・派遣社員・契約社員」「家事専業」が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、20～40歳代で「会社員」、70歳以上で「無職」が、他の年齢と比べて高くなっています。



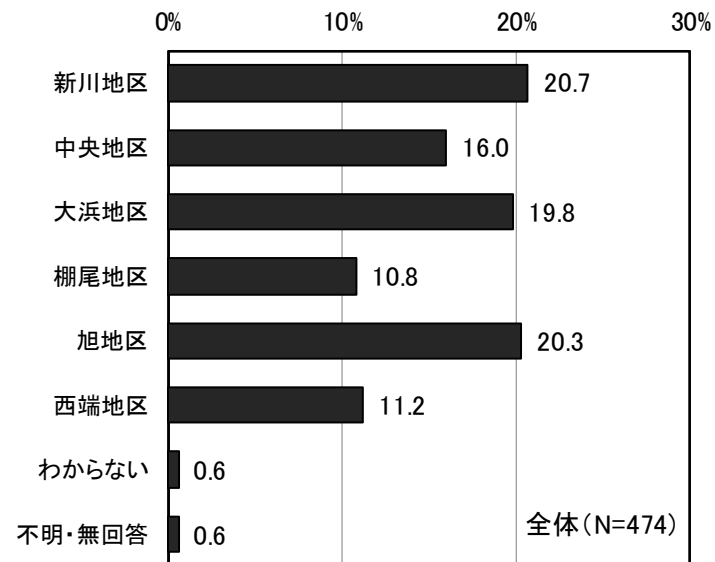
■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	会社員	公務員	農林漁業	自営業・自由業	パート・アルバイト ・派遣社員・契約社員	家事専業	学生	無職	定年退職者
【年齢別】										
18～19 歳	9	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
20 歳代	38	63.2	5.3	0.0	0.0	10.5	7.9	7.9	2.6	0.0
30 歳代	52	46.2	7.7	1.9	1.9	23.1	15.4	0.0	0.0	0.0
40 歳代	64	48.4	0.0	0.0	9.4	31.3	6.3	0.0	3.1	0.0
50 歳代	71	43.7	2.8	5.6	7.0	16.9	14.1	0.0	5.6	0.0
60 歳代	84	25.0	1.2	4.8	21.4	10.7	14.3	0.0	10.7	9.5
70 歳代	98	2.0	0.0	2.0	9.2	11.2	18.4	0.0	45.9	10.2
80 歳以上	55	0.0	0.0	3.6	12.7	1.8	5.5	0.0	60.0	9.1

区分	N=	その他	不明・無回答
【年齢別】			
18～19 歳	9	0.0	0.0
20 歳代	38	2.6	0.0
30 歳代	52	3.8	0.0
40 歳代	64	0.0	1.6
50 歳代	71	4.2	0.0
60 歳代	84	2.4	0.0
70 歳代	98	1.0	0.0
80 歳以上	55	7.3	0.0

問5 あなたのお住まいは、どの地区にありますか。（〇は1つだけ）

全体では、「新川地区」が20.7%と最も高く、次いで「旭地区」が20.3%、「大浜地区」が19.8%となっています。



2 地域との関わりや地域活動等について

問6 あなたは、現在、近所の人とどの程度の付き合いをしていますか。最もあてはまるものをお選びください。（○は1つだけ）

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『親しく付き合っている』 …「困ったときにお互いに助け合える程度」と「お互いに訪問し合う程度」の合算

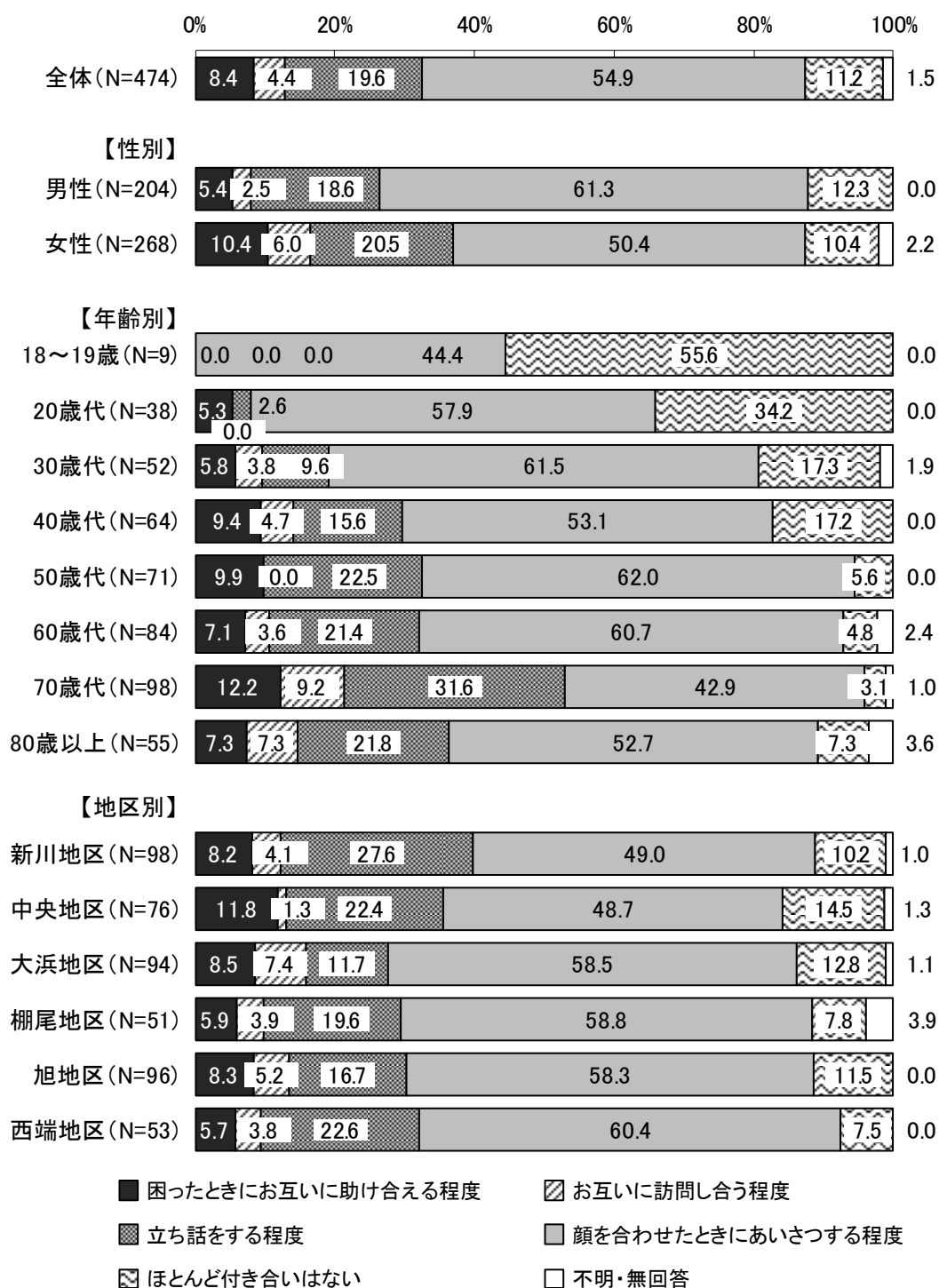
全体では、「顔を合わせたときにあいさつする程度」が54.9%と最も高く、次いで「立ち話をする程度」が19.6%、「ほとんど付き合いはない」が11.2%となっています。

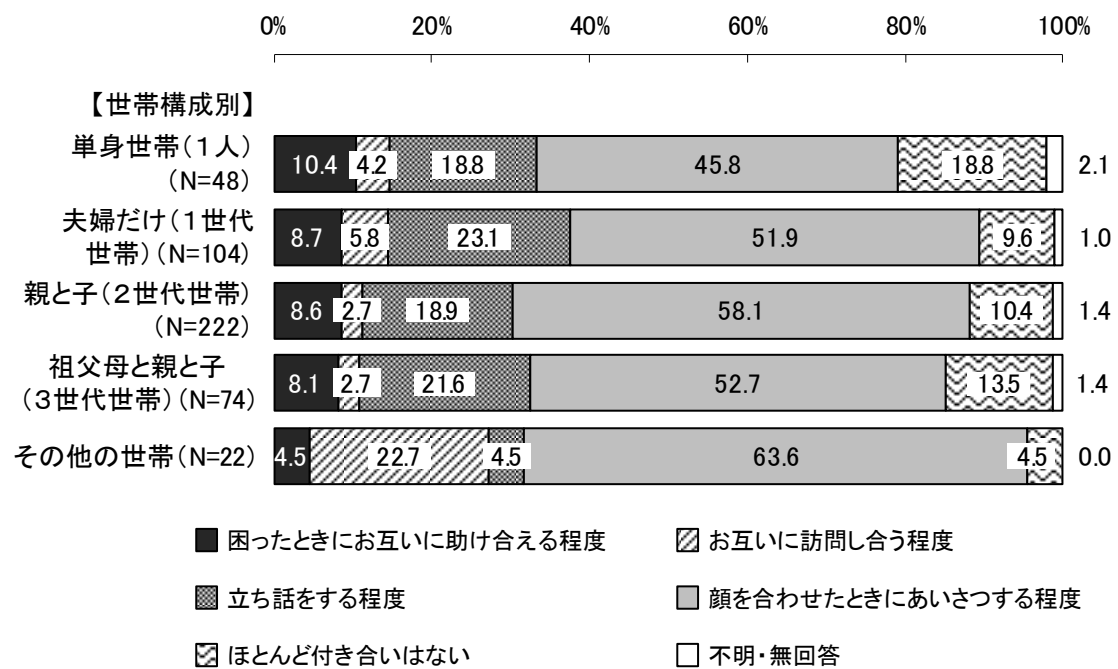
性別でみると、女性で『親しく付き合っている』が16.4%と、男性と比べて8.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、70歳代で『親しく付き合っている』が21.4%と、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、中央地区で「困ったときにお互いに助け合える程度」と「ほとんど付き合いはない」が他の地区と比べて高くなっています。

世帯構成別でみると、単身世帯（1人）で「ほとんど付き合いはない」が18.8%と、他の世帯構成と比べて高くなっています。





問7 あなたが今後参加したい地域活動は何ですか。（現在参加していて継続して参加したいものを含みます）（あてはまるものすべてに○）

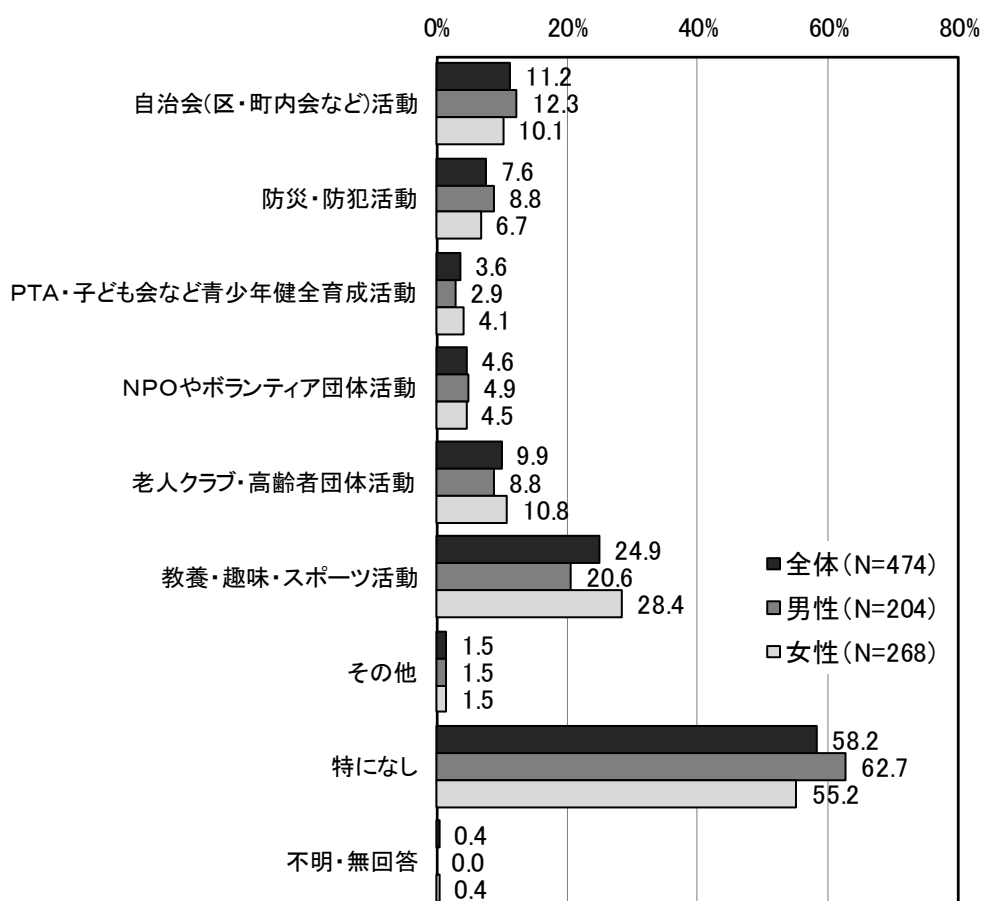
全体では、「特になし」が58.2%と最も高く、次いで「教養・趣味・スポーツ活動」が24.9%、「自治会(区・町内会など)活動」が11.2%となっています。

性別でみると、女性で「教養・趣味・スポーツ活動」が28.4%と、男性と比べて7.8ポイント高くなっています。一方、男性では「特になし」が62.7%と、女性と比べて7.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、20歳代で「NPOやボランティア団体活動」「特になし」、30歳代で「自治会(区・町内会など)活動」、70歳以上で「老人クラブ・高齢者団体活動」が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、旭地区で「教養・趣味・スポーツ活動」「自治会(区・町内会など)活動」が、他の地区と比べて高くなっています。

世帯構成別でみると、単身世帯（1人）で「老人クラブ・高齢者団体活動」が20.8%と、他の世帯構成と比べて高くなっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	自治会(区・町内会など活動)	防災・防犯活動	PTA・子ども会など青少年健全育成活動	NPOやボランティア団体活動	老人クラブ・高齢者団体活動	教養・趣味・スポーツ活動	その他	特になし	不明・無回答
【年齢別】										
18～19 歳	9	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	77.8	0.0
20 歳代	38	5.3	7.9	2.6	10.5	0.0	15.8	0.0	71.1	0.0
30 歳代	52	19.2	15.4	9.6	3.8	0.0	26.9	0.0	48.1	0.0
40 歳代	64	9.4	7.8	7.8	3.1	1.6	25.0	1.6	57.8	0.0
50 歳代	71	8.5	11.3	1.4	8.5	4.2	28.2	1.4	59.2	0.0
60 歳代	84	13.1	3.6	2.4	6.0	4.8	28.6	0.0	59.5	0.0
70 歳代	98	14.3	7.1	3.1	2.0	27.6	27.6	3.1	52.0	1.0
80 歳以上	55	5.5	1.8	0.0	0.0	21.8	16.4	3.6	67.3	0.0
【地区別】										
新川地区	98	12.2	7.1	2.0	6.1	14.3	25.5	2.0	57.1	1.0
中央地区	76	3.9	9.2	5.3	5.3	7.9	23.7	0.0	65.8	0.0
大浜地区	94	11.7	4.3	3.2	4.3	6.4	18.1	1.1	64.9	0.0
棚尾地区	51	9.8	9.8	5.9	2.0	9.8	25.5	2.0	58.8	0.0
旭地区	96	19.8	11.5	4.2	5.2	10.4	35.4	3.1	42.7	0.0
西端地区	53	5.7	1.9	1.9	3.8	11.3	20.8	0.0	64.2	0.0
【世帯構成別】										
単身世帯(1人)	48	12.5	4.2	2.1	6.3	20.8	16.7	2.1	60.4	0.0
夫婦だけ (1世代世帯)	104	11.5	10.6	2.9	2.9	10.6	29.8	2.9	59.6	0.0
親と子 (2世代世帯)	222	12.6	6.8	3.2	5.4	6.8	25.2	0.9	57.7	0.0
祖父母と親と子 (3世代世帯)	74	6.8	8.1	8.1	4.1	12.2	20.3	1.4	58.1	0.0
その他の世帯	22	9.1	4.5	0.0	4.5	9.1	27.3	0.0	59.1	4.5

<問7で「1～7」と答えた方（何らかの地域活動に参加したい方）のみ>

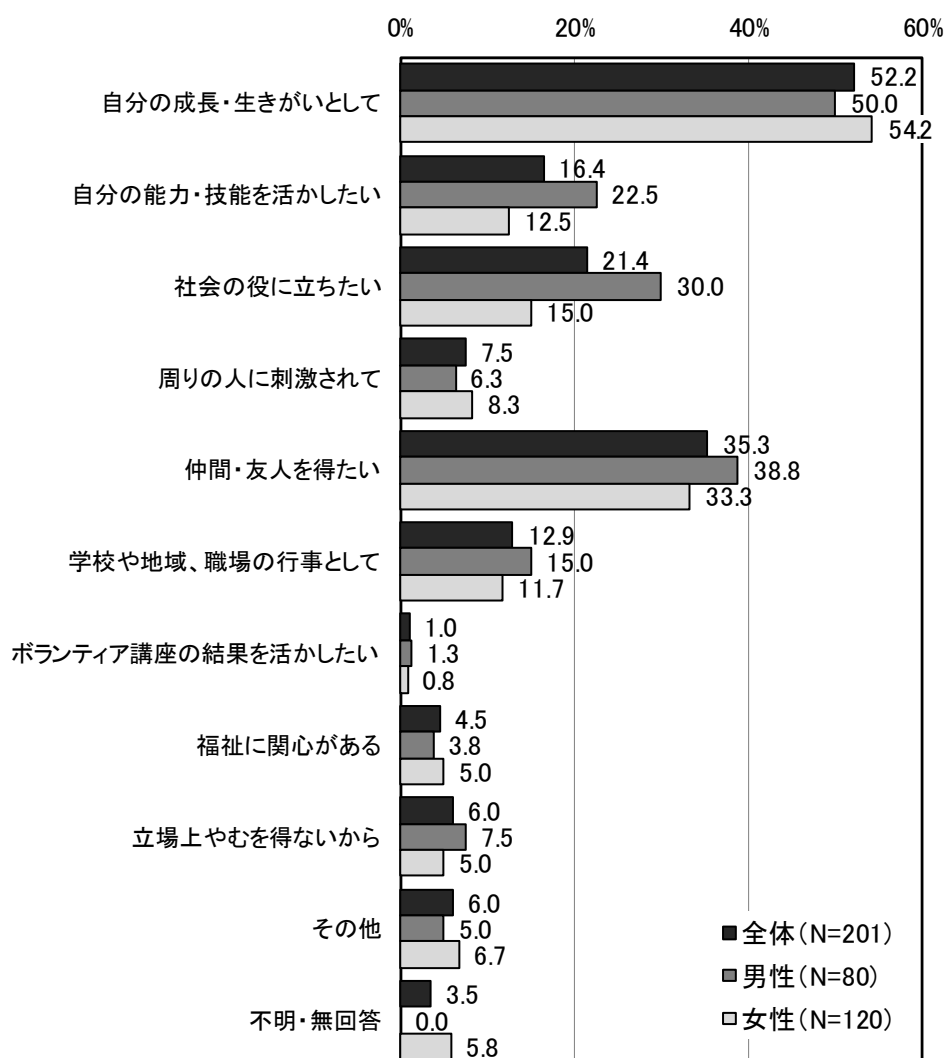
問8 地域活動をする動機はどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

全体では、「自分の成長・生きがいとして」が 52.2%と最も高く、次いで「仲間・友人を得たい」が 35.3%、「社会の役に立ちたい」が 21.4%となっています。

性別でみると、男性で「社会の役に立ちたい」が 30.0%と、女性と比べて 15.0 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、20～40 歳代で「学校や地域、職場の行事として」、50 歳代で「自分の成長・生きがいとして」「社会の役に立ちたい」が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、西端地区及び大浜地区で「仲間・友人を得たい」がそれぞれ 50.0%、47.1%と、他の地区と比べて高くなっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	自分の成長・生きが いとして	自分の能力・技能を 活かしたい	社会の役に立ちたい	周りの人に刺激され て	仲間・友人を得たい	学校や地域、職場の 行事として	ボランティア講座の 結果を活かしたい	福祉に関心がある	立場上やむを得ない から	その他	不明・無回答
【年齢別】												
18～19 歳	2	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代	11	45.5	27.3	18.2	9.1	18.2	27.3	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
30 歳代	27	44.4	3.7	22.2	3.7	29.6	25.9	0.0	0.0	7.4	14.8	0.0
40 歳代	28	35.7	14.3	21.4	7.1	32.1	28.6	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0
50 歳代	29	79.3	20.7	31.0	0.0	27.6	3.4	3.4	13.8	3.4	0.0	0.0
60 歳代	34	52.9	23.5	23.5	2.9	47.1	8.8	0.0	5.9	2.9	0.0	2.9
70 歳代	49	55.1	12.2	16.3	18.4	38.8	8.2	0.0	6.1	6.1	8.2	10.2
80 歳以上	19	36.8	26.3	10.5	5.3	42.1	0.0	0.0	0.0	5.3	10.5	5.3
【地区別】												
新川地区	43	60.5	27.9	25.6	9.3	30.2	11.6	0.0	0.0	7.0	4.7	2.3
中央地区	27	55.6	18.5	22.2	0.0	18.5	7.4	0.0	11.1	3.7	0.0	7.4
大浜地区	34	38.2	14.7	20.6	5.9	47.1	11.8	0.0	2.9	11.8	11.8	2.9
棚尾地区	21	66.7	14.3	23.8	9.5	33.3	14.3	0.0	0.0	0.0	4.8	4.8
旭地区	55	47.3	7.3	18.2	9.1	36.4	18.2	1.8	5.5	5.5	9.1	3.6
西端地区	20	55.0	20.0	15.0	10.0	50.0	10.0	5.0	10.0	5.0	0.0	0.0

<問7で「8 特になし」と答えた方のみ>

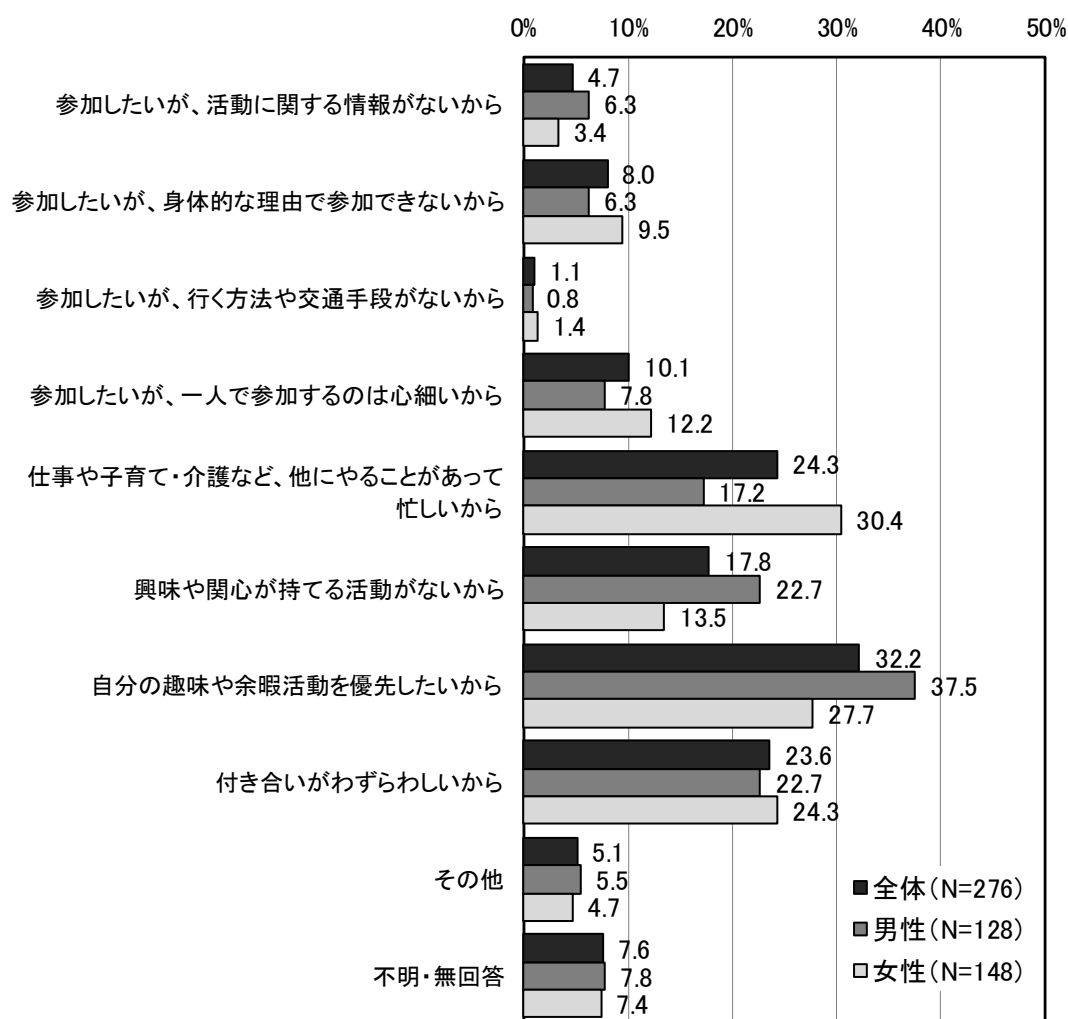
問9 活動に参加しない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

全体では、「自分の趣味や余暇活動を優先したいから」が32.2%と最も高く、次いで「仕事や子育て・介護など、他にやることがあって忙しいから」が24.3%、「付き合いがわずらわしいから」が23.6%となっています。

性別でみると、女性で「仕事や子育て・介護など、他にやることがあって忙しいから」が男性と比べて高くなっています。一方、男性では「自分の趣味や余暇活動を優先したいから」「興味や関心が持てる活動がないから」が女性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、30歳代及び40歳代で「仕事や子育て・介護など、他にやることがあって忙しいから」、50歳代で「興味や関心が持てる活動がないから」、80歳以上で「参加したいが、身体的な理由で参加できないから」が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、棚尾地区で「興味や関心が持てる活動がないから」が30.0%と、他の地区と比べて高くなっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	参加したいが、活動に関する情報がないから	参加したいが、身体的な理由で参加できないから	参加したいが、行く方法や交通手段がないから	参加したいが、一人で参加するのは心細いから	仕事や子育て・介護など、他にやることがあつて忙しいから	興味や関心が持てる活動がないから	自分の趣味や余暇活動を優先したいから	付き合いがわずらわしいから	その他	不明・無回答
【年齢別】											
18～19 歳	7	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0
20 歳代	27	11.1	0.0	0.0	14.8	33.3	14.8	40.7	22.2	0.0	7.4
30 歳代	25	4.0	4.0	0.0	12.0	56.0	24.0	32.0	20.0	0.0	4.0
40 歳代	37	5.4	0.0	2.7	2.7	51.4	21.6	40.5	27.0	0.0	0.0
50 歳代	42	2.4	2.4	0.0	7.1	23.8	28.6	42.9	33.3	7.1	0.0
60 歳代	50	6.0	4.0	0.0	12.0	16.0	16.0	34.0	24.0	8.0	10.0
70 歳代	51	5.9	9.8	2.0	15.7	5.9	11.8	27.5	25.5	3.9	11.8
80 歳以上	37	0.0	35.1	2.7	5.4	5.4	10.8	13.5	10.8	10.8	18.9
【地区別】											
新川地区	56	10.7	10.7	1.8	10.7	28.6	14.3	30.4	23.2	5.4	14.3
中央地区	50	4.0	8.0	2.0	8.0	28.0	10.0	30.0	20.0	4.0	10.0
大浜地区	61	4.9	11.5	0.0	9.8	23.0	21.3	31.1	24.6	4.9	0.0
棚尾地区	30	0.0	10.0	0.0	10.0	26.7	30.0	36.7	23.3	6.7	6.7
旭地区	41	0.0	2.4	2.4	9.8	19.5	14.6	36.6	22.0	4.9	9.8
西端地区	34	2.9	2.9	0.0	14.7	17.6	20.6	35.3	29.4	5.9	0.0

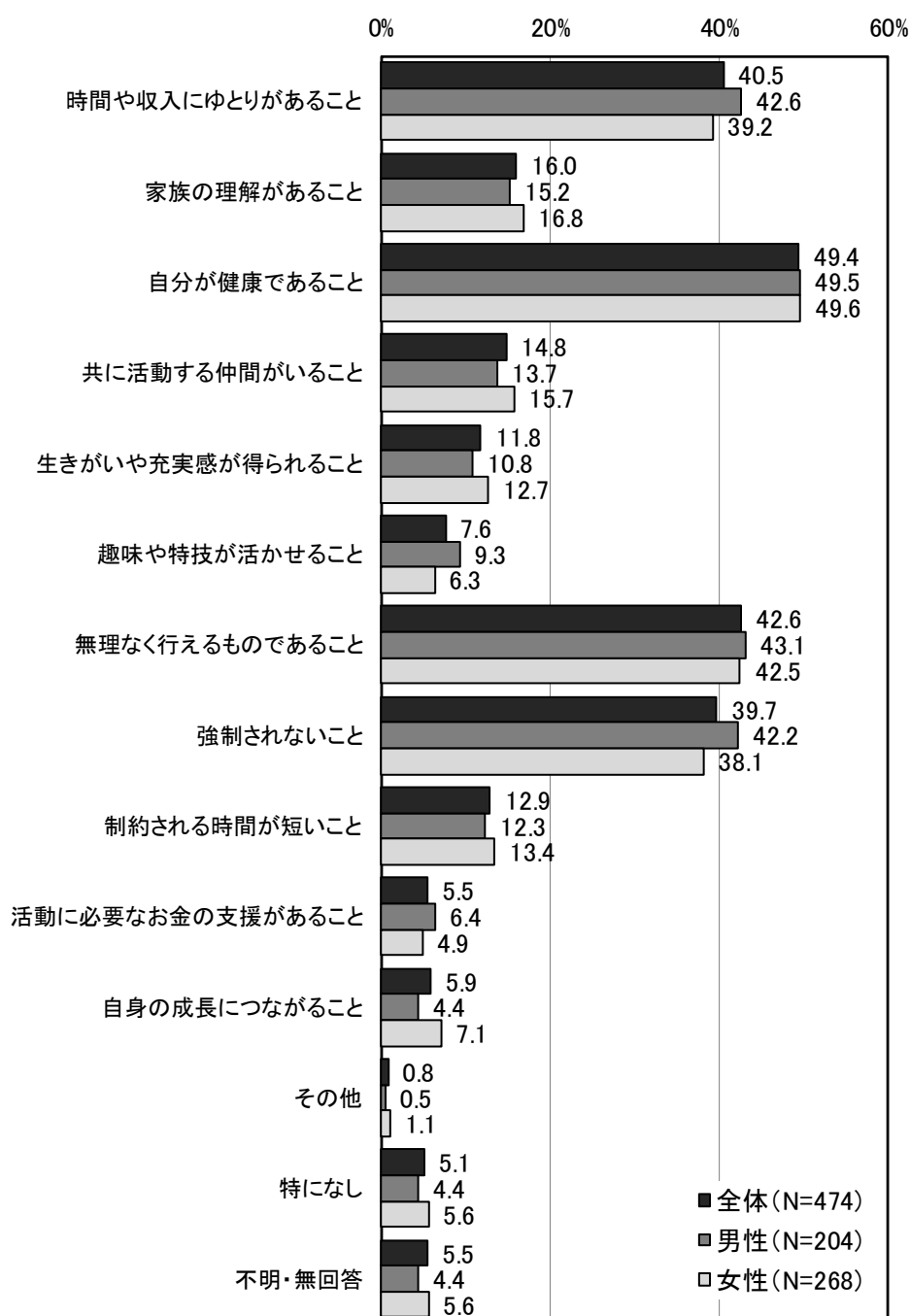
問10 地域活動やボランティアに参加するためには、どのような条件が整っていることが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

全体では、「自分が健康であること」が49.4%と最も高く、次いで「無理なく行えるものであること」が42.6%、「時間や収入にゆとりがあること」が40.5%となっています。

性別でみると、男女ともに大差はみられません。

年齢別でみると、30歳代で「強制されないこと」「時間や収入にゆとりがあること」、40歳代で「時間や収入にゆとりがあること」、60歳以上で「自分が健康であること」が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、新川地区で「時間や収入にゆとりがあること」、中央地区及び西端地区で「無理なく行えるものであること」が、他の地区と比べて高くなっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	時間や収入にゆとりがあること	家族の理解があること	自分が健康であること	共に活動する仲間がいること	生きがいや充実感が得られること	趣味や特技が活かせること	無理なく行えるものであること	強制されないこと	制約される時間が短いこと	活動に必要なお金の支援があること
【年齢別】											
18～19 歳	9	44.4	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	33.3	88.9	33.3	22.2
20 歳代	38	44.7	2.6	15.8	23.7	10.5	15.8	55.3	50.0	18.4	5.3
30 歳代	52	57.7	23.1	21.2	11.5	7.7	1.9	51.9	61.5	21.2	5.8
40 歳代	64	59.4	7.8	35.9	18.8	10.9	10.9	50.0	45.3	21.9	7.8
50 歳代	71	47.9	16.9	49.3	14.1	16.9	4.2	47.9	35.2	16.9	5.6
60 歳代	84	45.2	25.0	64.3	9.5	16.7	4.8	42.9	28.6	9.5	8.3
70 歳代	98	16.3	15.3	68.4	19.4	5.1	11.2	33.7	39.8	4.1	2.0
80 歳以上	55	23.6	18.2	67.3	9.1	18.2	7.3	29.1	18.2	3.6	0.0
【地区別】											
新川地区	98	48.0	14.3	51.0	19.4	14.3	8.2	43.9	35.7	15.3	3.1
中央地区	76	43.4	18.4	47.4	23.7	13.2	7.9	47.4	39.5	11.8	5.3
大浜地区	94	40.4	20.2	44.7	11.7	10.6	8.5	35.1	45.7	11.7	12.8
棚尾地区	51	31.4	13.7	52.9	13.7	13.7	5.9	41.2	41.2	7.8	2.0
旭地区	96	38.5	17.7	54.2	10.4	6.3	7.3	44.8	34.4	11.5	4.2
西端地区	53	37.7	9.4	47.2	9.4	17.0	7.5	49.1	45.3	18.9	1.9

区分	N=	自身の成長につながる	その他	特になし	不明・無回答
【年齢別】					
18～19 歳	9	11.1	0.0	0.0	0.0
20 歳代	38	5.3	2.6	0.0	5.3
30 歳代	52	7.7	0.0	1.9	3.8
40 歳代	64	4.7	1.6	1.6	0.0
50 歳代	71	5.6	0.0	4.2	2.8
60 歳代	84	4.8	1.2	3.6	4.8
70 歳代	98	7.1	0.0	9.2	7.1
80 歳以上	55	5.5	1.8	12.7	14.5
【地区別】					
新川地区	98	6.1	2.0	2.0	6.1
中央地区	76	7.9	1.3	3.9	2.6
大浜地区	94	3.2	1.1	7.4	2.1
棚尾地区	51	9.8	0.0	7.8	7.8
旭地区	96	7.3	0.0	6.3	6.3
西端地区	53	1.9	0.0	1.9	7.5

3 福祉について

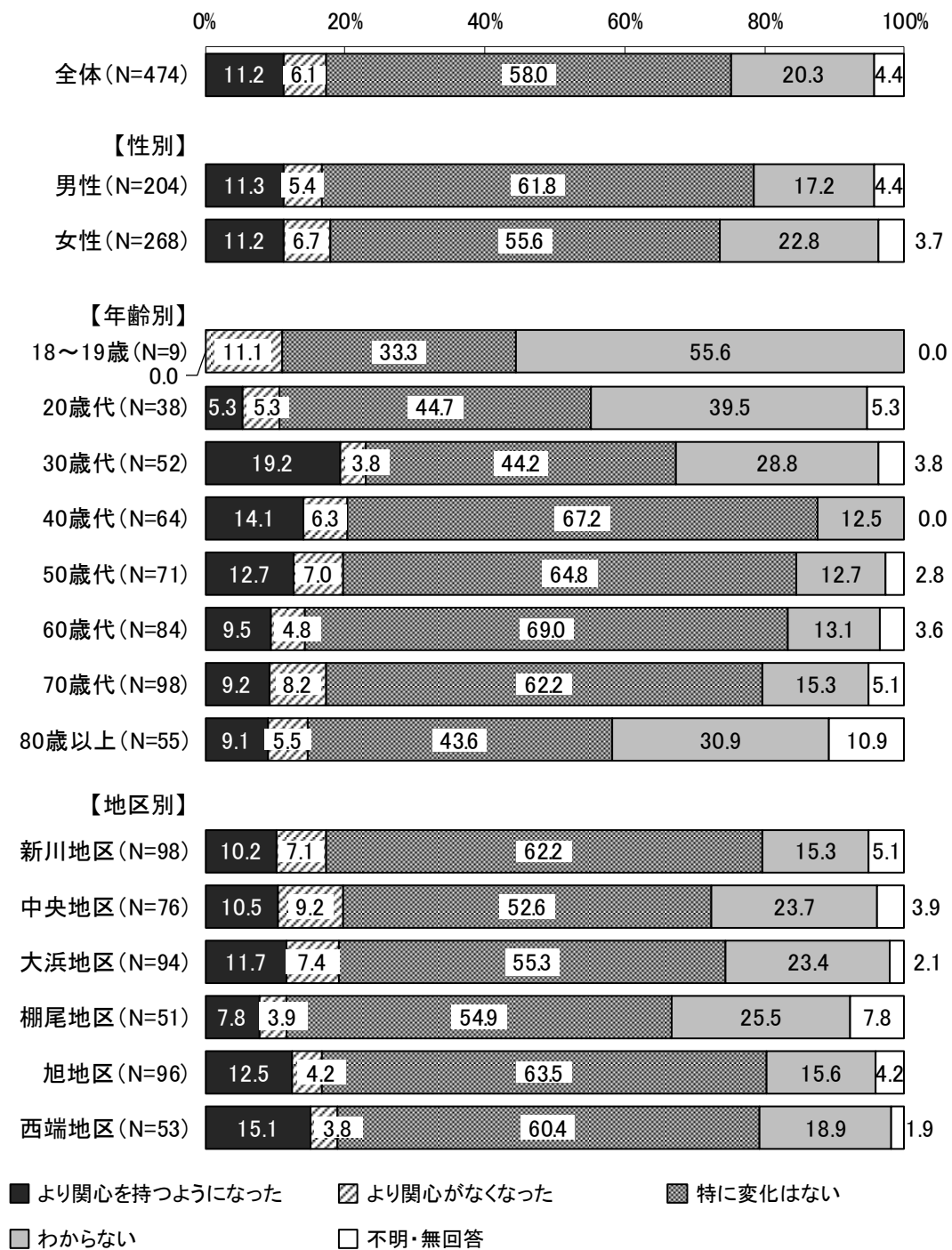
問11 あなたの地域の行事や活動についての関心は、以前と比べて（約5年前と比べて）どのように変化したと感じますか。（○は1つだけ）

全体では、「特に変化はない」が58.0%と最も高く、次いで「わからない」が20.3%、「より関心を持つようになった」が11.2%となっています。

性別でみると、男女ともに大差はみられません。

年齢別でみると、20歳代、30歳代及び80歳以上で「わからない」、また、30歳代では「より関心を持つようになった」が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、いずれの地区でも大差はみられません。



問12 福祉分野について、関心があるのはどのようなことについてですか。（あてはまるものすべてに○）

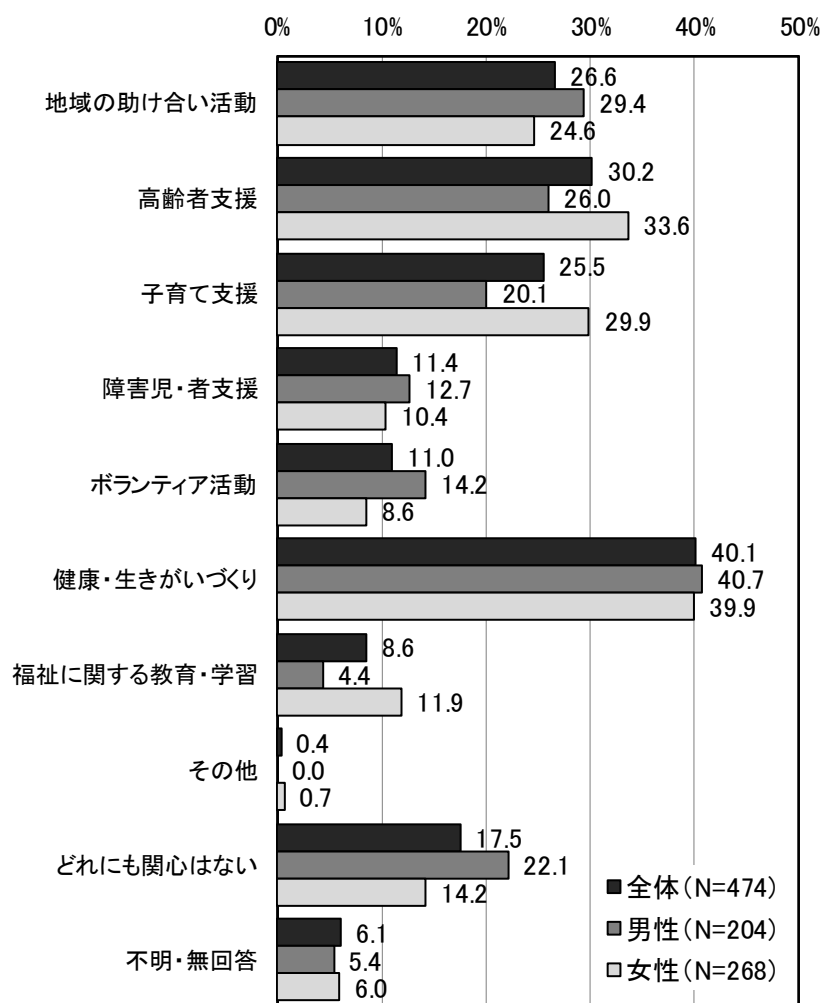
全体では、「健康・生きがいづくり」が40.1%と最も高く、次いで「高齢者支援」が30.2%、「地域の助け合い活動」が26.6%となっています。

性別でみると、女性で「子育て支援」「高齢者支援」「福祉に関する教育・学習」が男性と比べて高くなっています。一方、男性では「どれにも関心はない」「ボランティア活動」が女性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、30歳代で「子育て支援」、50歳代及び80歳以上で「高齢者支援」が、他の年齢と比べて高くなっています。また、40歳以上で年齢があがるにつれ「健康・生きがいづくり」が高くなる傾向がみられます。

地区別でみると、新川地区で「高齢者支援」、中央地区で「子育て支援」、棚尾地区で「子育て支援」「障害児・者支援」、西端地区で「高齢者支援」「健康・生きがいづくり」が、他の地区と比べて高くなっています。

世帯構成別でみると、祖父母と親と子（3世代世帯）で「子育て支援」が40.5%と、他の家族構成と比べて高くなっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

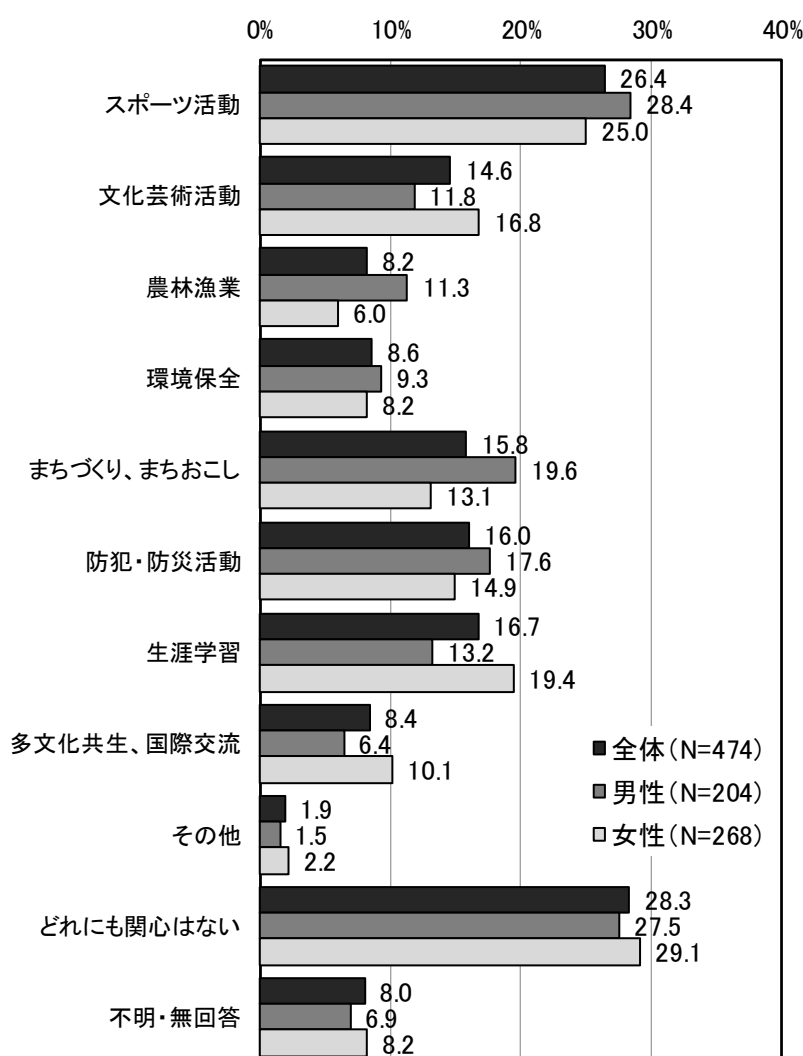
区分	N=	地域の助け合い活動	高齢者支援	子育て支援	障害児・者支援	ボランティア活動	健康・生きがいづくり	福祉に関する教育・学習	その他	どれにも関心はない	不明・無回答
【年齢別】											
18～19 歳	9	11.1	22.2	33.3	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	44.4	11.1
20 歳代	38	18.4	18.4	44.7	2.6	7.9	26.3	5.3	0.0	23.7	5.3
30 歳代	52	25.0	23.1	69.2	11.5	11.5	11.5	11.5	0.0	17.3	3.8
40 歳代	64	28.1	25.0	35.9	12.5	7.8	37.5	10.9	0.0	26.6	0.0
50 歳代	71	21.1	40.8	16.9	16.9	15.5	40.8	16.9	1.4	11.3	2.8
60 歳代	84	34.5	25.0	17.9	20.2	14.3	46.4	7.1	0.0	16.7	6.0
70 歳代	98	30.6	27.6	5.1	7.1	10.2	53.1	5.1	1.0	16.3	8.2
80 歳以上	55	23.6	50.9	14.5	5.5	7.3	50.9	3.6	0.0	10.9	14.5
【地区別】											
新川地区	98	32.7	36.7	21.4	10.2	16.3	43.9	4.1	1.0	16.3	7.1
中央地区	76	27.6	28.9	34.2	9.2	13.2	35.5	10.5	1.3	15.8	2.6
大浜地区	94	24.5	28.7	21.3	9.6	3.2	34.0	8.5	0.0	23.4	5.3
棚尾地区	51	27.5	21.6	37.3	23.5	7.8	39.2	11.8	0.0	11.8	9.8
旭地区	96	25.0	26.0	25.0	8.3	13.5	40.6	10.4	0.0	14.6	6.3
西端地区	53	20.8	39.6	18.9	13.2	9.4	52.8	9.4	0.0	22.6	1.9
【世帯構成別】											
単身世帯(1人)	48	16.7	35.4	14.6	8.3	4.2	37.5	6.3	2.1	16.7	8.3
夫婦だけ (1世代世帯)	104	24.0	27.9	16.3	12.5	10.6	41.3	5.8	1.0	26.9	2.9
親と子 (2世代世帯)	222	29.3	27.9	27.9	11.3	13.1	37.8	8.6	0.0	15.8	7.7
祖父母と親と子 (3世代世帯)	74	24.3	36.5	40.5	8.1	12.2	39.2	9.5	0.0	12.2	5.4
その他の世帯	22	40.9	31.8	18.2	27.3	4.5	59.1	18.2	0.0	13.6	0.0

**問13 福祉以外の以下の分野で、関心があることや参加してみたい活動はありますか。
(現在活動しているものも含みます) (あてはまるものすべてに○)**

全体では、「どれにも関心はない」が28.3%と最も高く、次いで「スポーツ活動」が26.4%、「生涯学習」が16.7%となっています。

性別でみると、男性で「まちづくり、まちおこし」「農林漁業」が女性と比べて高くなっています。一方、女性では「生涯学習」「文化芸術活動」が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、20歳代及び80歳以上で「どれにも関心はない」、30歳代で「スポーツ活動」、50歳代で「防犯・防災活動」、60歳代及び70歳代で「生涯学習」が、他の年齢と比べて高くなっています。地区別でみると、新川地区で「文化芸術活動」、中央地区で「まちづくり、まちおこし」、旭地区で「生涯学習」が、他の地区と比べて高くなっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	スポーツ活動	文化芸術活動	農林漁業	環境保全	まちづくり、 まちおこし	防犯・防災活動	生涯学習	国際交流 多文化共生、	その他	どれも はない	不明・無回答
【年齢別】												
18～19 歳	9	44.4	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0	44.4	0.0
20 歳代	38	18.4	5.3	10.5	13.2	15.8	15.8	2.6	18.4	0.0	39.5	7.9
30 歳代	52	40.4	15.4	15.4	5.8	17.3	15.4	13.5	13.5	1.9	28.8	3.8
40 歳代	64	32.8	12.5	4.7	7.8	20.3	17.2	12.5	6.3	1.6	31.3	0.0
50 歳代	71	25.4	22.5	9.9	9.9	18.3	23.9	16.9	16.9	1.4	21.1	4.2
60 歳代	84	27.4	21.4	10.7	6.0	19.0	10.7	26.2	6.0	0.0	26.2	6.0
70 歳代	98	22.4	11.2	4.1	10.2	12.2	14.3	22.4	2.0	4.1	21.4	16.3
80 歳以上	55	14.5	10.9	5.5	10.9	10.9	16.4	10.9	1.8	3.6	40.0	14.5
【地区別】												
新川地区	98	29.6	21.4	4.1	10.2	17.3	14.3	16.3	4.1	3.1	24.5	9.2
中央地区	76	31.6	14.5	10.5	7.9	21.1	14.5	15.8	13.2	1.3	28.9	6.6
大浜地区	94	18.1	13.8	8.5	6.4	14.9	17.0	12.8	5.3	2.1	34.0	6.4
棚尾地区	51	29.4	11.8	9.8	9.8	15.7	13.7	19.6	9.8	2.0	21.6	11.8
旭地区	96	27.1	10.4	6.3	7.3	12.5	17.7	24.0	8.3	2.1	27.1	7.3
西端地区	53	26.4	15.1	13.2	11.3	13.2	20.8	11.3	13.2	0.0	32.1	3.8

問14 あなたは、自分にとって必要な福祉サービスの情報をどの程度入手できていますか。（○は1つだけ）

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『できている』 …「十分できている」と「まあまあできている」の合算

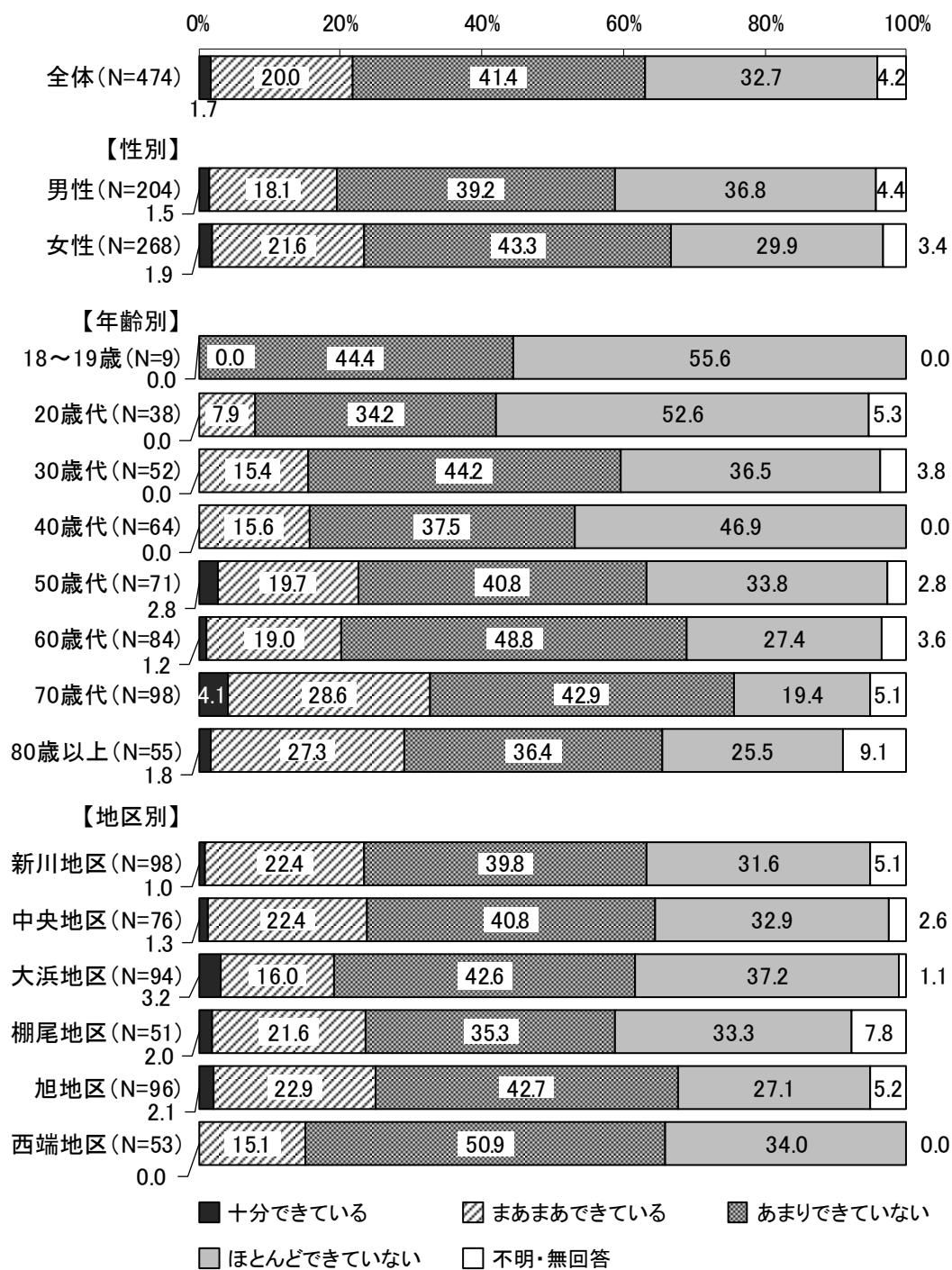
『できていない』 …「あまりできていない」と「ほとんどできていない」の合算

全体では、『できている』が21.7%、『できていない』が74.1%となっています。

性別でみると、『できていない』が男性で76.0%、女性で73.2%となっています。

年齢別でみると、70歳以上で『できている』が他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、西端地区で『できていない』が84.9%と、他の地区と比べて高くなっています。



<問14で「1 十分にできている」または「2 まあまあできている」と答えた方のみ>

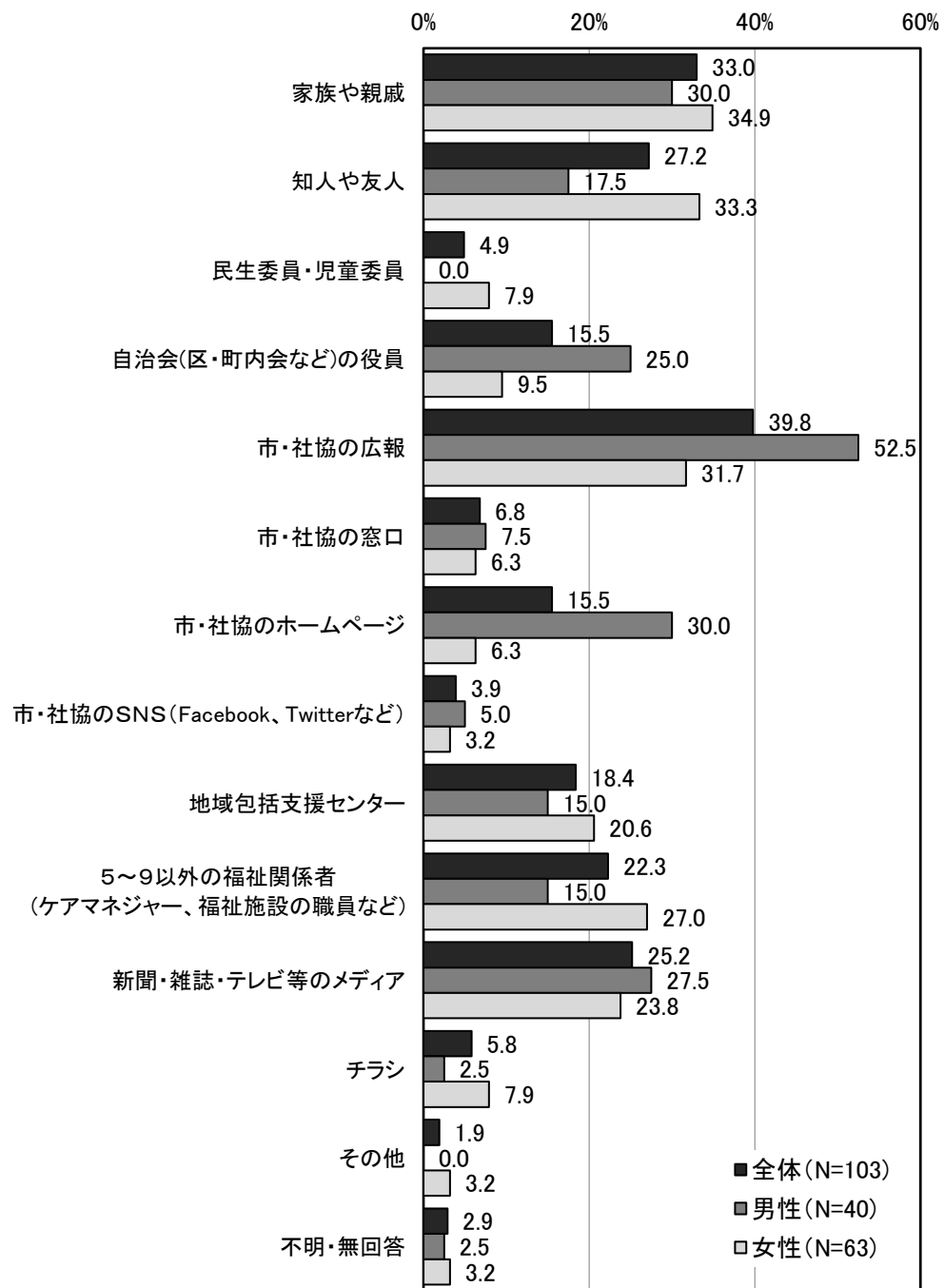
問15 福祉の制度・サービスについての情報は主にどこから入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

全体では、「市・社協の広報」が39.8%と最も高く、次いで「家族や親戚」が33.0%、「知人や友人」が27.2%となっています。

性別でみると、男性で「市・社協のホームページ」「市・社協の広報」が女性と比べて高くなっています。一方、女性では「知人や友人」「5～9以外の福祉関係者(ケアマネジャー、福祉施設の職員など)」が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、70歳以上で「家族や親戚」が他の年齢と比べて高くなっています。また、70歳以上では「市・社協のホームページ」が他の年齢と比べて低くなっています。

地区別でみると、大浜地区で「家族や親戚」、新川地区で「自治会(区・町内会など)の役員」「新聞・雑誌・テレビ等のメディア」、棚尾地区で「5～9以外の福祉関係者(ケアマネジャー、福祉施設の職員など)」が、他の地区と比べて高くなっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	家族や親戚	知人や友人	民生委員・児童委員	自治会区・町内会などの役員	市・社協の広報	市・社協の窓口	市・社協のホームページ	市・社協のSNS（Facebook、Twitterなど）	地域包括支援センター	55歳以上の福祉関係者（ケアマネジャー、福祉施設の職員など）
【年齢別】											
20歳代	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
30歳代	8	37.5	37.5	12.5	0.0	50.0	0.0	25.0	25.0	12.5	0.0
40歳代	10	40.0	30.0	0.0	10.0	60.0	0.0	30.0	10.0	0.0	0.0
50歳代	16	18.8	25.0	0.0	6.3	37.5	18.8	25.0	0.0	25.0	50.0
60歳代	17	17.6	17.6	0.0	17.6	41.2	5.9	23.5	5.9	11.8	23.5
70歳代	32	40.6	40.6	6.3	21.9	43.8	3.1	3.1	0.0	18.8	25.0
80歳以上	16	37.5	12.5	12.5	25.0	18.8	12.5	0.0	0.0	31.3	12.5
【地区別】											
新川地区	23	21.7	13.0	13.0	30.4	43.5	4.3	21.7	4.3	8.7	21.7
中央地区	18	33.3	33.3	0.0	22.2	33.3	11.1	5.6	0.0	22.2	22.2
大浜地区	18	50.0	27.8	5.6	0.0	38.9	11.1	11.1	5.6	16.7	22.2
棚尾地区	12	41.7	33.3	8.3	8.3	25.0	8.3	16.7	8.3	8.3	33.3
旭地区	24	25.0	33.3	0.0	16.7	41.7	4.2	16.7	4.2	25.0	16.7
西端地区	8	37.5	25.0	0.0	0.0	62.5	0.0	25.0	0.0	37.5	25.0

区分	N=	新聞・雑誌・テレビ等のメディア	チラシ	その他	不明・無回答
【年齢別】					
20歳代	3	0.0	0.0	33.3	0.0
30歳代	8	12.5	25.0	12.5	0.0
40歳代	10	30.0	20.0	0.0	0.0
50歳代	16	12.5	6.3	0.0	0.0
60歳代	17	35.3	0.0	0.0	0.0
70歳代	32	37.5	3.1	0.0	3.1
80歳以上	16	12.5	0.0	0.0	12.5
【地区別】					
新川地区	23	34.8	0.0	0.0	4.3
中央地区	18	16.7	5.6	5.6	5.6
大浜地区	18	27.8	5.6	0.0	0.0
棚尾地区	12	25.0	8.3	8.3	0.0
旭地区	24	20.8	8.3	0.0	4.2
西端地区	8	25.0	12.5	0.0	0.0

※年齢別の「18～19歳」については、回答が0であったため、掲載していません。

4 日常生活の中の課題について

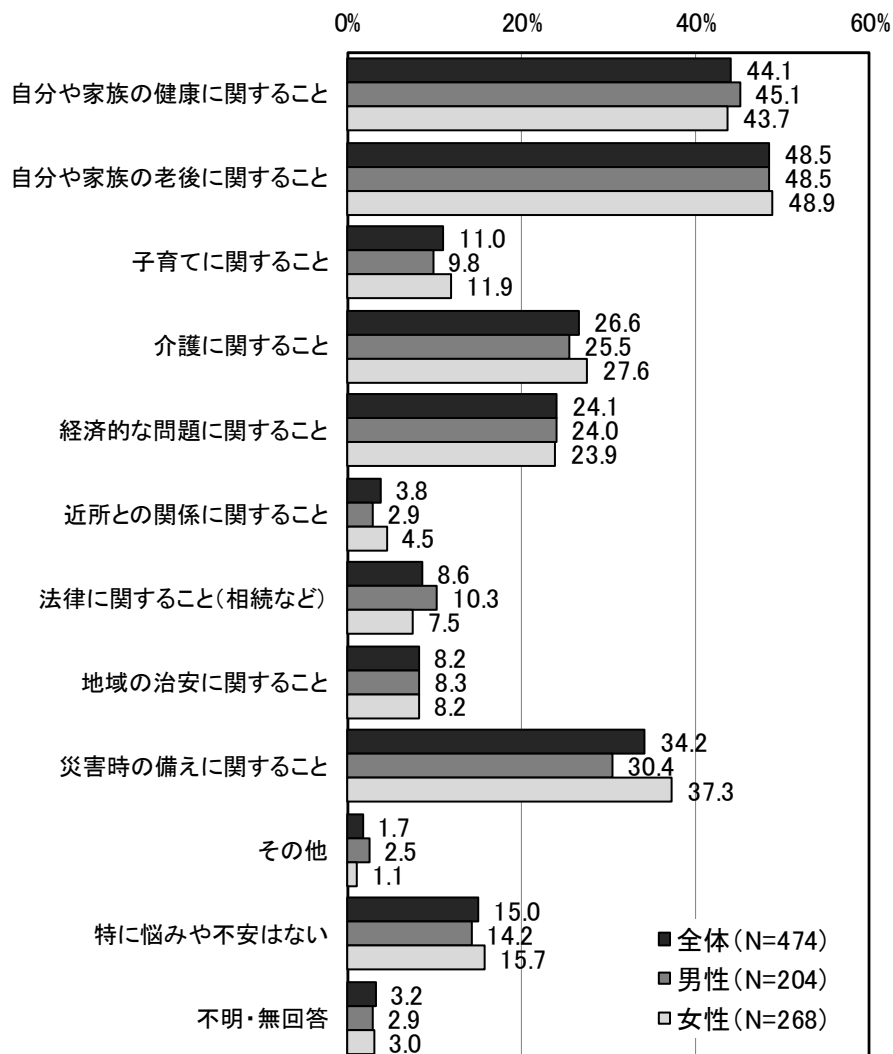
問16 あなた、あるいはご家族は現在、日常生活において、主にどのようなことに悩みや不安を感じていますか。（あてはまるものすべてに○）

全体では、「自分や家族の老後に関すること」が 48.5%と最も高く、次いで「自分や家族の健康に関すること」が 44.1%、「災害時の備えに関すること」が 34.2%となっています。

性別でみると、女性で「災害時の備えに関すること」が 37.3%と、男性と比べて 6.9 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、30 歳代で「子育てに関すること」「災害時の備えに関すること」、40 歳代～60 歳代で「自分や家族の老後に関すること」、80 歳以上で「介護に関すること」が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、中央地区で「自分や家族の健康に関すること」、新川地区で「介護に関すること」、旭地区で「災害時の備えに関すること」が、他の地区と比べて高くなっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N =	自分や家族の健康に関すること	自分や家族の老後に関すること	子育てに関すること	介護に関すること	経済的な問題に関すること	近所との関係に関すること	法律に関すること（相続など）	地域の治安に関すること	災害時の備えに関すること	その他	特に悩みや不安はない	不明・無回答
【年齢別】													
18～19 歳	9	33.3	22.2	11.1	11.1	33.3	0.0	0.0	0.0	44.4	0.0	33.3	0.0
20 歳代	38	23.7	31.6	21.1	15.8	34.2	2.6	5.3	15.8	39.5	0.0	28.9	0.0
30 歳代	52	36.5	38.5	36.5	11.5	30.8	5.8	7.7	7.7	46.2	0.0	3.8	3.8
40 歳代	64	42.2	60.9	18.8	23.4	31.3	9.4	4.7	9.4	39.1	1.6	12.5	0.0
50 歳代	71	50.7	56.3	5.6	35.2	23.9	4.2	9.9	8.5	40.8	5.6	4.2	4.2
60 歳代	84	39.3	52.4	6.0	19.0	22.6	3.6	8.3	11.9	34.5	2.4	19.0	4.8
70 歳代	98	53.1	46.9	0.0	32.7	14.3	2.0	13.3	6.1	25.5	0.0	18.4	3.1
80 歳以上	55	52.7	47.3	1.8	45.5	20.0	0.0	9.1	1.8	18.2	1.8	18.2	3.6
【地区別】													
新川地区	98	44.9	53.1	7.1	34.7	29.6	5.1	11.2	6.1	28.6	0.0	18.4	3.1
中央地区	76	56.6	40.8	15.8	18.4	23.7	2.6	5.3	11.8	35.5	1.3	17.1	1.3
大浜地区	94	38.3	41.5	5.3	26.6	19.1	2.1	9.6	11.7	31.9	2.1	17.0	4.3
棚尾地区	51	29.4	47.1	13.7	25.5	21.6	5.9	9.8	3.9	27.5	3.9	15.7	5.9
旭地区	96	45.8	56.3	15.6	27.1	26.0	6.3	7.3	8.3	44.8	3.1	7.3	1.0
西端地区	53	49.1	54.7	9.4	26.4	20.8	0.0	9.4	5.7	35.8	0.0	13.2	3.8

問17 あなたは、生活上の悩みや不安を、主に誰（どこ）に相談していますか。（あてはまるものすべてに○）

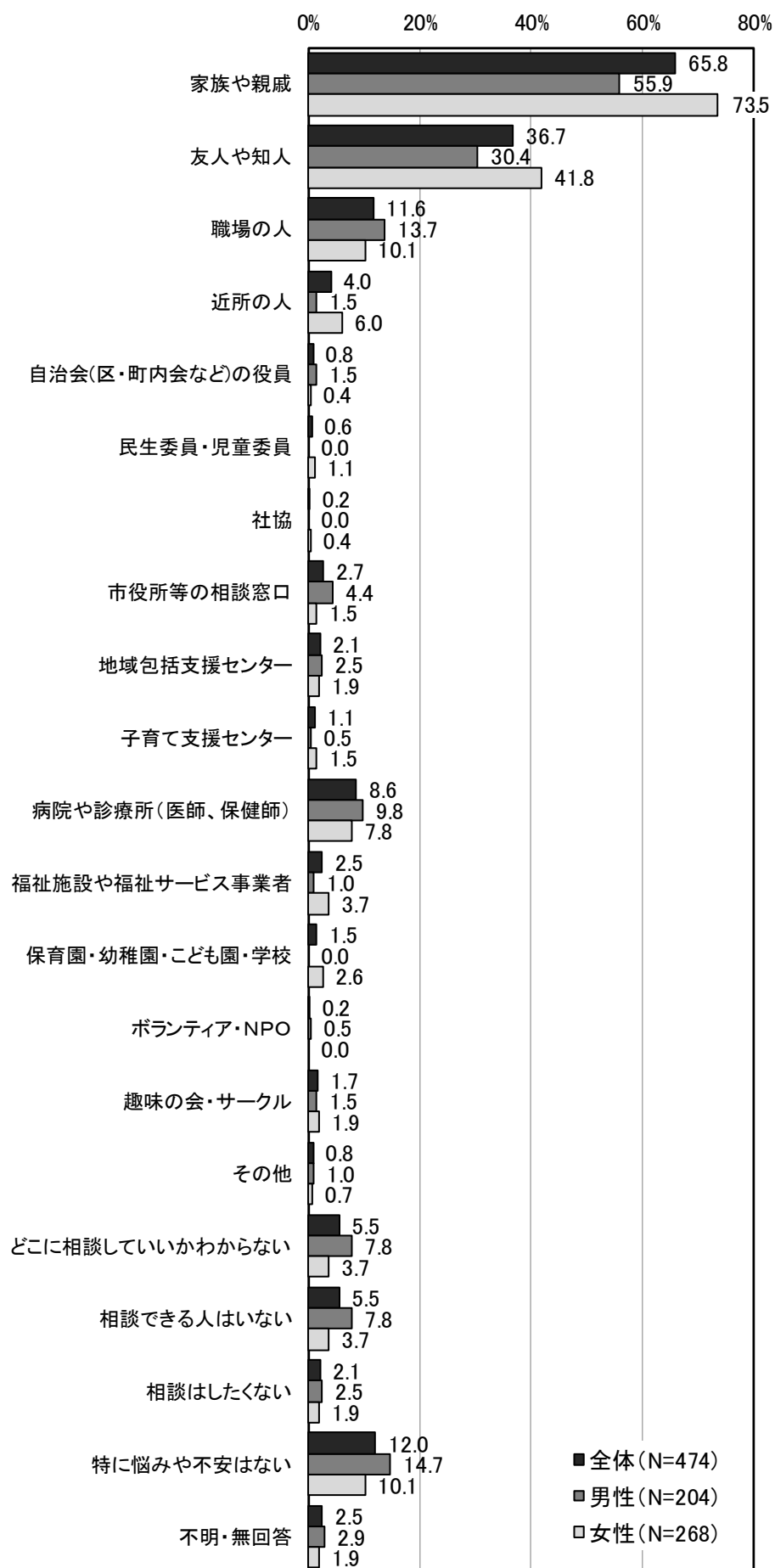
全体では、「家族や親戚」が65.8％と最も高く、次いで「友人や知人」が36.7％、「特に悩みや不安はない」が12.0％となっています。

性別でみると、女性で「家族や親戚」「友人や知人」が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、30 歳代～60 歳代及び80 歳以上で「どこに相談していいかわからない」、40 歳代～60 歳代及び80 歳以上で「相談できる人はいない」がそれぞれ5.0％以上となっています。

地区別でみると、旭地区で「どこに相談していいかわからない」「相談できる人はいない」が、他の地区と比べて高くなっています。

世帯構成別でみると、単身世帯（1 人）及びその他の世帯で「相談できる人はいない」が1 割以上となっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	家族や親戚	友人や知人	職場の人	近所の人	内会（区・町内会など）の	自治会（区・町民生委員・児童委員	社協	談窓口	市役所等の相	地域包括支援センター	子育て支援センター	病院や診療所（医師、保健師）
【年齢別】													
18～19 歳	9	66.7	33.3	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代	38	71.1	60.5	23.7	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0
30 歳代	52	88.5	51.9	21.2	5.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8	3.8
40 歳代	64	73.4	37.5	29.7	3.1	0.0	0.0	0.0	1.6	1.6	1.6	0.0	0.0
50 歳代	71	62.0	43.7	12.7	1.4	1.4	0.0	0.0	2.8	1.4	0.0	0.0	5.6
60 歳代	84	51.2	25.0	4.8	4.8	2.4	2.4	0.0	2.4	1.2	0.0	0.0	7.1
70 歳代	98	64.3	34.7	1.0	5.1	1.0	1.0	1.0	3.1	4.1	0.0	0.0	19.4
80 歳以上	55	63.6	20.0	0.0	5.5	0.0	0.0	0.0	5.5	5.5	0.0	0.0	18.2
【地区別】													
新川地区	98	65.3	37.8	15.3	4.1	0.0	1.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	10.2
中央地区	76	69.7	31.6	5.3	7.9	1.3	1.3	0.0	1.3	3.9	0.0	0.0	10.5
大浜地区	94	62.8	37.2	11.7	1.1	0.0	0.0	0.0	4.3	1.1	1.1	1.1	4.3
棚尾地区	51	66.7	39.2	15.7	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	7.8
旭地区	96	64.6	38.5	12.5	4.2	1.0	0.0	0.0	3.1	2.1	3.1	3.1	8.3
西端地区	53	71.7	37.7	9.4	5.7	1.9	0.0	0.0	5.7	3.8	0.0	0.0	11.3
【世帯構成別】													
単身世帯（1人）	48	50.0	35.4	16.7	2.1	0.0	2.1	0.0	2.1	2.1	0.0	0.0	10.4
夫婦だけ（1世代世帯）	104	67.3	27.9	5.8	2.9	0.0	1.0	0.0	1.9	3.8	1.0	1.0	5.8
親と子（2世代世帯）	222	68.5	40.5	12.6	5.0	1.4	0.0	0.5	3.2	1.4	1.4	1.4	9.5
祖父母と親と子（3世代世帯）	74	73.0	40.5	13.5	4.1	1.4	1.4	0.0	4.1	2.7	1.4	1.4	9.5
その他の世帯	22	50.0	31.8	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1

区分	N=	福祉施設や福祉サービス事業者	保育園・幼稚園・こども園・学校	NPO	ボランティア・サークル	趣味の会・サ	その他	どこに相談していいかわからない	相談できる人はいない	相談はしたくない	特に悩みや不安はない	不明・無回答
【年齢別】												
18～19 歳	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0
20 歳代	38	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	2.6	2.6	0.0	7.9	0.0	0.0
30 歳代	52	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	1.9	0.0	1.9	3.8	0.0
40 歳代	64	0.0	4.7	0.0	0.0	1.6	6.3	7.8	1.6	9.4	0.0	0.0
50 歳代	71	4.2	0.0	1.4	1.4	1.4	5.6	7.0	1.4	5.6	2.8	0.0
60 歳代	84	3.6	0.0	0.0	1.2	0.0	6.0	9.5	3.6	16.7	3.6	0.0
70 歳代	98	4.1	0.0	0.0	5.1	0.0	4.1	2.0	2.0	19.4	2.0	0.0
80 歳以上	55	3.6	0.0	0.0	1.8	1.8	7.3	7.3	3.6	16.4	3.6	0.0
【地区別】												
新川地区	98	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	3.1	4.1	4.1	13.3	2.0	0.0
中央地区	76	5.3	2.6	0.0	1.3	1.3	5.3	1.3	1.3	10.5	1.3	0.0
大浜地区	94	1.1	1.1	1.1	0.0	0.0	6.4	5.3	3.2	12.8	2.1	0.0
棚尾地区	51	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	3.9	5.9	2.0	13.7	5.9	0.0
旭地区	96	5.2	2.1	0.0	2.1	3.1	8.3	10.4	0.0	9.4	2.1	0.0
西端地区	53	3.8	0.0	0.0	5.7	0.0	5.7	5.7	1.9	11.3	1.9	0.0
【世帯構成別】												
単身世帯（1人）	48	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	10.4	0.0	16.7	0.0	0.0
夫婦だけ（1世代世帯）	104	2.9	0.0	0.0	1.9	0.0	5.8	1.0	1.9	16.3	1.9	0.0
親と子（2世代世帯）	222	1.8	2.7	0.0	0.5	1.4	5.4	6.3	1.8	10.4	2.3	0.0
祖父母と親と子（3世代世帯）	74	2.7	1.4	1.4	4.1	1.4	4.1	4.1	4.1	9.5	1.4	0.0
その他の世帯	22	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	13.6	4.5	9.1	9.1	0.0

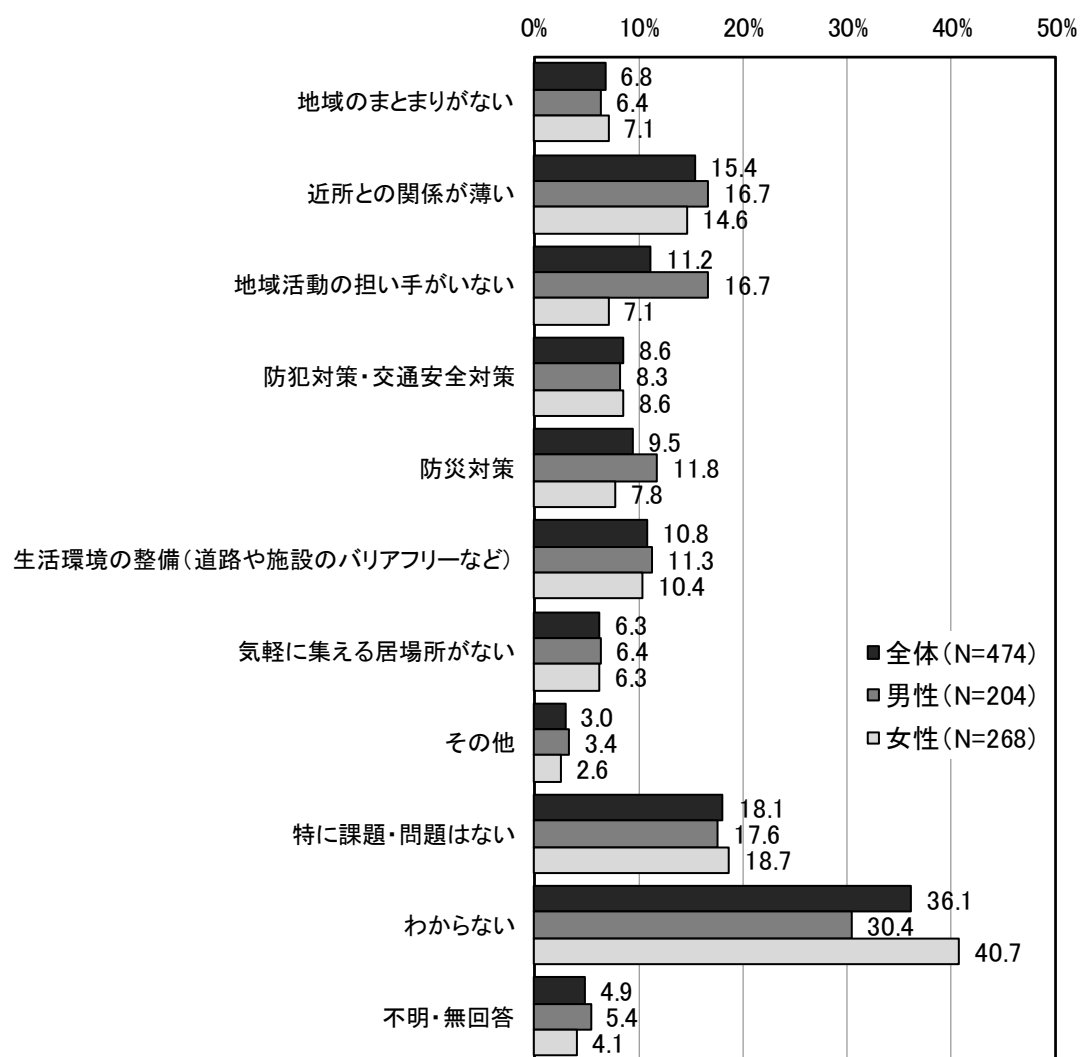
問18 あなたが住んでいる地域には、どのような課題・問題がありますか。（あてはまるものすべてに○）

全体では、「わからない」が36.1%と最も高く、次いで「特に課題・問題はない」が18.1%、「近所との関係が薄い」が15.4%となっています。

性別でみると、男性で「地域活動の担い手がいない」が16.7%と、女性と比べて9.6ポイント高くなっています。一方、女性では「わからない」が40.7%と、男性と比べて10.3ポイント高くなっています。

年齢別でみると、20歳代で「わからない」、30歳代で「防犯対策・交通安全対策」「わからない」、50歳代及び60歳代で「地域活動の担い手がいない」、60歳代及び70歳代で「近所との関係が薄い」が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、棚尾地区、中央地区及び西端地区で「近所との関係が薄い」、旭地区及び西端地区で「地域活動の担い手がいない」が、他の地区と比べて高くなっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	地域のまとまりがない	近所との関係が薄い	い 地域活動の担い手がいな	防犯対策・交通安全対策	防災対策	生活環境の整備（道路や 施設のバリアフリーなど）	い 気軽に集える居場所がな	その他	特に課題・問題はない	わからない	不明・無回答
【年齢別】												
18～19 歳	9	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	22.2	44.4	0.0
20 歳代	38	5.3	13.2	5.3	5.3	7.9	10.5	10.5	5.3	15.8	52.6	0.0
30 歳代	52	7.7	11.5	1.9	19.2	9.6	9.6	0.0	1.9	5.8	50.0	7.7
40 歳代	64	3.1	6.3	3.1	9.4	10.9	17.2	3.1	4.7	15.6	42.2	0.0
50 歳代	71	5.6	14.1	18.3	5.6	12.7	8.5	8.5	5.6	12.7	42.3	4.2
60 歳代	84	13.1	20.2	21.4	9.5	10.7	11.9	7.1	1.2	19.0	26.2	4.8
70 歳代	98	6.1	21.4	11.2	6.1	6.1	7.1	6.1	3.1	27.6	24.5	6.1
80 歳以上	55	5.5	16.4	9.1	7.3	10.9	9.1	9.1	0.0	23.6	32.7	9.1
【地区別】												
新川地区	98	9.2	14.3	11.2	9.2	11.2	11.2	4.1	4.1	19.4	39.8	3.1
中央地区	76	7.9	19.7	7.9	7.9	5.3	9.2	5.3	2.6	17.1	43.4	2.6
大浜地区	94	6.4	10.6	6.4	7.4	10.6	12.8	6.4	4.3	20.2	27.7	7.4
棚尾地区	51	7.8	19.6	11.8	11.8	9.8	13.7	5.9	0.0	17.6	33.3	5.9
旭地区	96	5.2	13.5	15.6	5.2	7.3	7.3	9.4	3.1	15.6	42.7	4.2
西端地区	53	3.8	18.9	17.0	11.3	13.2	13.2	7.5	0.0	18.9	26.4	3.8

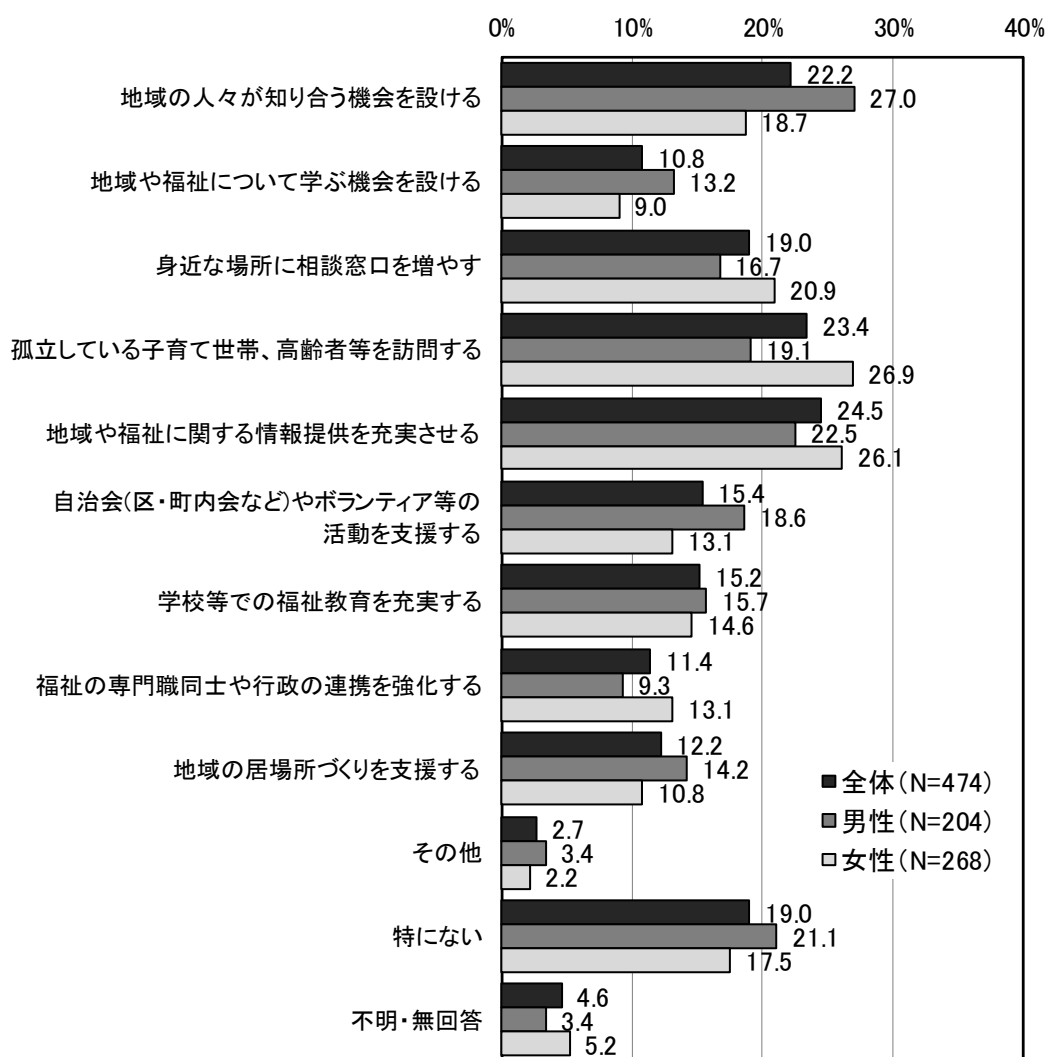
問19 碧南市で支え合う地域づくりを進めるために、行政（市）はどのような支援を行う必要があると思いますか。（〇は3つまで）

全体では、「地域や福祉に関する情報提供を充実させる」が24.5%と最も高く、次いで「孤立している子育て世帯、高齢者等を訪問する」が23.4%、「地域の人々が知り合う機会を設ける」が22.2%となっています。

性別でみると、男性で「地域の人々が知り合う機会を設ける」「自治会(区・町内会など)やボランティア等の活動を支援する」が女性と比べて高くなっています。一方、女性では「孤立している子育て世帯、高齢者等を訪問する」が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、20～40歳代で「学校等での福祉教育を充実する」、40～60歳代で「福祉の専門職同士や行政の連携を強化する」が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、旭地区で「地域や福祉に関する情報提供を充実させる」、西端地区で「地域の人々が知り合う機会を設ける」、新川地区で「孤立している子育て世帯、高齢者等を訪問する」が、他の地区と比べて高くなっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	地域の人々が知り合う機会を設ける	地域や福祉について学ぶ機会を設ける	身近な場所に相談窓口を増やす	孤立している子育て世帯・高齢者等を訪問する	地域や福祉に関する情報提供を充実させる	自治会・区・町内会などやボランティア等の活動を支援する	学校等での福祉教育を充実する	福祉の専門職同士や行政の連携を強化する	地域の居場所づくりを支援する	その他	特にない	不明・無回答
【年齢別】													
18～19 歳	9	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	55.6	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
20 歳代	38	10.5	7.9	7.9	26.3	18.4	5.3	26.3	5.3	15.8	2.6	28.9	2.6
30 歳代	52	28.8	9.6	17.3	26.9	19.2	11.5	26.9	9.6	13.5	1.9	9.6	3.8
40 歳代	64	21.9	10.9	25.0	29.7	26.6	12.5	25.0	17.2	10.9	3.1	10.9	0.0
50 歳代	71	16.9	16.9	25.4	32.4	22.5	15.5	14.1	15.5	12.7	8.5	9.9	2.8
60 歳代	84	25.0	9.5	15.5	22.6	32.1	21.4	10.7	15.5	14.3	2.4	19.0	3.6
70 歳代	98	27.6	11.2	17.3	17.3	27.6	21.4	6.1	8.2	12.2	0.0	24.5	6.1
80 歳以上	55	20.0	9.1	23.6	12.7	20.0	10.9	3.6	5.5	7.3	1.8	30.9	12.7
【地区別】													
新川地区	98	23.5	12.2	21.4	30.6	18.4	22.4	13.3	7.1	8.2	0.0	19.4	5.1
中央地区	76	23.7	13.2	14.5	19.7	23.7	15.8	21.1	7.9	10.5	6.6	15.8	2.6
大浜地区	94	21.3	7.4	19.1	20.2	20.2	9.6	16.0	11.7	14.9	3.2	23.4	3.2
棚尾地区	51	15.7	11.8	21.6	25.5	25.5	15.7	15.7	13.7	11.8	0.0	17.6	11.8
旭地区	96	19.8	10.4	17.7	21.9	36.5	13.5	16.7	13.5	13.5	3.1	17.7	2.1
西端地区	53	32.1	11.3	17.0	22.6	24.5	17.0	5.7	18.9	17.0	3.8	18.9	3.8

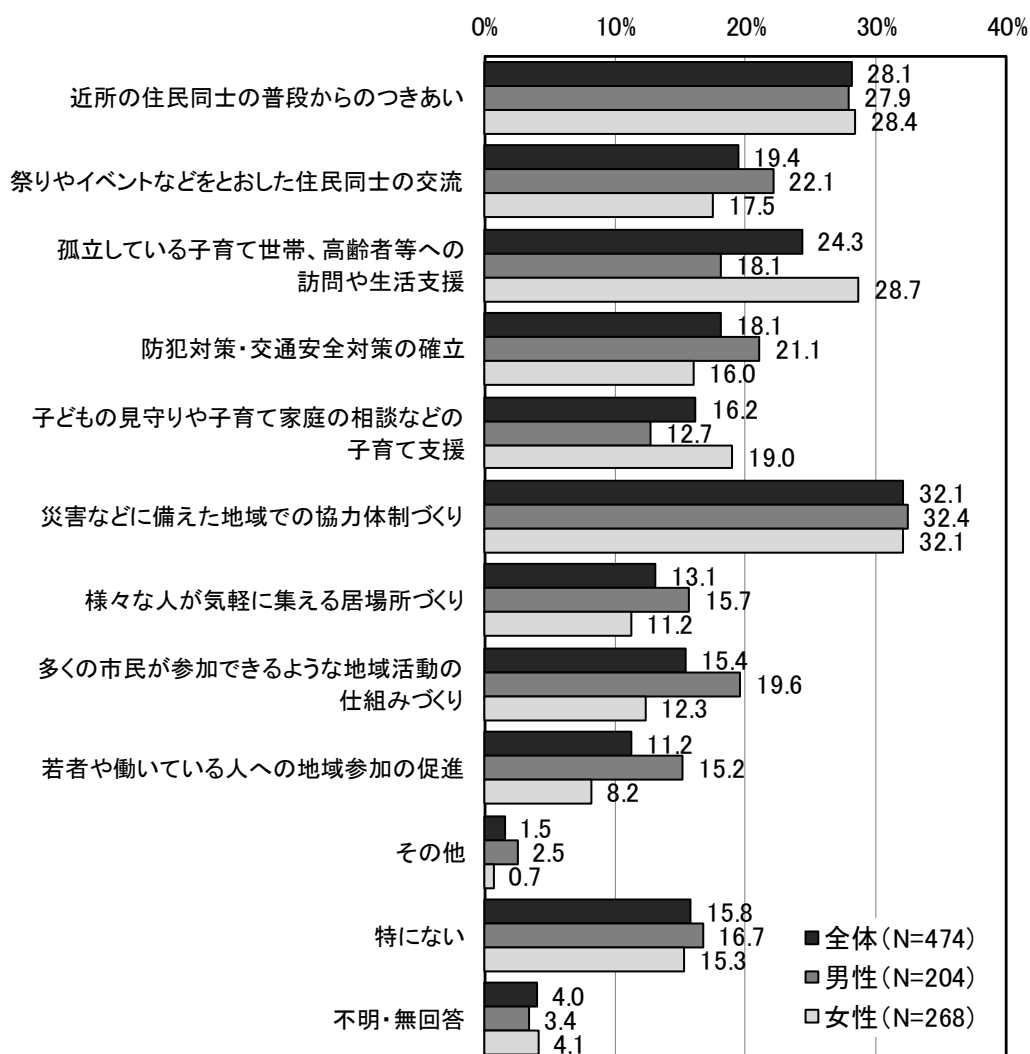
問20 碧南市で支え合う地域づくりを進めるために、地域としてどのようなことに取り組む必要があると思いますか。（〇は3つまで）

全体では、「災害などに備えた地域での協力体制づくり」が 32.1%と最も高く、次いで「近所の住民同士の普段からのつきあい」が 28.1%、「孤立している子育て世帯、高齢者等への訪問や生活支援」が 24.3%となっています。

性別でみると、女性で「孤立している子育て世帯、高齢者等への訪問や生活支援」「子どもの見守りや子育て家庭の相談などの子育て支援」が男性と比べて高くなっています。一方、男性では「多くの市民が参加できるような地域活動の仕組みづくり」「若者や働いている人への地域参加の促進」「防犯対策・交通安全対策の確立」が女性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、20歳代で「祭りやイベントなどをおとした住民同士の交流」、30歳代で「子どもの見守りや子育て家庭の相談などの子育て支援」、50歳代で「災害などに備えた地域での協力体制づくり」、80歳以上で「近所の住民同士の普段からのつきあい」が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、新川地区で「近所の住民同士の普段からのつきあい」「孤立している子育て世帯、高齢者等への訪問や生活支援」、西端地区で「災害などに備えた地域での協力体制づくり」「孤立している子育て世帯、高齢者等への訪問や生活支援」が、他の地区と比べて高くなっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	近所の住民同士の普段からのつきあい	住民同士の交流	祭りやイベントなどをとおした	者等への訪問や生活支援	孤立している子育て世帯、高齢	防犯対策・交通安全対策の確立	相談などの子育て支援	子どもの見守りや子育て家庭の	体制づくり	災害などに備えた地域での協力	様々な人が気軽に集える居場所づくり	多くの市民が参加できるような地域活動の	若者や働いている人への地域参加の促進	その他	特にな	不明・無回答
【年齢別】																	
18～19 歳	9	22.2	11.1	22.2	22.2	0.0	33.3	0.0	0.0	22.2	0.0	33.3	0.0				
20 歳代	38	18.4	28.9	23.7	18.4	34.2	34.2	10.5	15.8	21.1	0.0	18.4	0.0				
30 歳代	52	30.8	23.1	25.0	19.2	40.4	23.1	11.5	11.5	7.7	0.0	5.8	3.8				
40 歳代	64	15.6	23.4	31.3	26.6	21.9	39.1	7.8	18.8	7.8	1.6	14.1	0.0				
50 歳代	71	15.5	15.5	31.0	19.7	21.1	45.1	11.3	18.3	14.1	4.2	9.9	4.2				
60 歳代	84	35.7	20.2	20.2	19.0	8.3	28.6	19.0	14.3	15.5	1.2	16.7	3.6				
70 歳代	98	34.7	16.3	18.4	13.3	5.1	36.7	14.3	15.3	9.2	1.0	17.3	6.1				
80 歳以上	55	41.8	16.4	23.6	12.7	1.8	10.9	14.5	14.5	1.8	1.8	27.3	7.3				
【地区別】																	
新川地区	98	34.7	23.5	30.6	16.3	12.2	24.5	10.2	15.3	12.2	0.0	14.3	4.1				
中央地区	76	28.9	27.6	19.7	18.4	21.1	26.3	10.5	13.2	10.5	2.6	17.1	2.6				
大浜地区	94	23.4	20.2	22.3	21.3	19.1	31.9	13.8	9.6	8.5	1.1	17.0	3.2				
棚尾地区	51	21.6	13.7	19.6	19.6	13.7	35.3	13.7	17.6	13.7	0.0	17.6	9.8				
旭地区	96	28.1	15.6	22.9	17.7	12.5	36.5	15.6	19.8	12.5	4.2	14.6	1.0				
西端地区	53	28.3	11.3	32.1	17.0	20.8	45.3	17.0	18.9	11.3	0.0	15.1	3.8				

5 地域の助けあいについて

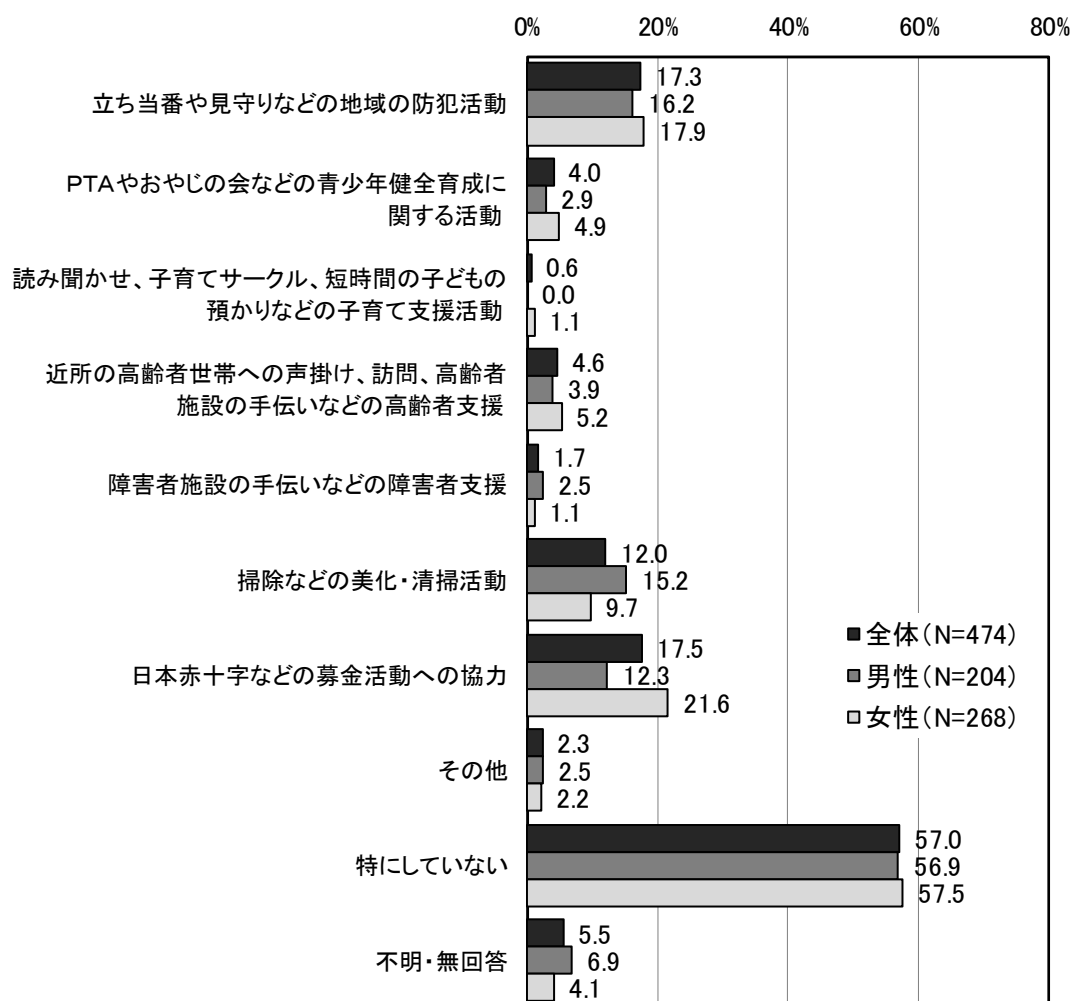
問21 あなたは日頃、以下のような地域の活動や、近所の人へのちょっとした手助けや協力などの助け合いをしていますか。（あてはまるものすべてに○）

全体では、「特にしていない」が 57.0%と最も高く、次いで「日本赤十字などの募金活動への協力」が 17.5%、「立ち当番や見守りなどの地域の防犯活動」が 17.3%となっています。

性別でみると、女性で「日本赤十字などの募金活動への協力」が 21.6%と、男性と比べて 9.3 ポイント高くなっています。一方、男性では「掃除などの美化・清掃活動」が 15.2%と、女性と比べて 5.5 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、20 歳代で「特にしていない」、40 歳代で「PTAやおやじの会などの青少年健全育成に関する活動」、60 歳代及び 70 歳代で「立ち当番や見守りなどの地域の防犯活動」が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、新川地区で「立ち当番や見守りなどの地域の防犯活動」、棚尾地区、旭地区及び西端地区で「掃除などの美化・清掃活動」が、他の地区と比べて高くなっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	立ち当番や見守りなどの地域の防犯活動	P.T.Aやおやじの会などの青少年健全育成に関する活動	読み聞かせ、子育てサークル、短時間の子ども預かりなどの子育て支援活動	近所の高齢者世帯への声掛け、訪問、高齢者施設の手伝いなどの高齢者支援	障害者施設の手伝いなどの障害者支援	掃除などの美化・清掃活動	日本赤十字などの募金活動への協力	その他	特にしていない	不明・無回答
【年齢別】											
18～19 歳	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
20 歳代	38	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	92.1	2.6
30 歳代	52	9.6	1.9	1.9	0.0	1.9	7.7	7.7	1.9	69.2	1.9
40 歳代	64	15.6	17.2	3.1	4.7	0.0	12.5	10.9	1.6	56.3	4.7
50 歳代	71	16.9	5.6	0.0	5.6	0.0	14.1	18.3	4.2	57.7	2.8
60 歳代	84	22.6	2.4	0.0	2.4	3.6	11.9	31.0	3.6	47.6	1.2
70 歳代	98	28.6	1.0	0.0	8.2	3.1	17.3	22.4	3.1	43.9	10.2
80 歳以上	55	14.5	0.0	0.0	9.1	1.8	14.5	16.4	0.0	52.7	10.9
【地区別】											
新川地区	98	22.4	2.0	0.0	5.1	2.0	8.2	23.5	1.0	55.1	4.1
中央地区	76	10.5	2.6	1.3	1.3	1.3	7.9	13.2	3.9	67.1	2.6
大浜地区	94	18.1	3.2	0.0	4.3	1.1	7.4	18.1	3.2	57.4	4.3
棚尾地区	51	19.6	3.9	2.0	5.9	5.9	21.6	21.6	2.0	51.0	7.8
旭地区	96	19.8	7.3	1.0	4.2	0.0	16.7	14.6	3.1	52.1	9.4
西端地区	53	9.4	5.7	0.0	9.4	1.9	17.0	13.2	0.0	60.4	3.8

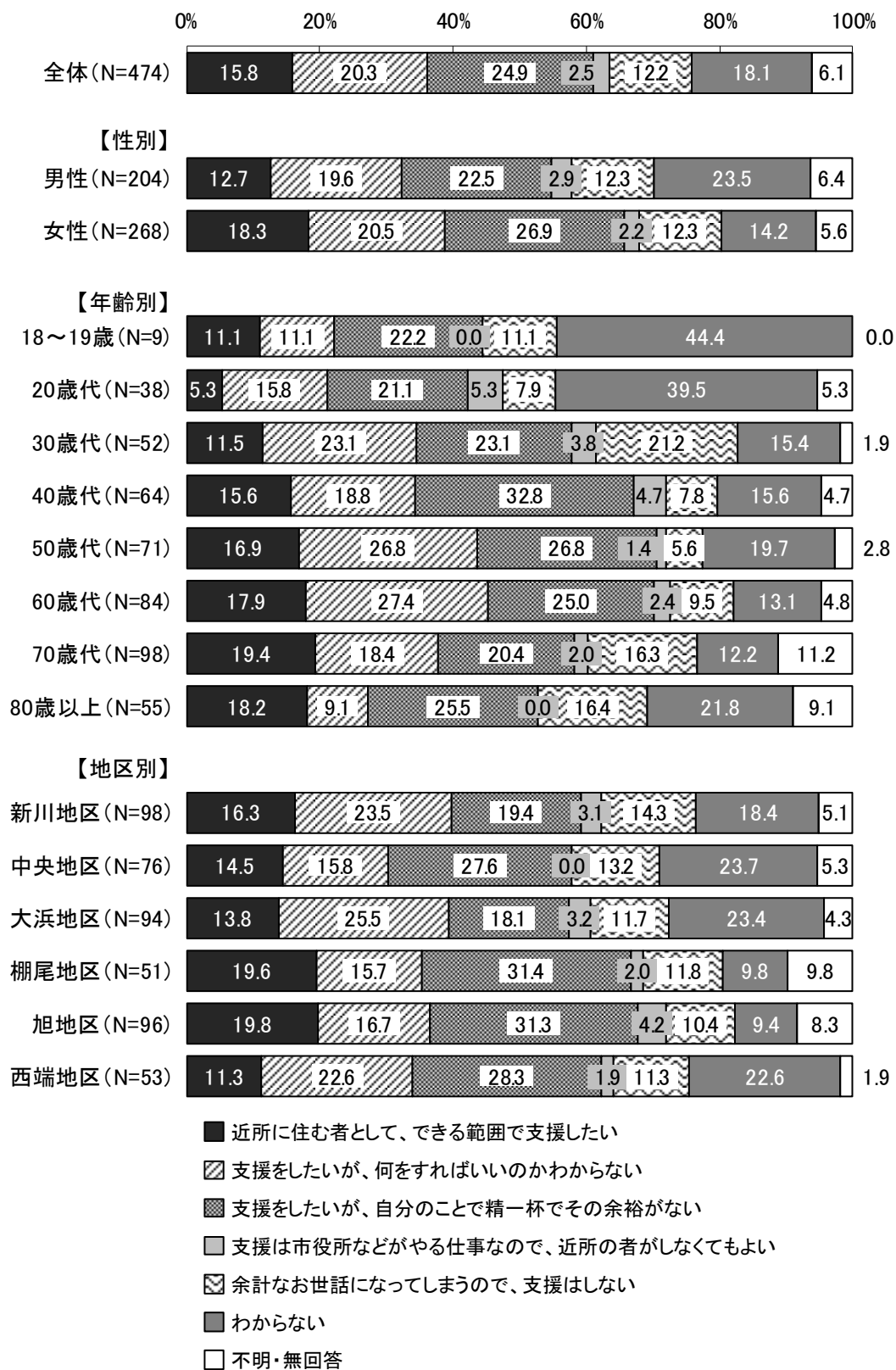
問22 ひとり暮らしの高齢者や、介護・子育てをしている家族など、何らかの支援が必要な方が近所にいる場合、日常生活上の手助けについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。（〇は1つだけ）

全体では、「支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない」が 24.9%と最も高く、次いで「支援をしたいが、何をすればいいのかわからない」が 20.3%、「わからない」が 18.1%となっています。

性別でみると、男性で「わからない」が 23.5%と、女性と比べて 9.3 ポイント高くなっています。一方、女性では「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」が 18.3%と、男性と比べて 5.6 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、20 歳代で「わからない」、30 歳代で「余計なお世話になってしまうので、支援はしない」、40 歳代で「支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない」が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、棚尾地区及び旭地区で「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」「支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない」、大浜地区、新川地区及び西端地区で「支援をしたいが、何をすればいいのかわからない」が、他の地区と比べて高くなっています。



問23 あなたが困ったとき、地域の方からの支援や協力を受けたいと思いますか。（○は1つだけ）

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『受けたい』 …「受けたい」と「どちらかと言えば受けたい」の合算

『受けたくない』 …「どちらかと言えば受けたくない」と「受けたくない」の合算

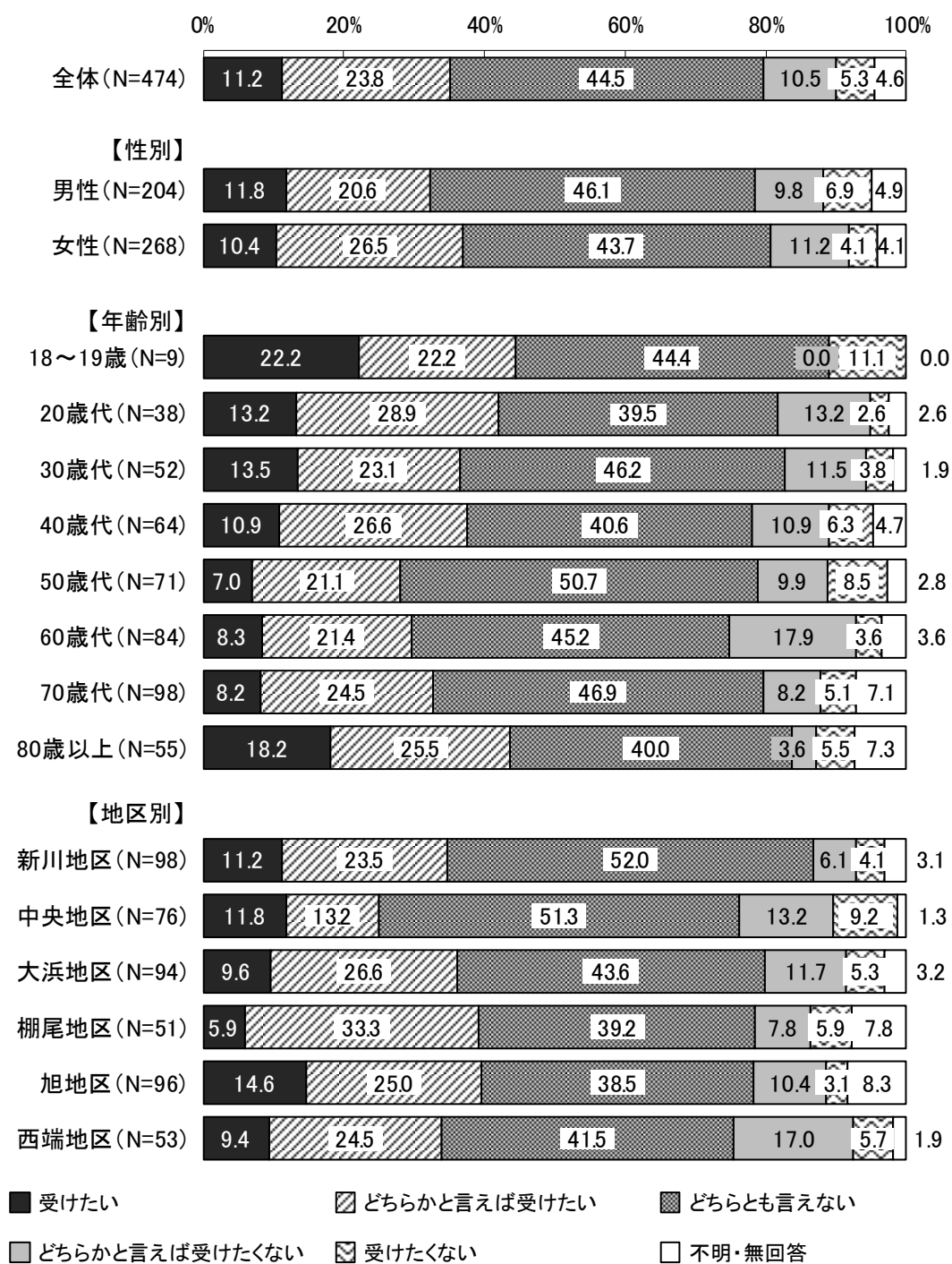
全体では、『受けたい』が35.0%、「どちらとも言えない」が44.5%、『受けたくない』が15.8%となっています。

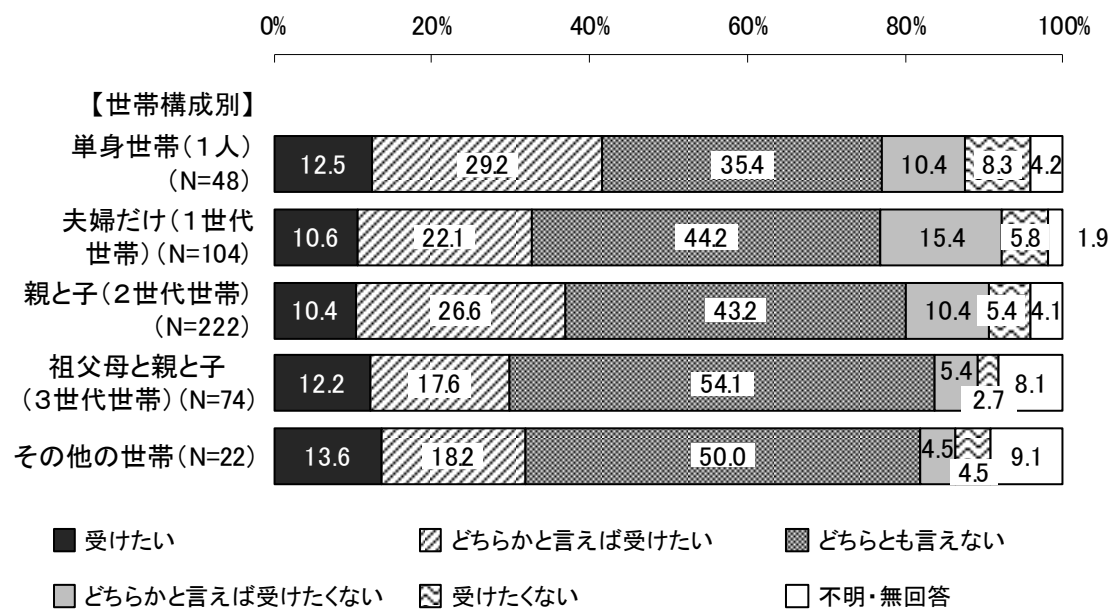
性別でみると、女性で『受けたい』が36.9%と、男性と比べて4.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、20歳代及び80歳代で『受けたい』が他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、中央地区で『受けたい』が25.0%と、他の地区と比べて低くなっています。

世帯構成別でみると、単身世帯（1人）で『受けたい』が41.7%と、他の世帯構成と比べて高くなっています。





<問23で「1 受けたい」または「2 どちらかと言えば受けたい」と答えた方のみ>

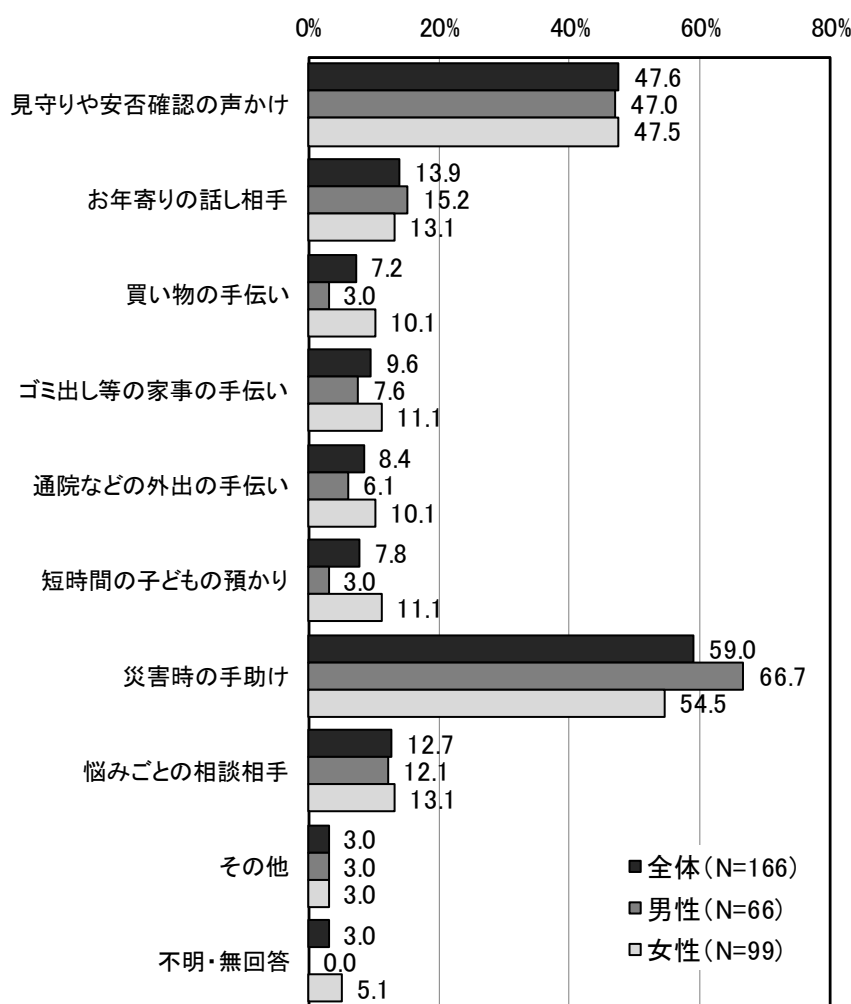
問24 あなたは、生活の中で、近所の人にどのような手助けや協力をしてほしいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

全体では、「災害時の手助け」が59.0%と最も高く、次いで「見守りや安否確認の声かけ」が47.6%、「お年寄りの話し相手」が13.9%となっています。

性別でみると、男性で「災害時の手助け」が女性と比べて高くなっています。一方、女性では「短時間の子どもの預かり」「買い物の手伝い」が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、30歳代で「短時間の子どもの預かり」、40歳代で「災害時の手助け」、80歳以上で「お年寄りの話し相手」「通院などの外出の手伝い」が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、旭地区で「災害時の手助け」、西端地区で「お年寄りの話し相手」が、他の地区と比べて高くなっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	見守りや 声かけ 安否確認の 相手	お年寄りの 話し相手	買い物の 手伝い	ゴミ出し 等の家事の 手伝い	通院など の外出の手 伝い	短時間の子 どもの預 かり	災害時の 手助け	悩みごと の相談相手	その他	不明・無 回答
【年齢別】											
18～19 歳	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0
20 歳代	16	50.0	0.0	6.3	0.0	0.0	12.5	62.5	6.3	6.3	6.3
30 歳代	19	36.8	5.3	0.0	5.3	5.3	31.6	63.2	15.8	0.0	0.0
40 歳代	24	45.8	12.5	4.2	4.2	8.3	8.3	79.2	12.5	0.0	0.0
50 歳代	20	55.0	20.0	10.0	15.0	15.0	10.0	60.0	15.0	0.0	5.0
60 歳代	25	56.0	16.0	8.0	8.0	8.0	0.0	56.0	20.0	12.0	4.0
70 歳代	32	43.8	9.4	9.4	15.6	0.0	0.0	56.3	6.3	0.0	0.0
80 歳以上	24	54.2	29.2	12.5	16.7	25.0	0.0	41.7	8.3	0.0	8.3
【地区別】											
新川地区	34	47.1	11.8	8.8	8.8	11.8	2.9	61.8	5.9	2.9	5.9
中央地区	19	36.8	15.8	5.3	5.3	0.0	15.8	57.9	21.1	10.5	0.0
大浜地区	34	47.1	11.8	5.9	11.8	0.0	8.8	55.9	14.7	2.9	2.9
棚尾地区	20	55.0	5.0	5.0	5.0	10.0	5.0	45.0	5.0	0.0	0.0
旭地区	38	50.0	15.8	10.5	10.5	15.8	13.2	68.4	18.4	2.6	2.6
西端地区	18	50.0	27.8	5.6	16.7	11.1	0.0	50.0	11.1	0.0	5.6

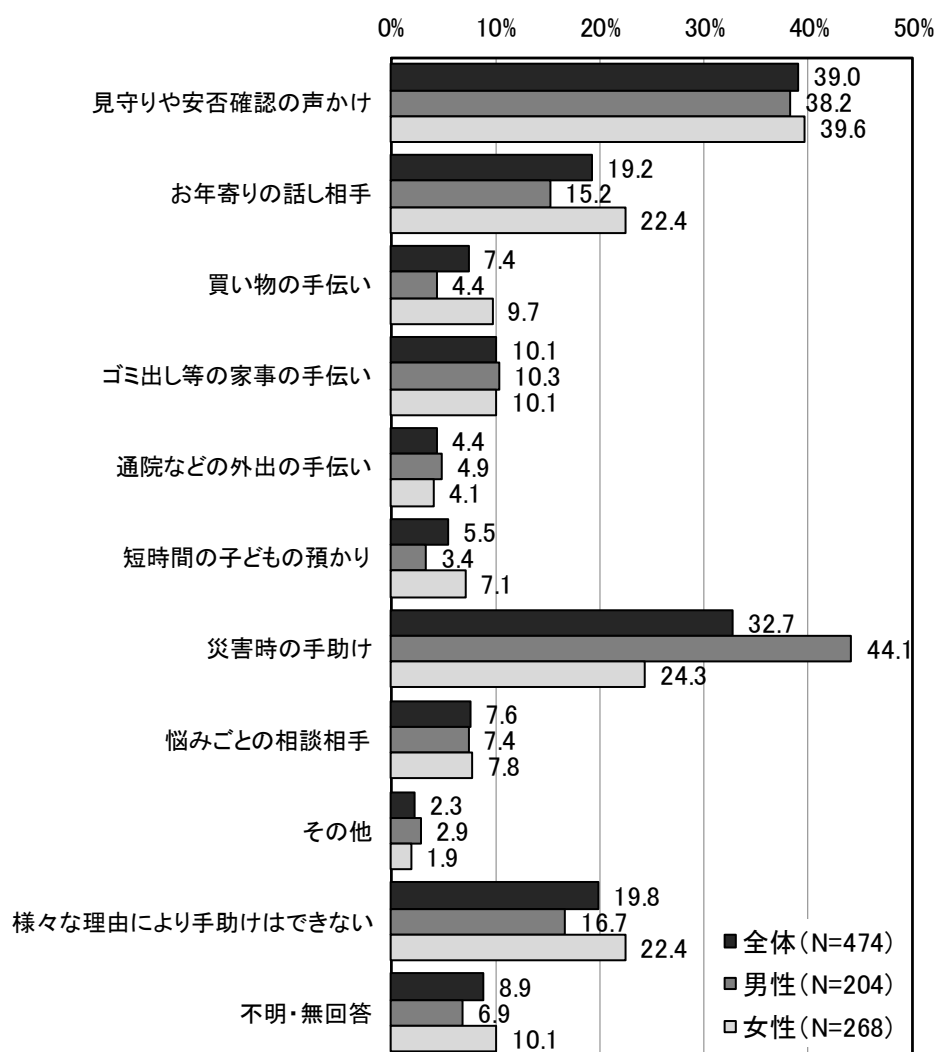
問25 あなたは、周囲の人の手助けや協力・支援が必要だと思われるご家庭に対して、どのような手助けができますか。（あてはまるものすべてに○）

全体では、「見守りや安否確認の声かけ」が39.0%と最も高く、次いで「災害時の手助け」が32.7%、「様々な理由により手助けはできない」が19.8%となっています。

性別でみると、男性で「災害時の手助け」が女性と比べて高くなっています。一方、女性では「お年寄りの話し相手」「様々な理由により手助けはできない」「買い物の手伝い」が男性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、20歳代、40歳代～50歳代で「災害時の手助け」、60歳代で「見守りや安否確認の声かけ」、70歳代で「ゴミ出し等の家事の手伝い」が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、棚尾地区で「見守りや安否確認の声かけ」、西端地区で「災害時の手助け」が、他の地区と比べて高くなっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	見守りや安全確認の声かけ	お年寄りの話し相手	買い物の手伝い	ゴミ出し等の家事の手伝い	通院などの外出の手伝い	短時間の子どもの預かり	災害時の手助け	悩みごとの相談相手	その他	様々な理由により手助けはできない	不明・無回答
【年齢別】												
18～19 歳	9	33.3	11.1	22.2	11.1	0.0	11.1	44.4	11.1	0.0	22.2	0.0
20 歳代	38	34.2	28.9	10.5	7.9	2.6	7.9	44.7	10.5	0.0	15.8	2.6
30 歳代	52	38.5	15.4	9.6	7.7	5.8	13.5	32.7	11.5	0.0	21.2	1.9
40 歳代	64	46.9	21.9	7.8	9.4	4.7	6.3	45.3	9.4	3.1	15.6	6.3
50 歳代	71	42.3	15.5	5.6	7.0	2.8	8.5	46.5	8.5	1.4	16.9	8.5
60 歳代	84	50.0	19.0	8.3	9.5	4.8	3.6	31.0	2.4	3.6	19.0	3.6
70 歳代	98	34.7	21.4	6.1	19.4	5.1	0.0	24.5	7.1	2.0	19.4	16.3
80 歳以上	55	21.8	16.4	3.6	3.6	5.5	1.8	9.1	5.5	5.5	32.7	18.2
【地区別】												
新川地区	98	37.8	17.3	9.2	10.2	5.1	1.0	36.7	2.0	3.1	19.4	7.1
中央地区	76	35.5	18.4	7.9	7.9	0.0	7.9	22.4	6.6	3.9	25.0	6.6
大浜地区	94	39.4	23.4	5.3	13.8	5.3	5.3	30.9	10.6	1.1	20.2	7.4
棚尾地区	51	49.0	19.6	7.8	7.8	5.9	9.8	33.3	5.9	0.0	15.7	9.8
旭地区	96	42.7	18.8	8.3	10.4	6.3	5.2	28.1	11.5	3.1	21.9	11.5
西端地区	53	32.1	18.9	3.8	9.4	3.8	7.5	52.8	7.5	1.9	13.2	9.4

6 災害時のことについて

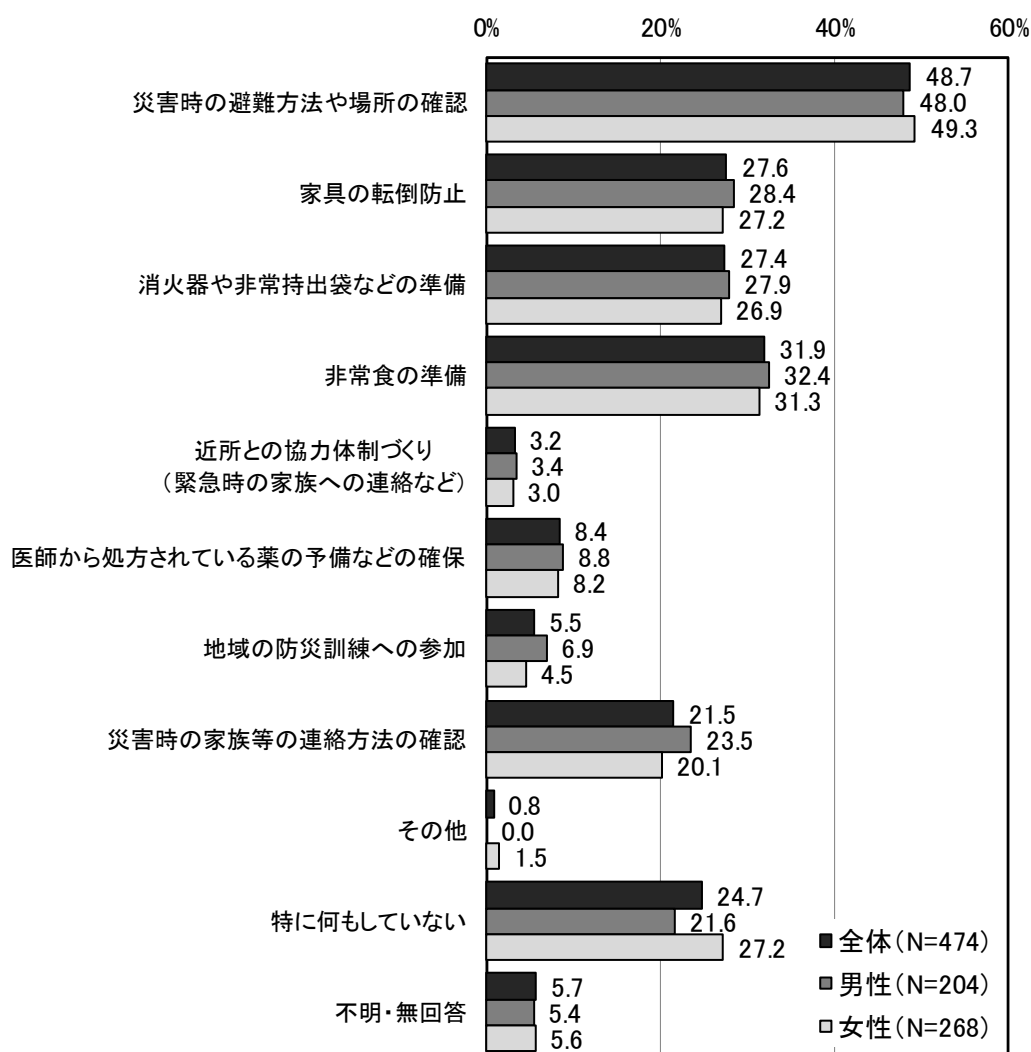
問26 あなたは普段から災害に備えてどのような対応をしていますか。（あてはまるものすべてに○）

全体では、「災害時の避難方法や場所の確認」が 48.7%と最も高く、次いで「非常食の準備」が 31.9%、「家具の転倒防止」が 27.6%となっています。

性別でみると、女性で「特に何もしていない」が 27.2%と、男性と比べて 5.6 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、20 歳代で「特に何もしていない」が 39.5%と、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、いずれの地区も「特に何もしていない」が 2 割以上、また「地域の防災訓練への参加」が 1 割未満となっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	災害時の避難方法や場所の確認	家具の転倒防止	消火器や非常持出袋などの準備	非常食の準備	近所との協力体制づくり緊急時の家族への連絡など	医師から処方されている薬の準備などの確保	地域の防災訓練への参加	災害時の家族等の連絡方法の確認	その他	特に何もしていない	不明・無回答
【年齢別】												
18～19 歳	9	44.4	11.1	11.1	33.3	0.0	0.0	0.0	44.4	0.0	44.4	0.0
20 歳代	38	23.7	5.3	13.2	34.2	0.0	0.0	5.3	26.3	0.0	39.5	2.6
30 歳代	52	50.0	11.5	19.2	32.7	1.9	1.9	1.9	13.5	0.0	30.8	1.9
40 歳代	64	53.1	39.1	39.1	35.9	0.0	4.7	3.1	17.2	0.0	20.3	4.7
50 歳代	71	59.2	35.2	29.6	31.0	2.8	9.9	5.6	31.0	1.4	16.9	4.2
60 歳代	84	53.6	35.7	38.1	36.9	1.2	7.1	7.1	15.5	0.0	17.9	2.4
70 歳代	98	49.0	28.6	24.5	26.5	5.1	15.3	10.2	25.5	2.0	24.5	11.2
80 歳以上	55	40.0	25.5	20.0	27.3	10.9	14.5	1.8	16.4	1.8	32.7	9.1
【地区別】												
新川地区	98	48.0	27.6	23.5	36.7	4.1	8.2	7.1	20.4	0.0	24.5	6.1
中央地区	76	51.3	21.1	31.6	34.2	2.6	6.6	2.6	28.9	0.0	25.0	1.3
大浜地区	94	44.7	30.9	30.9	29.8	2.1	7.4	5.3	13.8	2.1	26.6	4.3
棚尾地区	51	49.0	29.4	31.4	27.5	5.9	11.8	7.8	23.5	2.0	23.5	9.8
旭地区	96	54.2	27.1	24.0	30.2	2.1	11.5	5.2	19.8	0.0	22.9	6.3
西端地区	53	47.2	32.1	26.4	30.2	3.8	3.8	5.7	30.2	1.9	26.4	5.7

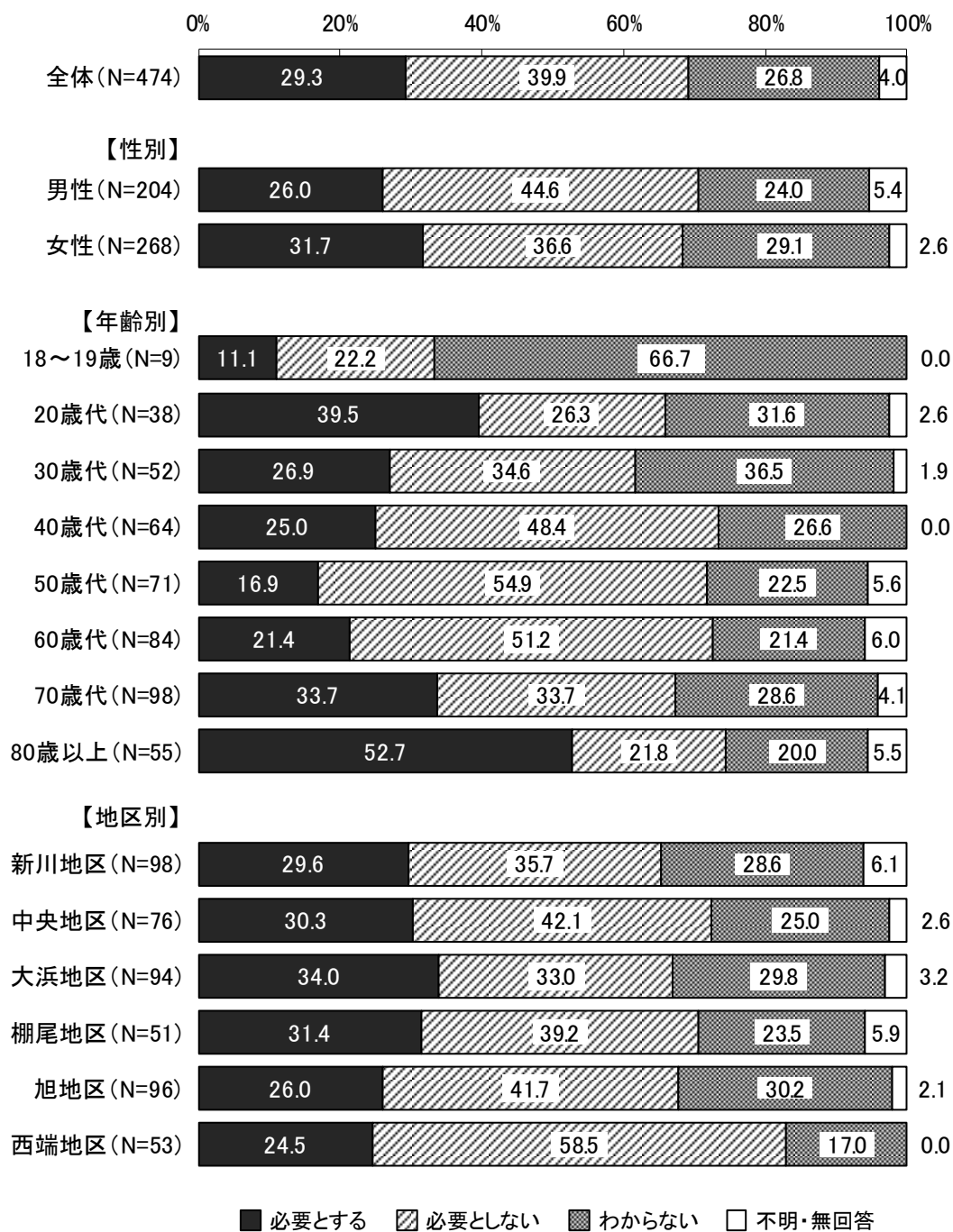
問27 あなたは、地震などの災害発生時に、避難場所までの移動や、災害時についての情報の入手等について、誰かの助けを必要としますか。（○は1つだけ）

全体では、「必要とする」が29.3%、「必要としない」が39.9%、「わからない」が26.8%となっています。

性別でみると、女性で「必要とする」が31.7%と、男性と比べて5.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、50歳以上で年齢があがるにつれ「必要とする」が高くなる傾向がみられますが、20歳代では「必要とする」が80歳以上に次いで高くなっています。

地区別でみると、西端地区で「必要としない」が58.5%と、他の地区と比べて高くなっています。



<問 27 で「1 必要とする」と答えた方のみ>

問28 あなたは、災害発生時に助けてもらえる人がいますか。（○は1つだけ）

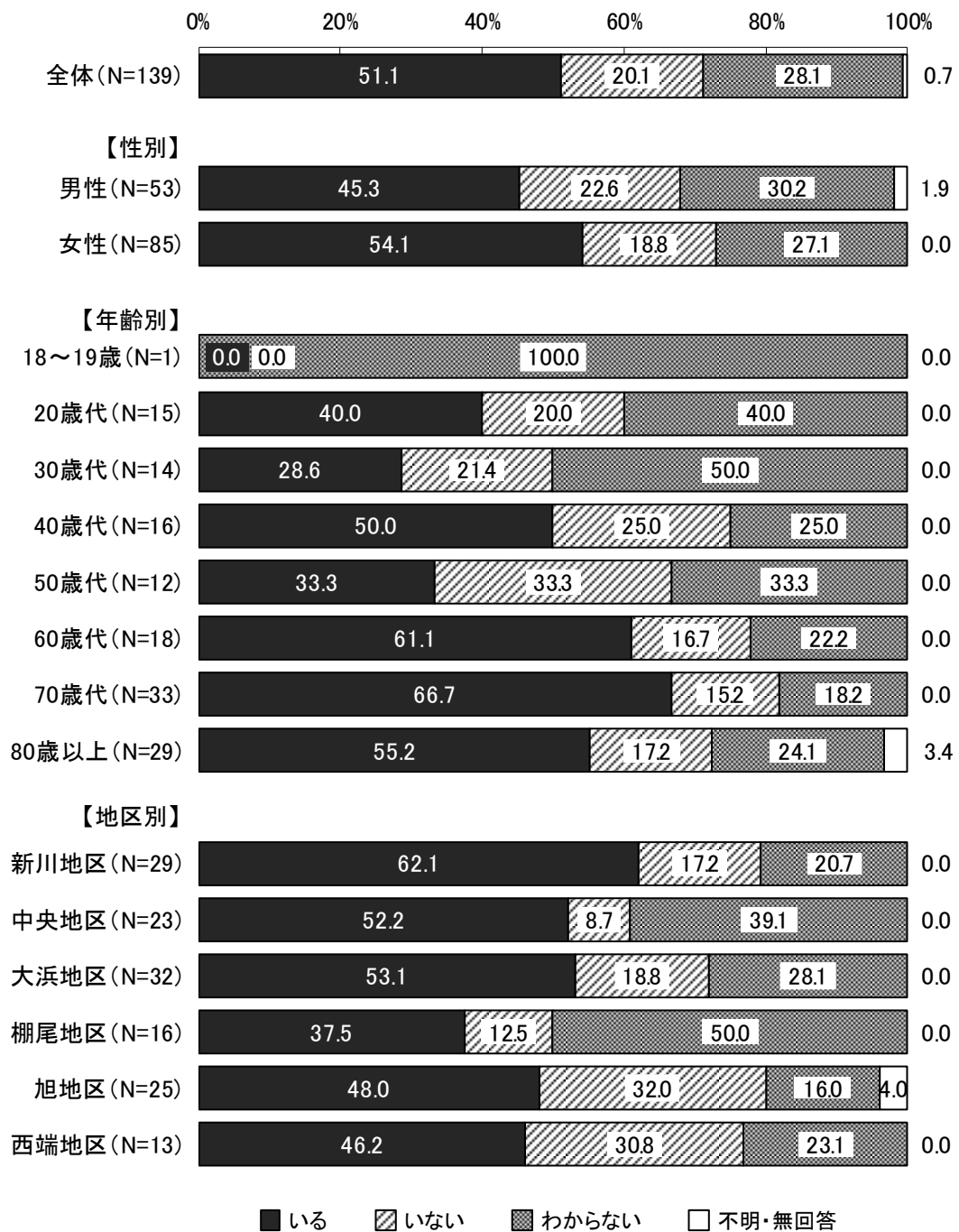
全体では、「いる」が51.1%、「いない」が20.1%、「わからない」が28.1%となっています。

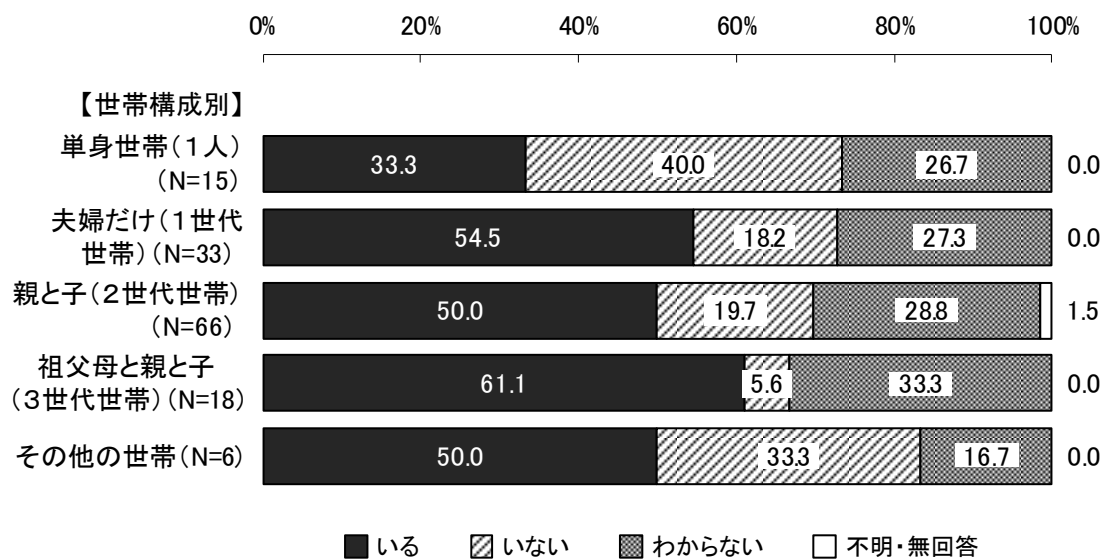
性別でみると、男性で「いない」「わからない」が女性と比べて高くなっています。

年齢別でみると、50歳代で「いない」が33.3%と、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、旭地区及び西端地区で「いない」、棚尾地区で「わからない」が、他の地区と比べて高くなっています。

世帯構成別でみると、単身世帯（1人）で「いない」が40.0%と、他の世帯構成と比べて高くなっています。





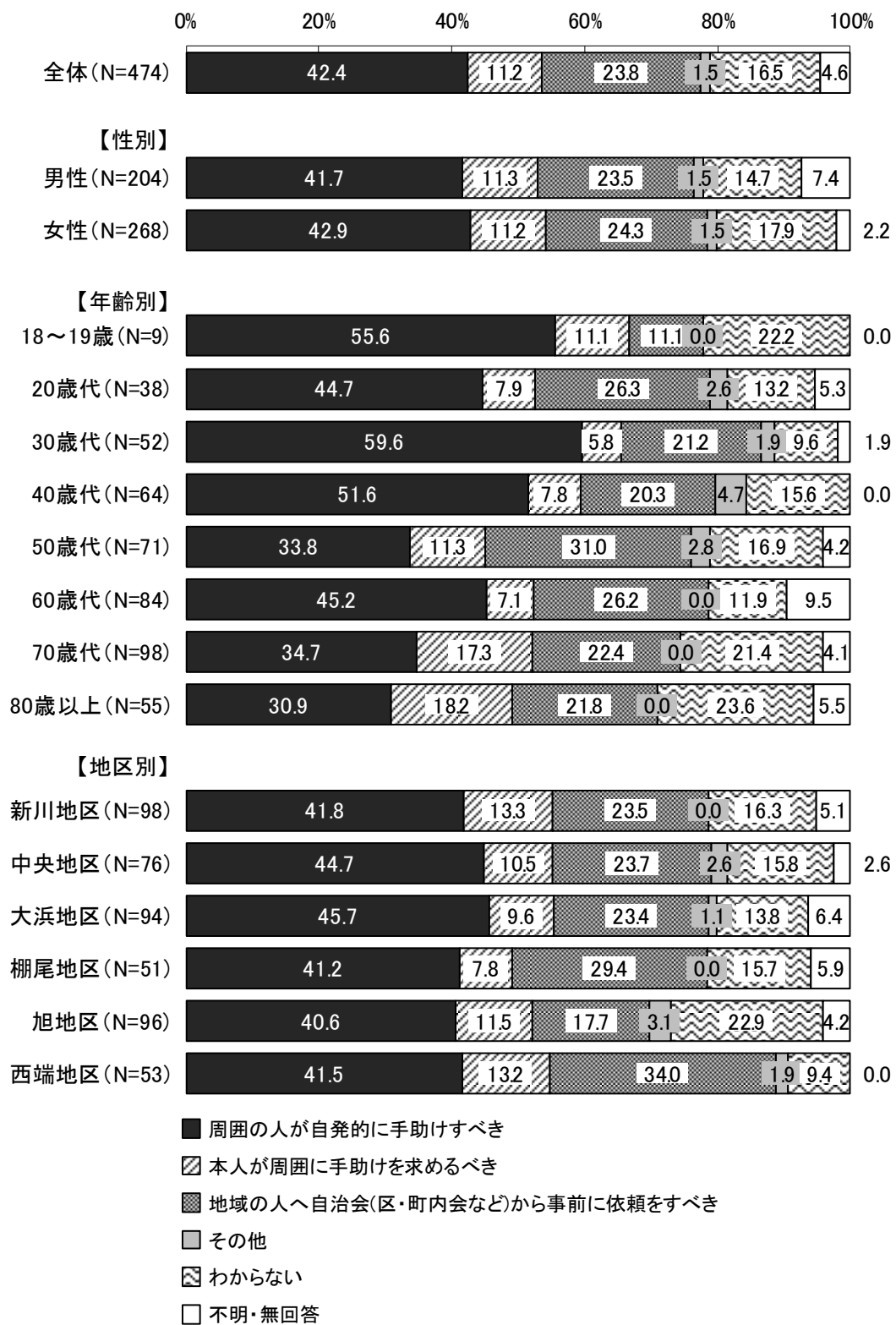
問29 あなたの近所では、自力で避難できない人や安否の不明な人がいたときに、どのような対応があるべきだと思いますか。(○は1つだけ)

全体では、「周囲の人が自発的に手助けすべき」が42.4%と最も高く、次いで「地域の人へ自治会(区・町内会など)から事前に依頼をすべき」が23.8%、「わからない」が16.5%となっています。

性別でみると、男女ともに大差はみられません。

年齢別でみると、30歳代で「周囲の人が自発的に手助けすべき」、50歳代で「地域の人へ自治会(区・町内会など)から事前に依頼をすべき」が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、西端地区で「地域の人へ自治会(区・町内会など)から事前に依頼をすべき」が34.0%と、他の地区と比べて高くなっています。



7 福祉のまちづくりについて

問30 あなたの碧南市の福祉行政全般について、満足していますか。（○は1つだけ）

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

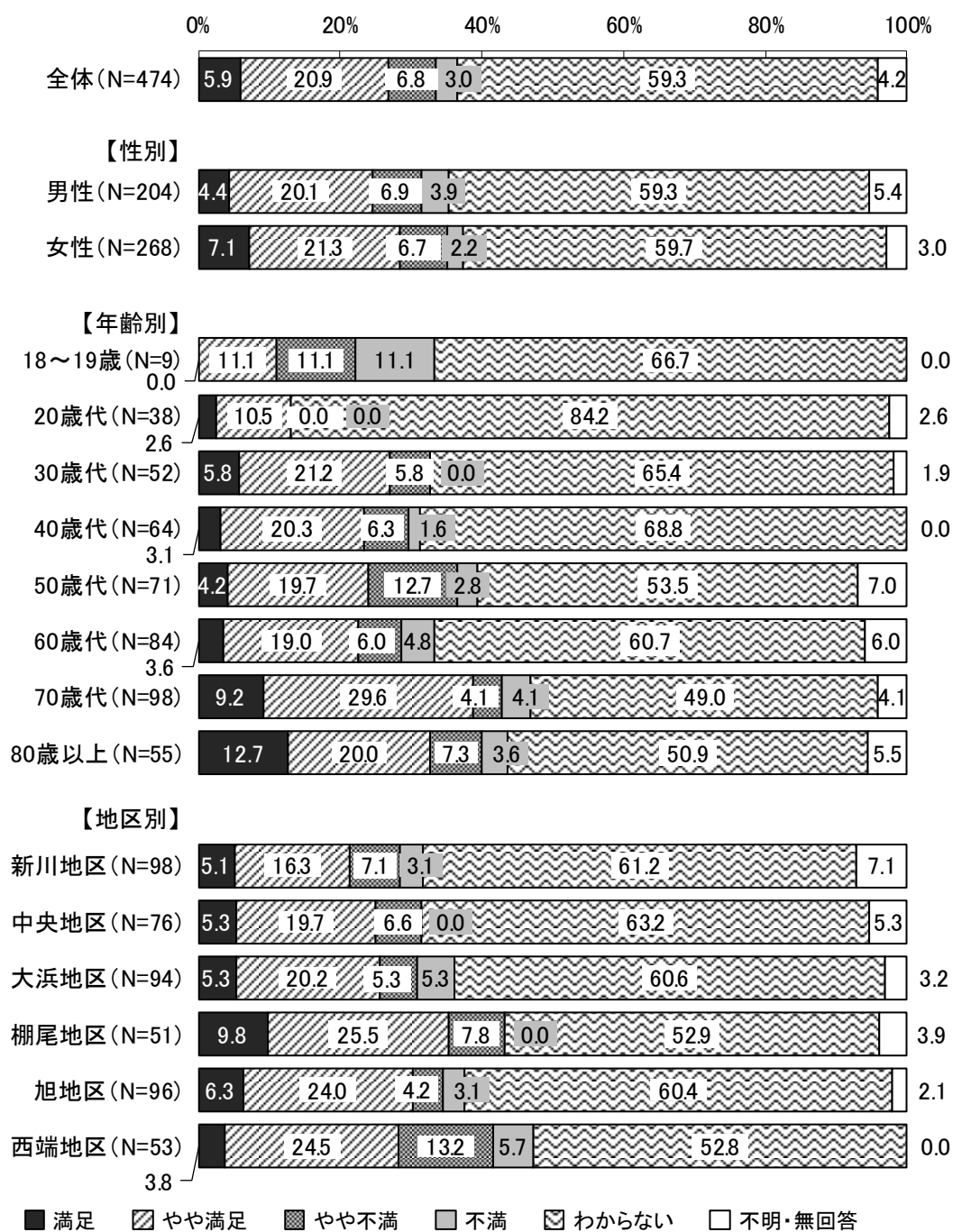
『満足』	…「満足」と「やや満足」の合算
『不満』	…「やや不満」と「不満」の合算

全体では、『満足』が26.8%、『不満』が9.8%、「わからない」が59.3%となっています。

性別でみると、『満足』が男性で24.5%、女性で28.4%となっています。

年齢別でみると、70歳以上で『満足』、50歳代で『不満』が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、棚尾地区で『満足』が他の地区と比べて高くなっています。一方、西端地区では『不満』が他の地区と比べて高くなっています。



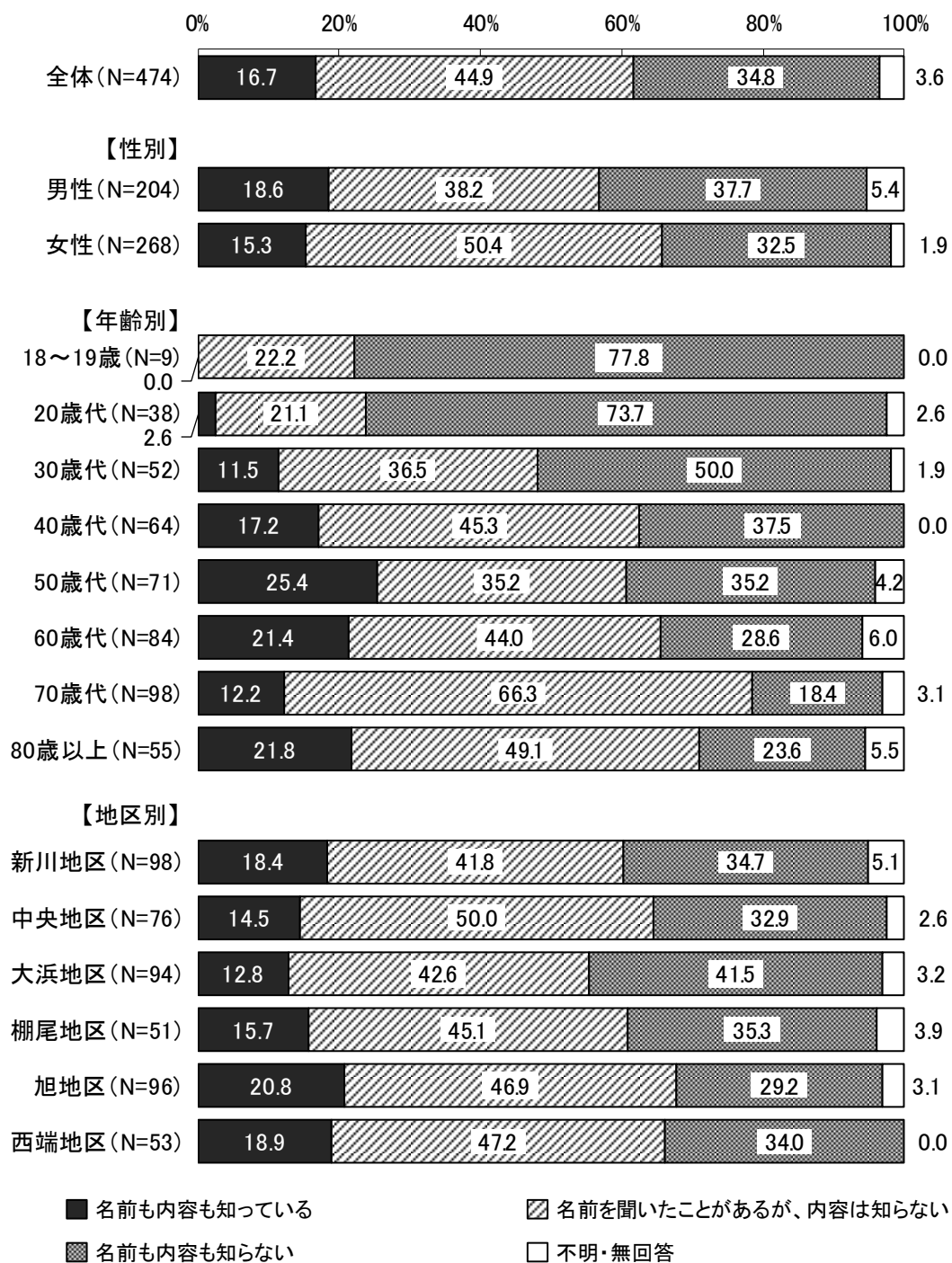
問31 あなたは社会福祉法人碧南市社会福祉協議会をご存知ですか。（○は1つだけ）

全体では、「名前も内容も知っている」が16.7%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が44.9%、「名前も内容も知らない」が34.8%となっています。

性別でみると、女性で「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が50.4%と、男性と比べて12.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、20歳代及び30歳代で「名前も内容も知らない」が他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、大浜地区で「名前も内容も知らない」が41.5%と、他の地区と比べて高くなっています。



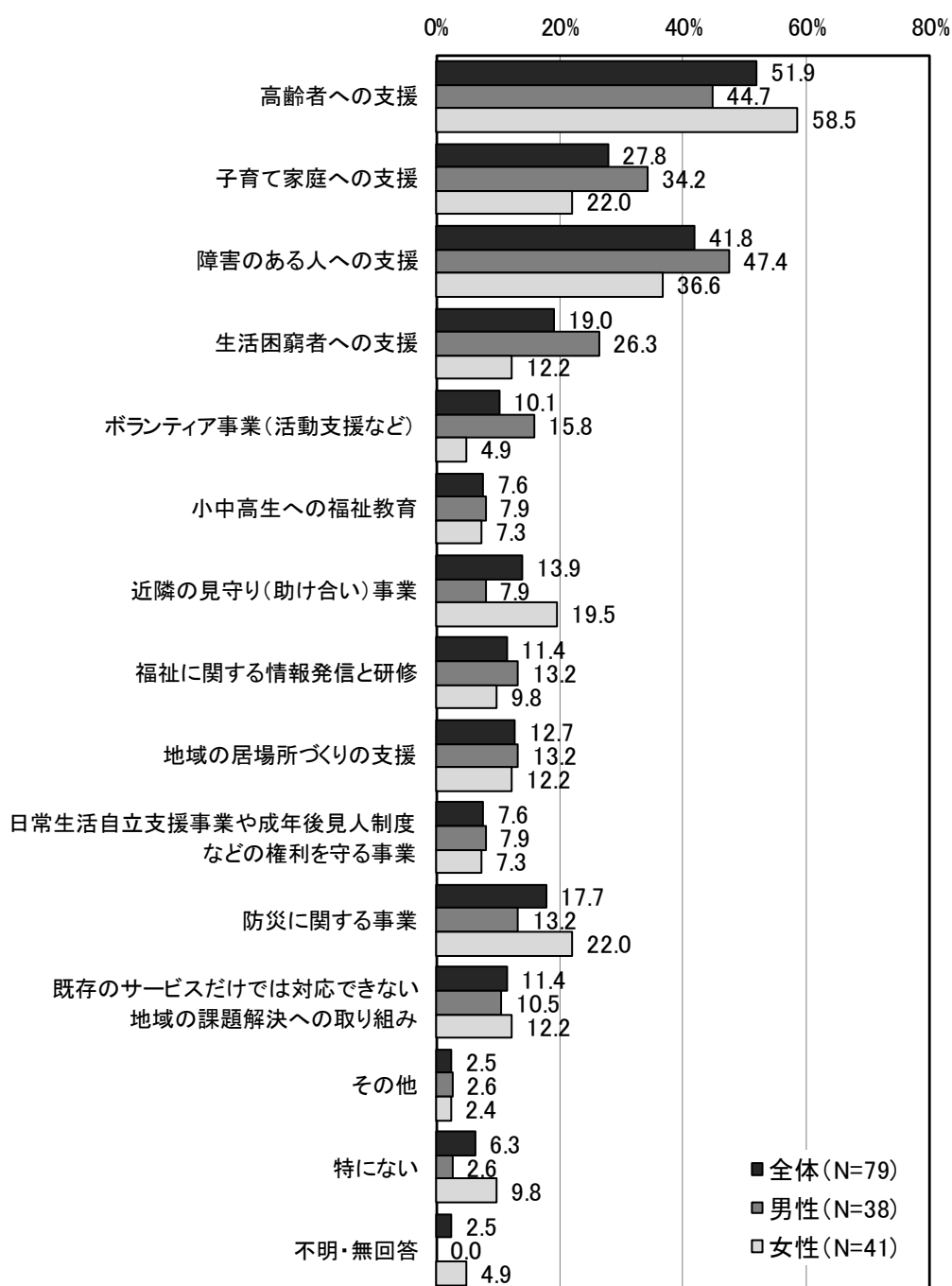
<問31で「1 名前も内容も知っている」と答えた方のみ>

問32 あなたは、今後、碧南市社会福祉協議会にどのような分野での役割を期待しますか。（〇は3つまで）

全体では、「高齢者への支援」が51.9%と最も高く、次いで「障害のある人への支援」が41.8%、「子育て家庭への支援」が27.8%となっています。

性別でみると、男性で「生活困窮者への支援」「子育て家庭への支援」「ボランティア事業（活動支援など）」「障害のある人への支援」が女性と比べて高くなっています。一方、女性では「高齢者への支援」「近隣の見守り（助け合い）事業」「防災に関する事業」が男性と比べて高くなっています。

※年齢別、地区別についてはそれぞれ回答者が20人以下のため読取分はなしで、参考としてクロス集計集のみを掲載しています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	高齢者への支援	子育て家庭への支援	障害のある人への支援	生活困窮者への支援	ボランティア事業（活動支援など）	小中高生への福祉教育	近隣の見守り（助け合い）事業	福祉に関する情報発信と研修	地域の居場所づくりの支援	日常生活自立支援事業や成年後見人制度などの権利を守る事業
【年齢別】											
20歳代	1	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	6	50.0	50.0	50.0	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7
40歳代	11	45.5	54.5	45.5	27.3	9.1	18.2	9.1	9.1	9.1	9.1
50歳代	18	50.0	16.7	50.0	11.1	5.6	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0
60歳代	18	38.9	16.7	33.3	22.2	11.1	5.6	16.7	0.0	11.1	5.6
70歳代	12	66.7	25.0	41.7	41.7	8.3	25.0	8.3	25.0	16.7	16.7
80歳以上	12	66.7	16.7	41.7	0.0	8.3	0.0	16.7	8.3	8.3	8.3
【地区別】											
新川地区	18	55.6	11.1	22.2	27.8	0.0	11.1	22.2	5.6	5.6	11.1
中央地区	11	45.5	27.3	36.4	18.2	36.4	9.1	27.3	18.2	9.1	0.0
大浜地区	12	50.0	33.3	25.0	16.7	8.3	8.3	16.7	0.0	25.0	8.3
棚尾地区	8	37.5	25.0	62.5	25.0	0.0	12.5	12.5	0.0	12.5	12.5
旭地区	20	50.0	30.0	55.0	15.0	10.0	0.0	5.0	25.0	10.0	5.0
西端地区	10	70.0	50.0	60.0	10.0	10.0	10.0	0.0	10.0	20.0	10.0

区分	N=	防災に関する事業	既存のサービスだけでは対応できない地域の課題解決への取り組み	その他	特にない	不明・無回答
【年齢別】						
20歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	6	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0
40歳代	11	18.2	18.2	0.0	0.0	0.0
50歳代	18	11.1	16.7	0.0	5.6	0.0
60歳代	18	11.1	5.6	5.6	11.1	5.6
70歳代	12	33.3	8.3	8.3	0.0	0.0
80歳以上	12	16.7	8.3	0.0	16.7	8.3
【地区別】						
新川地区	18	27.8	5.6	5.6	11.1	5.6
中央地区	11	9.1	27.3	0.0	0.0	0.0
大浜地区	12	33.3	0.0	8.3	8.3	8.3
棚尾地区	8	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0
旭地区	20	10.0	15.0	0.0	10.0	0.0
西端地区	10	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0

※年齢別の「18～19歳」については、回答が0であったため、掲載していません。

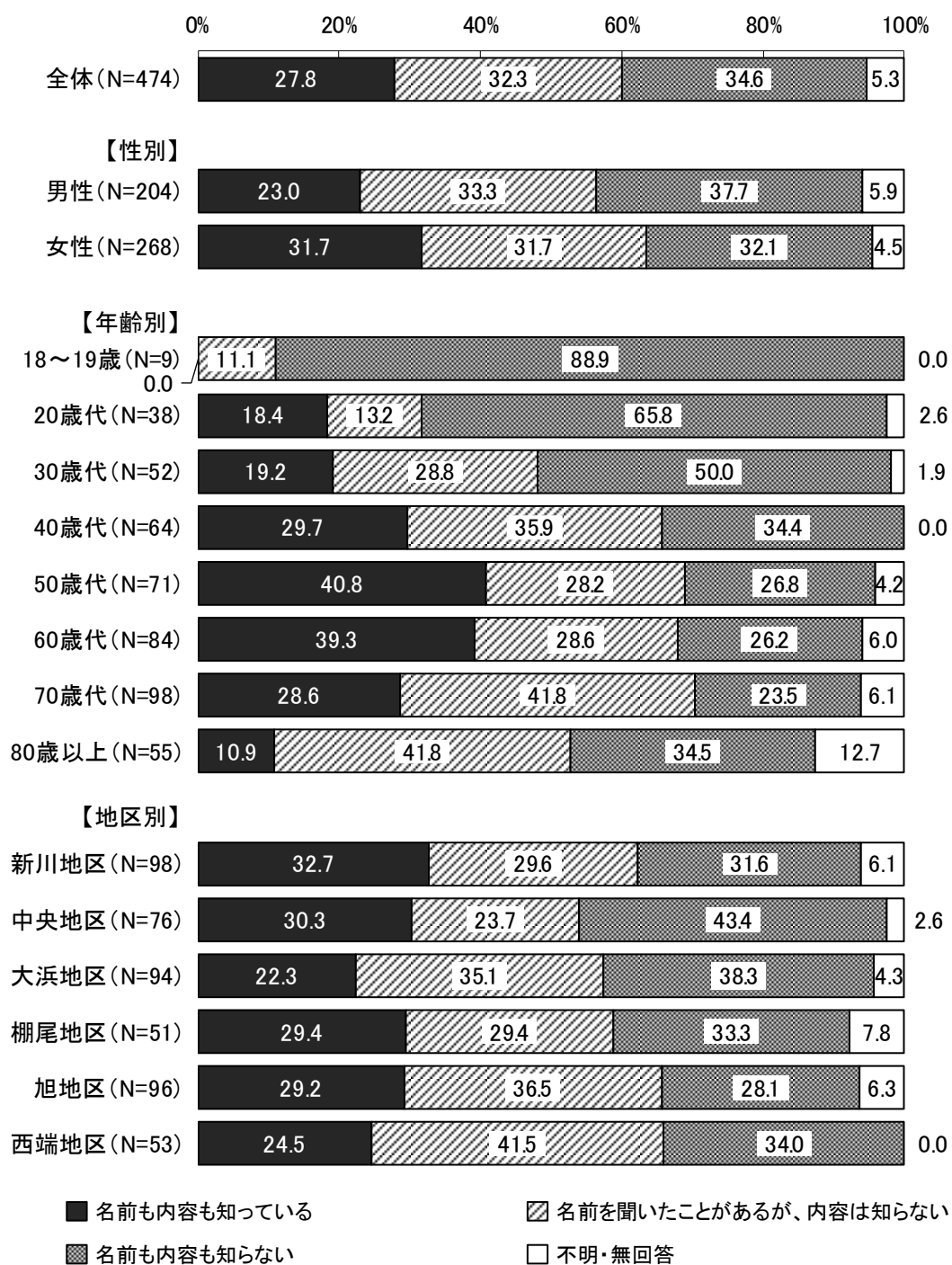
問33 あなたは、成年後見制度についてご存じですか。（○は1つだけ）

全体では、「名前も内容も知っている」が27.8%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が32.3%、「名前も内容も知らない」が34.6%となっています。

性別でみると、女性で「名前も内容も知っている」が31.7%と、男性と比べて8.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、20歳代及び30歳代で「名前も内容も知らない」、50歳代及び60歳代で「名前も内容も知っている」が、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別でみると、中央地区で「名前も内容も知らない」が43.4%と、他の地区と比べて高くなっています。



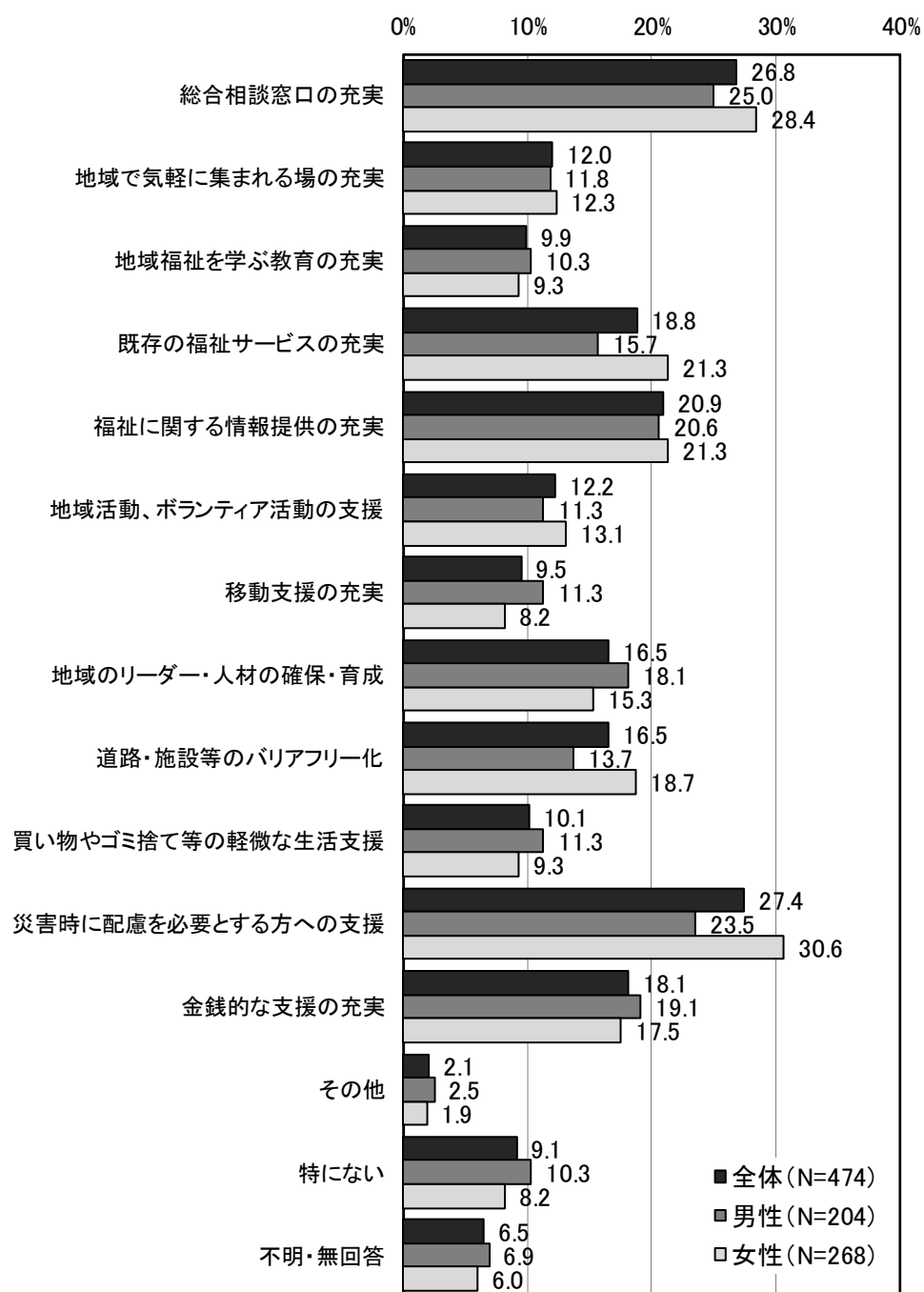
問34 これからの碧南市の福祉全般について、何を重点に取り組むべきだと思いますか。（〇は3つまで）

全体では、「災害時に配慮を必要とする方への支援」が 27.4%と最も高く、次いで「総合相談窓口の充実」が 26.8%、「福祉に関する情報提供の充実」が 20.9%となっています。

性別でみると、女性で「災害時に配慮を必要とする方への支援」が 30.6%と、男性と比べて 7.1 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、20 歳代～40 歳代では「災害時に配慮を必要とする方への支援」が、50 歳以上では「総合相談窓口の充実」が、それぞれ最も高くなっています。

地区別でみると、新川地区、中央地区及び大浜地区では「災害時に配慮を必要とする方への支援」が、棚尾地区及び西端地区では「総合相談窓口の充実」が、旭地区では「福祉に関する情報提供の充実」が、それぞれ最も高くなっています。



■クロス集計集（選択肢単位：％）

区分	N=	総合相談窓口の充実	地域で気軽に集まれる場の充実	地域福祉を学ぶ教育の充実	既存の福祉サービスの充実	福祉に関する情報提供の充実	地域活動、ボランティア活動の支援	移動支援の充実	地域のリーダー・人材の確保・育成	道路・施設等のバリアフリー化	買い物やゴミ捨て等の軽微な生活支援
【年齢別】											
18～19 歳	9	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	33.3	11.1
20 歳代	38	10.5	2.6	10.5	21.1	23.7	15.8	10.5	7.9	26.3	10.5
30 歳代	52	13.5	7.7	9.6	13.5	13.5	11.5	5.8	17.3	13.5	13.5
40 歳代	64	25.0	10.9	15.6	25.0	25.0	18.8	10.9	14.1	23.4	9.4
50 歳代	71	31.0	8.5	12.7	21.1	15.5	9.9	16.9	26.8	18.3	9.9
60 歳代	84	31.0	16.7	6.0	21.4	22.6	14.3	6.0	20.2	10.7	9.5
70 歳代	98	33.7	14.3	9.2	20.4	26.5	12.2	8.2	14.3	11.2	12.2
80 歳以上	55	32.7	20.0	7.3	9.1	20.0	3.6	9.1	12.7	18.2	5.5
【地区別】											
新川地区	98	28.6	10.2	8.2	22.4	14.3	11.2	12.2	21.4	11.2	11.2
中央地区	76	19.7	9.2	7.9	11.8	25.0	14.5	7.9	19.7	17.1	9.2
大浜地区	94	27.7	13.8	4.3	20.2	19.1	8.5	8.5	6.4	22.3	14.9
棚尾地区	51	33.3	9.8	15.7	17.6	19.6	9.8	9.8	19.6	25.5	7.8
旭地区	96	27.1	14.6	15.6	18.8	29.2	13.5	8.3	20.8	9.4	6.3
西端地区	53	28.3	15.1	11.3	22.6	18.9	18.9	11.3	11.3	20.8	11.3

区分	N=	災害時に配慮を必要とする方への支援	金銭的な支援の充実	その他	特にない	不明・無回答
【年齢別】						
18～19 歳	9	44.4	33.3	0.0	22.2	0.0
20 歳代	38	34.2	18.4	0.0	13.2	5.3
30 歳代	52	28.8	21.2	3.8	17.3	3.8
40 歳代	64	31.3	28.1	1.6	6.3	3.1
50 歳代	71	29.6	21.1	2.8	1.4	5.6
60 歳代	84	23.8	17.9	2.4	6.0	9.5
70 歳代	98	21.4	10.2	2.0	9.2	7.1
80 歳以上	55	27.3	9.1	0.0	14.5	9.1
【地区別】						
新川地区	98	33.7	14.3	1.0	7.1	8.2
中央地区	76	28.9	22.4	3.9	9.2	5.3
大浜地区	94	29.8	16.0	2.1	7.4	8.5
棚尾地区	51	25.5	19.6	0.0	3.9	5.9
旭地区	96	19.8	18.8	3.1	13.5	5.2
西端地区	53	26.4	20.8	1.9	9.4	0.0

へきなん地域福祉ハッピープラン策定に関するアンケート調査

【結果報告書】

発行年月	令和2年 9月
発行	碧南市
編集	碧南市福祉こども部 福祉課
	〒477-8601 愛知県碧南市松本町 28
	電 話：(0566)95-9884 (直通)
	F A X：(0566)48-2940

碧南市 地域福祉に関する団体ヒアリング 【結果報告書】

目 次

1. 調査の概要.....	1
(1)調査目的.....	1
(2)調査期間.....	1
(3)調査方法.....	1
(4)調査の対象団体.....	2
2. 調査結果.....	3
(1)地域の課題について.....	3
(2)地域福祉推進会議について.....	12
(3)その他の意見.....	18

令和2年9月

碧 南 市 福 祉 課

碧 南 市 社 会 福 祉 協 議 会

1. 調査の概要

(1) 調査目的

地域福祉に関わる団体等を対象に、碧南市における地域福祉を取り巻く現状や課題、今後の方向性などをお聞きし、「へきなん地域福祉ハッピープラン（第3次碧南市地域福祉計画・第5次碧南市社会福祉協議会地域福祉活動計画）」策定の基礎資料とするためにヒアリング調査を実施しました。

(2) 調査期間

令和2年6月26日～7月10日

(3) 調査方法

碧南市内で活動する団体等を対象に調査シートを配付し、回収しました。

(4)調査の対象団体

調査を実施した団体は次のとおりです。

■団体と活動種別

	団体名	活動地区
1	連絡委員	新川地区
2	民生委員児童委員協議会	新川地区
3	老人クラブ連合会	新川地区
4	地域福祉推進会議	新川地区
5	連絡委員	中央地区
6	民生委員児童委員協議会	中央地区
7	老人クラブ連合会	中央地区
8	子ども会育成連絡協議会	中央地区
9	道場山福祉の会	中央地区
10	連絡委員	大浜地区
11	民生委員児童委員協議会	大浜地区
12	老人クラブ連合会	大浜地区
13	子ども会育成連絡協議会	大浜地区
14	地域福祉推進会議	大浜地区
15	連絡委員	棚尾地区
16	子ども会育成連絡協議会	棚尾地区
17	棚尾まちおこしの会	棚尾地区
18	介護保険事業所	棚尾地区
19	連絡委員	旭地区
20	民生委員児童委員協議会	旭地区
21	老人クラブ連合会	旭地区
22	子ども会育成連絡協議会	旭地区
23	連絡委員	西端地区
24	民生委員児童委員協議会	西端地区
25	老人クラブ連合会	西端地区
26	西端ふくし応援団	西端地区

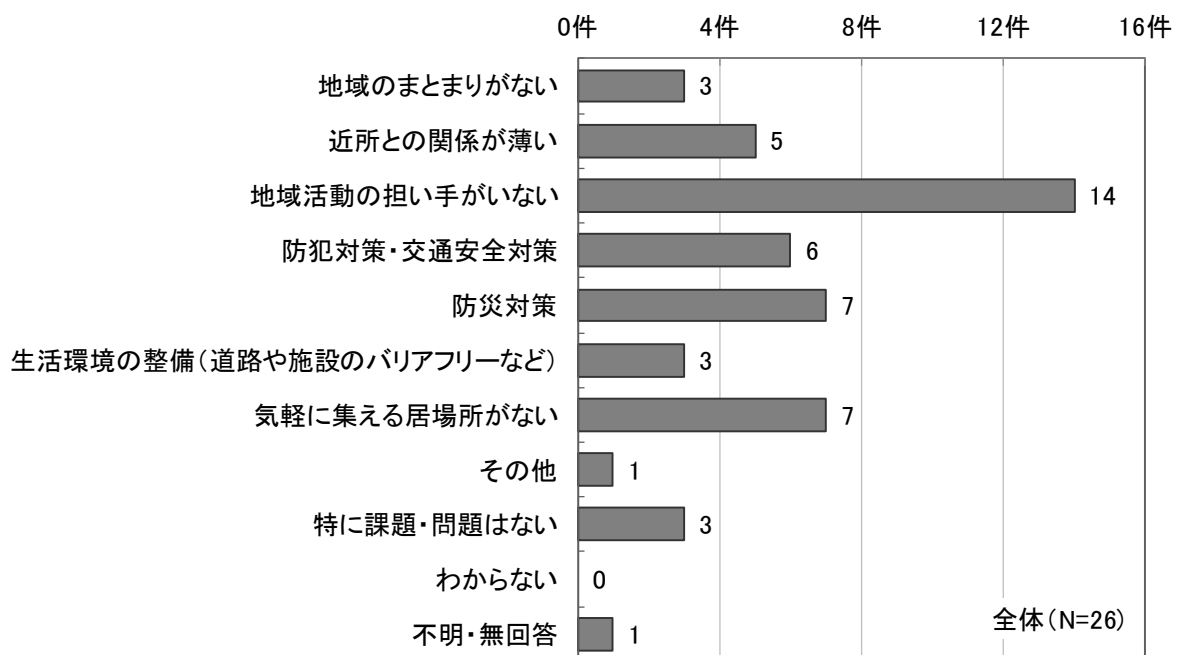
2. 調査結果

(1) 地域の課題について

① 地域の課題・問題

住んでいる地域の課題・問題は、「地域活動の担い手がいらない」が14件と最も多く、次いで「防災対策」「気軽に集える居場所がない」がそれぞれ7件となっています。

■住んでいる地域の課題・問題



【課題の具体的な内容】

地域のもとなまりがない

町内会の地区役員と民生委員との活動が、バラバラの部分がある。民生委員は、町内会議等の話し合いの場に声がかからない。

町内会役員他はがんばっているが1年で終わってしまい、行事等をこなすだけで大変。2年ごとに半分の役員を代え、継続することができれば町内会の見直しができ、発展するのではないかな。

近所との関係が薄い

地域との関わりをもつ人は一部の人に限定されているのが現実。他の人との関わりを煩わしく思うなど、地域への関心を持たない人が相当数いるのが現状。

老若男女を問わず毎日個々が忙しいため、他人のことは問題にしていない。

日中仕事で留守も多く、ご近所なのに顔を見ることもない。子どもがいない家庭では、学校単位のつながりもなく、班以外の方はほとんど知らない。西端にはふれあう行事があるものの、単位が大きく、個人では参加しにくい。資源ごみの当番時に近所の方と顔を合わすことがあるが、そうした特別ではなく、自然に集える場所をもっと生かせたらと思う。

地域活動の担い手がいらない

担い手がいらない。

地元にいる人たちは高齢化が進み、次の世代へということになると若い夫婦や独身が多くなり、区の諸活動に出てきてもらう、あるいは担ってもらうことに非常に難しさを感じる。中心となってやってきてもらった人に、何度も役に就いてとは言えない。

老人クラブに関して言えば、集団の中に入って積極的に活動してやろうという人が少ない。入会すると役員をやらせられるとあって、固辞する人が目立つ。ただ、好きなクラブ活動等には割合参加してくれる。

老人問題では、担い手として誰にでも対応しようと思っているが、それに反応しない人がいて残念だ。

西端にはたくさんのボランティアグループがあるが、どこも高齢化していてメンバーもわからない。もっと横のつながりがあるといいと思う。

町内会の諸役員等になれば、その年度は参加する。それ以外は参加しない。

地域活動の主は町内会組織だと思う。その町内会組織のなりてに毎年のことながら苦勞しているのが現状で、70歳ぐらいまで仕事をする社会情勢の中、お願いしてもなかなか受けてもらえない。また、町内会への加入軒数も徐々に少なくなっている。

高齢者、ひとり親世帯、外国人が増え、町内会に属さない家庭も増えており、関係性の弱さ、活動への協力等が限定的となっている。

地区の祭祀には厄年による出資や地区の予算が必要だが、特に厄年の方には多額の出資金が必要。伝統ある祭祀だが担い手が少ないため、今後は継続が困難と予想される。

若い世代の担い手が少ない。

防犯対策・交通安全対策

防犯意識、防災に向けたネットワークの欠如

市に依頼した件で、街灯（防犯灯）はなんとか対応してもらえそうだが、道路は一部陥没補修の件については残念な対応であった。

通学路に歩道がない。

空き巣事件の発生。狭い道が多く死角が多い。

車ではスピードが出せないような生活道路を自転車を通り抜ける。

高齢者のみの家族も多いため、防災訓練等の参加は難しいと思う。

街路灯が少ないので、夜道が暗く、学生が自転車で帰ってきたり、小学生が習い事に行くときに危ないと感じる。

防災対策

（再掲）防犯意識、防災に向けたネットワークの欠如

防災倉庫が地区の外にある。

災害に対する意識が希薄。防災講座などの参加者が少ない。

災害時における避難所の周知、運営方法、また災害の種類によって活動の仕方等が不明瞭。そもそも災害の程度の予測も周知されておらず、検証、訓練等が急務と思われる。

コロナ対策上、避難所が不足する。

生活環境の整備（道路や施設のバリアフリーなど）

子どもの通学路で雑草が茂り、見通しが悪いので危険。除草が必要。

道路が狭い。

通路幅がせまく、万一の際には課題が多い。

気軽に集える居場所がない

たまり場が必要。

老人クラブなど集える場所はある、元気のよい人が集まれるが、なかなか自分でいけない人が集まらない。

各地区の区民館でも利用が有料であったりすると、同じ趣味でも地区ごとによっては参加者が減っている。

公民館や区民館だけの活動では、居場所が少ないように感じている。民間団体や独自に地域活動の取組をしているお寺や神社等もあるので、既存の活動をバックアップしたり、利用していけば、地域のまちづくり（地域コミュニティ）の拠点や幅も広がると思う。

老人・子ども等が気軽に集まる場所があるといいと思う。なかなかないが、難しいか。

その他

空き家の庭の木が道路に出ている。

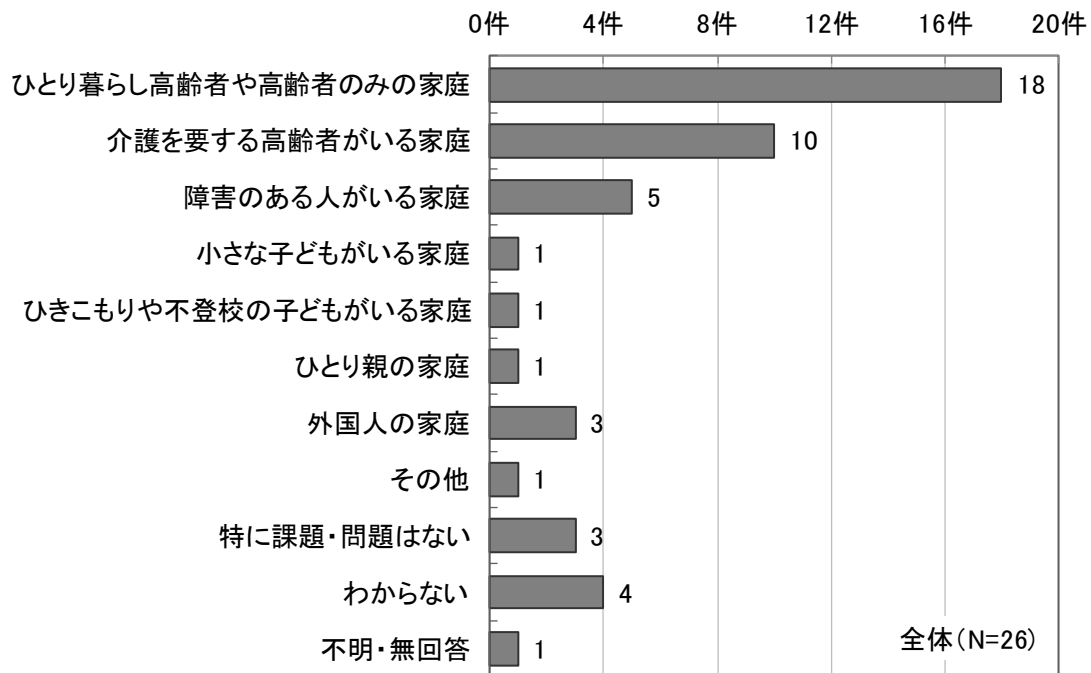
外国人のゴミ出しルールの問題。

今のところ気がつく問題はない

②地域で手助けや協力・支援が必要な家庭

地域で手助けや協力・支援が必要な家庭は、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの家庭」が18件と最も多く、次いで「介護を要する高齢者がいる家庭」が10件となっています。

■地域で手助けや協力・支援が必要な家庭



【課題の具体的な内容】

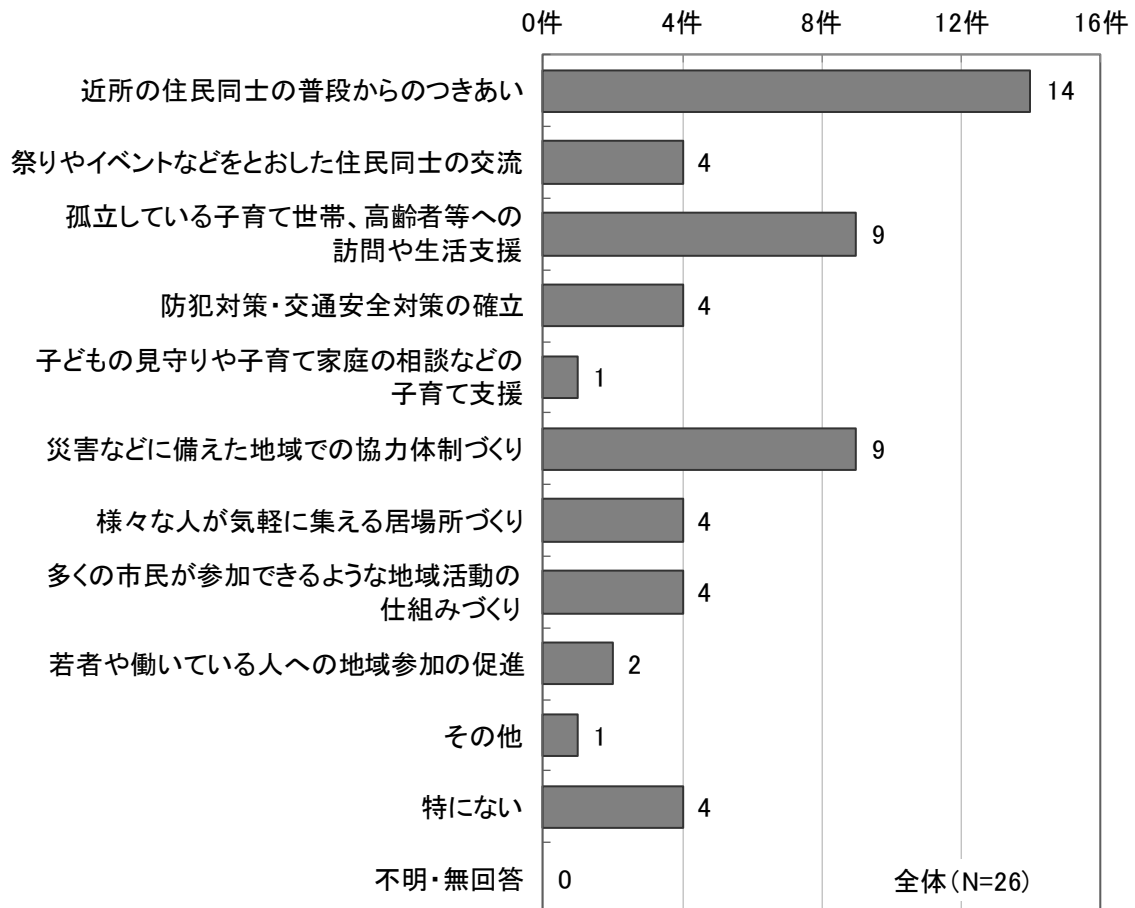
ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの家庭、介護を要する高齢者がいる家庭
軽い認知症の人が、ひとり暮らししているが、物忘れが多くなり心配。
地域に高齢者が多いと思う。
ひとり暮らし老人の孤独死。
全般的なことだが、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの家庭がとても多く感じる。いざ災害という時に、なかなか支援の難しさを感じる。
自分の地域は問題になる方が少ないので、どの程度介入してよいかわからない。
ひとり暮らしの高齢女性世帯や高齢夫婦世帯。また日中はひとり暮らしになる高齢者世帯、隣組と交流の少ない世帯、自転車しか交通手段のない人、足が不自由な人などの急病などへの対応が心配。
ひとり暮らし高齢者で、介護が必要な人がいて、今はヘルパーが来てくれるようになったが、その人が人をなかなか頼りにしなかった。

在宅介護、施設訪問もたくさんやっているが、個々でいろいろな考え方がある。市の助成の中で、少しでも多くの人への支援があればよいと思う。
また、情報を近所に知られたくない人もいるので、現状より一歩踏み込んだ支援が必要かと感じる
ここ数か月で、日中同居しているお年寄りがいなくなり、探している場面が2件あった。昔から住んでいる方で、そうした人が身近にいたのだと驚いた。
西端には日中畑で作業される高齢の方が多くいるが、どこの方かわからない。もし倒れることがあったら心配。日頃の声かけが大切だと感じる。
隣組ぐらいまでは把握しているが、それ以外はまったくわからない。以前、町内会長になったときもわからず、いざという時に手の打ちようがないし、情報開示も現状はされていない。
高齢者の孤独死。
安否確認を月1回しているが、シルバーカードを記入している方が中心で、他の人は見守りくらいなので、情報が入ってこない。社協も細かめに訪問してほしい。
災害時の避難が大変だと思う。
障害のある人がいる家庭
障害者や外国人の家庭があるが、訪問しても言葉が通じなかったり、近所との交流がなく、見守りが薄いように感じる。家族だけで問題を抱え込んでいる方もいるのではないかな。
障害者の方の訪問は、赤い羽根の還付金としてしか行ったことがない。どのように接し、見守りした方がいいかわからない。
外国人の家庭
(再掲) 障害者や外国人の家庭があるが、訪問しても言葉が通じなかったり、近所との交流がなく、見守りが薄いように感じる。家族だけで問題を抱え込んでいる方もいるのではないかな。
夜遅く大きな声を出しているときがある。
日常においても、生活する上での移動(通院、買い物他)の不便性がみられる。
災害時には、支援が必要な世帯への避難周知が遅れることへの不安がある。町内会活動が十分にできていないことから、周りの避難が遅れる可能性がある。特に外国人とのコミュニケーションが弱いことも課題。
その他
町内会と民生委員、青少年などとの横のつながりも薄く、それに関する活動自体もない。
災害時の避難所運営時の処置方法が不安。

③支援を必要とする家庭にできる地域の取組

支援を必要とする家庭にできる地域の取組は、「近所の住民同士の普段からのつきあい」が14件と最も多く、次いで「孤立している子育て世帯、高齢者等への訪問や生活支援」「災害などに備えた地域での協力体制づくり」がそれぞれ9件となっています。

■支援を必要とする家庭にできる地域の取組



【課題の具体的な内容】

近所の住民同士の普段からの付き合い
近所の住民同士の普段からのお付き合い
行事や資源ごみ出し時に、できるだけ多くの人たちと話をするようにしている。また、区民館に来た方々とはできるだけコミュニケーションをとり、顔・人を覚えるようにしている。区の部会長を通して、アンテナを高くし、区民の皆さんから出た問題点にできるだけ対応しようという心構えをもっている。(市の担当課がどれだけやってくれるかは別にして)
また、民生委員、保護司さんと懇談する機会を設けている。
回覧板を配るときやゴミ出し時のあいさつや声かけで、日常の状態を知る。
日頃から町内会役員・近所の住民等によるこまめな声かけをする。

近所の住民同士の付き合いは各家庭の生活環境が異なるため、難しいと思う。
町内会の加入者を増やし、近所同士の付き合いを深める。
祭りやイベントなどをととした住民同士の交流
祭りや地域防災訓練等の誘い。老人クラブの行事や小旅行等の誘い。
孤立している子育て世帯、高齢者等への訪問や生活支援
ひとり暮らしの高齢者に時々、声かけをする程度。
当事者の方々のプライバシーにふれる問題もあり、当事者の方々が言葉を飲み込んで暮らして見えるように思う。当事者の方々の心に届く言葉がけや関係づくりが必要だと思う。
防犯対策・交通安全対策の確立
子どもの下校時、毎週1回15時～15時30分に防犯パトロール。
道路を広げるために区画整理等を行う。公園等もできると思う。
不審者は、地域の人から声かけ（あいさつ）されると、「この地域は防犯意識が高い」と考える、と言われている。毎朝歩いて小中学生に「おはよう」とあいさつすると、ほとんど返してくれる。地域全体にあいさつ運動を広めていきたい。
災害などに備えた地域での協力体制づくり
情報を共有し、ともに活動できる協力体制が必要。ともすれば「書類を回したから」「会議をやったから」で終わっていることが多いように思う。
形骸化した組織でなく、実際に機能する組織として訓練などを行う。
いろいろなイベントも形骸化していて、一部の決まった人の参加にとどまってきている。この地域では大きな災害も長年なく、地域の連携意識や危機意識も薄れている。
なかなか実行が難しいが、町内会活動への周知と理解について、ネットワークによる情報共有が必要。そうした中で災害による避難訓練や地域イベントを通して、課題の発見とケアを含めた仕組みをつくる必要がある。災害支援・コロナ対策については今後、早急な対策が求められる。
災害発生時には、市が助けてくれると思っている人が多いと思うが、基本的には自分の身は自分で守ることが必要なので、そのことを地区の人に広めていきたい。
防災訓練の中で、高齢者対応を加えていく。
多くの市民が参加できるような地域活動の仕組みづくり
地元、近所にどんな方がいるのかを知り、人とのつながりをつくるのが大切だと思う。ただ何の目的もなく異世代がつながるのも難しいので、区でも取り組んでいる「防災」を軸とした地域づくりをしてはどうかと思う。防災においても人とのつながりが主だし、日頃ボランティア活動に引き込みにくい男性もこのテーマなら参加しやすいと思う。防災という視点から、まちづくりを考え、仕組みをつくり、西端の今ある団体をつなげられるといいし、話ができる場があれば、いいアイデアも生まれるかと思う。
その他
地域に問題が多いが、自分でどうすればいいのか。見守りをする、町内会、子ども会などが考えられるが、現実的ではないと思う。
問題があれば市に打ち明ける

④地域の課題や、支援を必要とする家庭等に対して、地域や団体として取り組んでいる活動

【課題の具体的な内容】

高齢者等に対して
ひとり暮らしの人の憩いの家への参加を進めている。
老人会活動を援助している。
老人クラブへの入会の勧誘や90歳以上の超高齢者会員に対する友愛活動。(誕生日に合わせ絵手紙と手土産をもって訪問、おしゃべりして激励)
半崎町の再青会では、毎年2回くらい、各10人ほどの在宅介護者を中心に、慰問訪問を行っている。問題点としては、慰問されることが再青会の迷惑になるとして離脱される会員がおり、残念である。
地域の仕組みづくり
区役員の次年度以降の役職及び継続年数を変えようとしている。
支援を必要とする家庭などに対して、支援活動をする地区の組織はないと思う。平成29年からの区長経験者と協力者で福祉の会を立ち上げて活動を開始し、産声をあげたばかり。保育園を通じての見守り活動がスタートしたばかりで、若い協力者の輪を広げるのが必要だと感じる。
近隣の人々の見守りや民生委員等の訪問は、個人の活動を軸とし、支援を必要とする家庭のプライバシーがあるため、活動に限界がある。地域から行政や社協へのつながりや連絡は個々に行われているが、より一層のつながりのシステムづくりやフォーマル、インフォーマルの重層的な仕組みが必要だと思う。
できるだけ情報を共有できるよう、町内会から班長・組長につなぐネットワークで周知しているが十分ではない。
具体的な地域活動（居場所づくり、イベント、多世代交流、声かけ）
区民館でカフェを開いて、季節に応じた遊び等をしているグループがある。
Café ちゃのま。西端下区民館にて毎月第1火曜日の10時～12時にどなたでも参加できるカフェを開催。参加費は200円。日中家に1人である方、小さな子どもを育てている方、高齢の方、話がしたい方など、いろいろな方が利用され、毎回10人以上の方は個別で参加されている。スタッフはだいたい9人で対応。お茶を飲むだけでなく、いろいろなイベントも行うが、すべて私たちが主となるのではなく、地域のデイサービス、フラダンス教室、再青会など、個人やボランティア、各団体の方に協力してもらい、スタッフも楽しみながら参加できるよう心がけている。また、他団体に来ていただくことで、参加者も私たちがさらに地元を知り、人とのつながりができると考えている。なんでも気軽に話せる井戸端会議のような場となれば、困りごとなどの情報交換もできるかと思う。
特に課題を決めて取り組んでいることはないが、週1回の憩いの家の解放時に、役員はじめ、参加者同士で隣近所や知り合いの状況を話し合ったりして、困りごと等の状況把握に努めている。

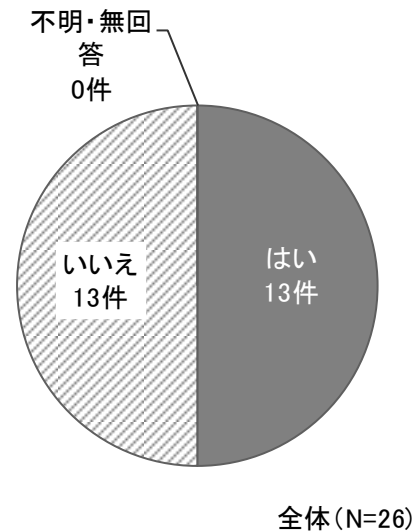
地域イベントへの参加呼びかけや地域での集まりへのお誘い。
区による避難訓練を年２回実施している。
地域活性化の一因として、自分の直接の担当地区ではないが、便宜上、一部応援をしている。 保育園の児童の芋づくりの畑の耕作をした。(機械を持っているので応援)
氏神様の清掃や、花いっぱい運動など。

(2) 地域福祉推進会議について

① あなたは地域福祉推進会議に参加したことがありますか。

地域福祉推進会議への参加の有無は、「はい（参加したことがある）」が13件、「いいえ（参加したことがない）」が13件となっています。

■ 地域福祉推進会議への参加の有無



② 地域福祉推進会議や地域福祉推進会議から始まった活動の課題

【課題の具体的な内容】

地域の人材や会議の参加者
参加者は、各方面で責任ある方が多いと思う。意見を言っている方はごもっともであるが、実際自分にはなかなか参加できない方が多いか。
毎年メンバーが代わってしまうので、継続した話し合いにまで発展せず、毎年地域の問題や、そのためにはどうしたらいいかの話を出し終わっている。せっかく気持ちをもって参加している方も、一向に進まない様子なので会議から抜けられていて、もったいなく思う。
地域福祉推進会議については、若い層の方々の参加が少ない、1年単位で参加される方も多いので、話し合いの内容も1年で途切れてしまい、進展がないように見える。しかし活動の輪を広げる観点からは必要なことだと思うし、活動の方向性（やること、テーマ）が決まれば継続的に活動できると思う。
事業所や役職の方々の参加だけでなく、自主活動をしている方や志のある方の個人での参加があれば会議の幅も広がり、地域で行われている活動の発見にもなるように思う。
会議の方向性や開催方法について
年に1度か2度開催される全体会議の目指すところがわからない。何をどうしようとしているのか。
推進会議が非常に広範囲にわたる「地域の福祉」とどのように関わっていくのか。個別具体的に対応していくのか、全体を俯瞰して対応していくのか。

会議の時間を、昼間も考えてはどうか。
会議に出たことはあるが、出席していたスタッフに首をかしげる人達がいると思う。もう少し地域に携わっている人達を人選されては。
その他
昨年度に天道保育園児とのサツマイモ栽培と焼きいもパーティーを実施。園庭での袋栽培（約200袋）はあまりうまくいかなかった。今年度は地域の有志から100坪余の土地を借用でき、「ふれあい農園」として露地栽培を実施（8畝で約200苗）。土地の開墾と水の確保と雑草取りが大変。（以後、毎月1回の草取りと園児との共同水やりを行っている）また、資金不足。それでも福祉の会と老人クラブで20名ほどが参加し、何とかやっている。秋の収穫が楽しみでもあり心配でもある。
会議はなるべく参加したい。何でも行動して前を進んだらいいと思う。

③地域福祉推進会議で話し合いたいことや、今後取り組んでいきたいこと

【課題の具体的な内容】

会議の方向性や話し合うテーマ、開催方法について
まずは、どんな話題（問題や取組）があるのかを知りたい。
「地域のつながり」をどう深めていくか
2回や3回で終わることなく、長く続けるためには何が必要か、心構えや付随的対策を話し合っておく必要がある。
地域の課題は十分に出たと思うので、次に、それを解決するための実際の行動が必要。課題もしぼって長期的に区として取り組んでいけることを決定した方がいいと思う。テーマも漠然としていては話が進まない。取り組みが決まったら、それに対する勉強会や見学会をし、活動の骨組みをつくり、団体をまきこんだ活動へと進んでいけばいいと思う。
大学生にももっと参加してもらい、意見やアイデアをもらいたい。
それぞれがあまり負担にならずに、地域でできることは何かを具体的に見つけることができればよいと思う。
社会福祉は住民に対して必要だが、現在、いろいろな行事が多すぎるくらいある。その行事を見分けて関連あるものを探り、深めていった方がいいのでは。
具体的な取組について
誰でもできることが多くあるから、環境美化を中心に活動したらどうか。
高齢化社会に向けての移動手段や災害時、緊急時対策について対応が求められる。また、外国人やひとり親世帯など、文化や環境が違う中で誰でもわかるよう、地域全体が自助・公助のしくみを見える化する。
情報共有や周知が不十分な中でも、高齢者、外国人、ひとり親世帯にも十分な伝達が行き届くよう、防災放送やインターネット配信等の対応を進める。

地域の人材について

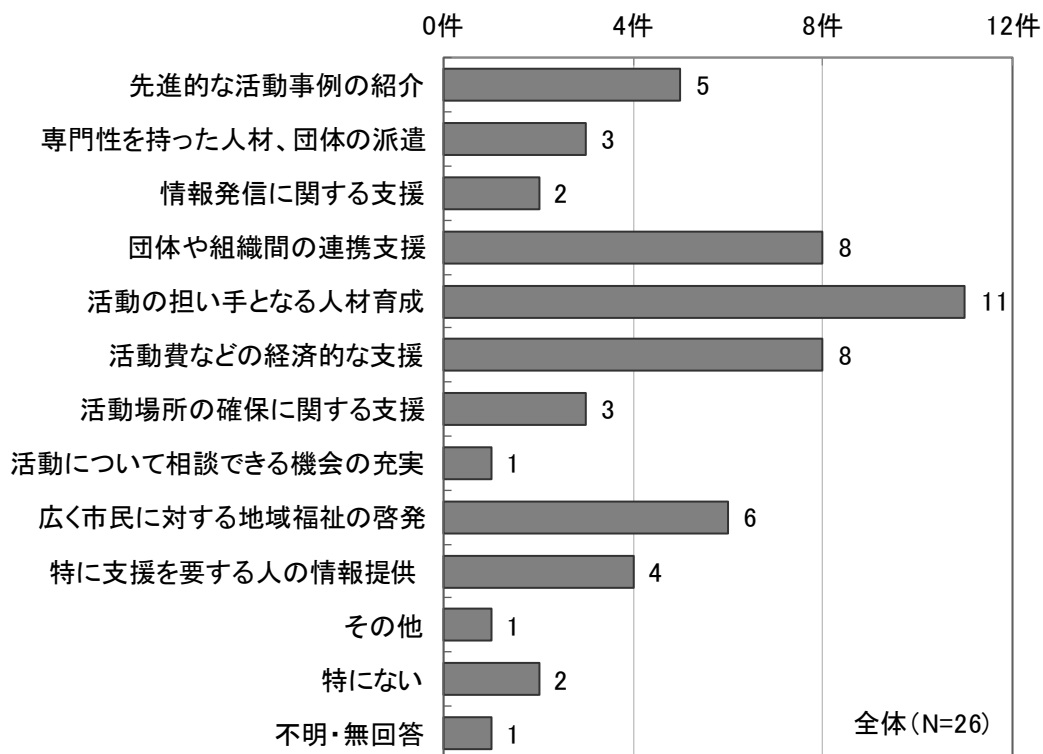
現状の協力者の輪をどのように増やすか、また、若い人をどのように巻き込むかが課題。小学校PTAや中学校PTAの方々の参加が少ないので、この世代の意見を聞いてみたい。

外国人家庭が増えているので、そういった家庭をどう地域活動に参加してもらうか。

④地域や団体等の活動をより活発にするために行政（市）や社協に求める支援等

地域の活動を活発にするために行政（市）や社協に求める支援は、「活動の担い手となる人材育成」が11件と最も多く、次いで「団体や組織間の連携支援」「活動費などの経済的な支援」がそれぞれ8件となっています。

■地域の活動を活発にするために行政（市）や社協に求める支援



【課題の具体的な内容】

活動の担い手となる人材育成

再青会は、地区の敷居が強く、全体で活動となるとどうしてもそれぞれになってしまったり、自分の地区には「知り合いがいない」と加入しない方もいるようだ。そうした壁がなくなれば加入者も増え、活発に活動できるように思う。

私達の団体においては、カフェに参加したくても車に乗れないからいけないという声を聞く。それなら、西端内のいろいろな場所でやればいいのかもしいが、それでは同じ人としがふれあえない。今の場所は、昔の小学校だったことから、「なつかしい」意味のある場

所となっている。地区をバスで回ってもらい、「なつかしい」場所へ月1回来てもらいたい。

子ども会の理事(役員)のなり手がおらず、毎年次年度の理事を探すのに苦労している。PTA役員選出のように全保護者から選出できると思う。ただ、そのためには子どもが希望者のみの入会ではなく、全員が子ども会に入会しないとだめですが。

皆さんで地区を盛り上げていこうという活動は、中心となるリーダーの人柄によるところが大きい。もう一線を退かれていますの方々に気持ちだけでも元気のある人は、いわゆる老人クラブでいつも楽しく活動しており、その団結力も強く頼もしく感じられる。若い方や壮年の方々は、目の前の活動で精一杯であり、時間がないという問題につきあたる。

楽しんでもらい、興味をもってもらう活動からスタートすれば良いとは思うものの、今現在のコロナ禍では一つ一つのことを個別にやるしかないのかと諦めムードとなっている。

若い一般市民の参加が必要。それには積極的なPR活動。

活動の方向性や仕組み、ネットワークづくり

例えば、高齢者世帯への対応についてスムーズに協力しあえるようなネットワークづくり。

活動を長く続けていくことは福祉ボランティアとして大切だが、体力的に難しくなっている。ボランティア団体をたくさんつくって活動するのもいいが、連携することで人員の問題も解決できるし、活発になると思う。また、団体だけでなく、時には保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校の子どもたちにも協力してもらえたら、未来にもつながる。

よくわかりませんが、地域での福祉活動のとりまとめ役は誰が適任なのでしょう。縦割りではなく、横のつながりが一番必要な活動だと思うのが、情報の管理体制や情報一元化も大きな課題だと思う。

地域や団体の活動は、それぞれの個の活動になるので全体をつないだり、全体を見通したり、将来を見据えた支援や活動をお願いしたい。

少子高齢化時代への対応と新しい生活様式の進め方。

地域福祉の啓発や情報提供

地域の福祉を推進していくには、地域福祉への理解者を一人でも増やしていくことが必要。そのための啓蒙活動。

行政主導ではなく、地域の自主的な活動をうまくやれている内容があれば知りたい。

出前講座等を利用して、専門的な内容も地域へ紹介していく

地域やボランティアでの活動は難しいため、行政や社協よりアンテナをはり、発信していただけると、地域の方も活動しやすいと思う。

介護が必要になったときの手順と考え方など多く周知してほしい。

11 その他

行事の見直し(前向きに多くの人が集っていただくように)。

民生、児童委員の今後のあり方、方向性。

会議等、市役所の受け身より、前向きに提案していただければ。

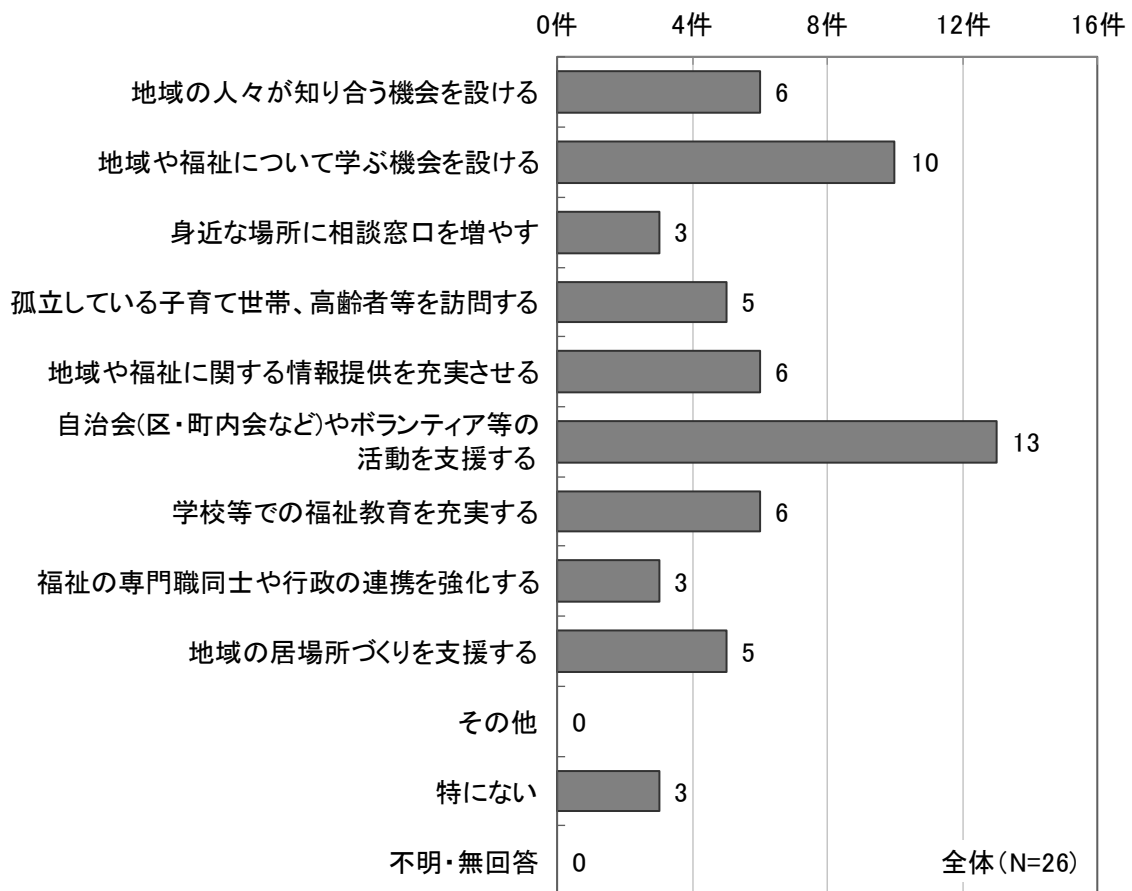
いろいろの部会等があるが、年1~2回、名前を出して形だけになっているので、やり方を検討したほうがいいと思う。

なんといっても運用資金の支援。

⑤ 支え合う地域づくりを進めるために行政（市）がやるべき支援

支え合う地域づくりを進めるために行政（市）がやるべき支援は、「自治会（区・町内会など）やボランティア等の活動を支援する」が13件と最も多く、次いで「地域や福祉について学ぶ機会を設ける」が10件となっています。

■ 支え合う地域づくりを進めるために行政（市）がやるべき支援



【課題の具体的な内容】

地域や福祉について学ぶ機会を設ける
「地域福祉」の啓蒙活動。
福祉に関する学びの機会があれば、興味のある方も入りやすいと思う。もっと関心を広げることにもつながる。自分の地域を知ることがまちづくりの一步だと思うので、学生でも参加できる取組をしてほしい。未来の担い手にもなる。
勉強会、講習会の開催。
なかなか自らが調べることは容易ではなく、行政等からの情報を元に地域で学ぶ機会があれ

ばご支援いただきたい。参加できない孤立世帯には訪問も必要。
支え合う地域づくりに行政がどこまで支援すべきかよくわからない。あまりやりすぎるのは良くないと思う。他でうまくやっているところの具体的な事例を教えてほしい。
自治会(区・町内会など)やボランティア等の活動を支援する
町内会等の組織は、任期が2年で終わってしまい、次期役員と引継ぎしてもうまく進まない部分がある。議論の必要ある。
地域独自で活動しているところもあるが、情報収集や相互乗り入れを通し、他地域にも活用可能ならば永年展開できるよう支援・協力願いたい。
町内会の組織の見直し。
目的をしぼり、毎年目標を1～2つ設定し、こなしていけばいいと思う。
地域の人々が知り合う機会を設ける、居場所づくり
地域の人々が知り合う機会。例えば資源ごみの回収が平日の早朝に行われているが、この時間帯では若い方の参加は難しい。日曜日にやることができれば、若い会社勤めしている方も参加できる。ゴミ捨てからでも、地区の人達と知り合える一歩ができればと思う。
拠点づくりは大切だと思う。集える場があれば、人がつながり、ボランティアの輪もつながる。各ボランティアが情報交換できる場もぜひつくってほしい。横のつながりが大切。ただまずは、地区内で行ってほしい。
その他
市の担当者が老人クラブの憩いの家や区民館に出向き、住民から困りごとや要望等を直接聞いたり、話し合ったりする機会を設ける。一部ではやったこともある。
具体的なセーフティネットとしての第一義的な政策を土台として、それぞれの生活を下支えしていただき、その上で、個々の地域や団体ではできない全体をデザインして、官民一体となったつなぎ、つながる支援づくりが必要だと思う。

(3)その他の意見

地域の活動について

福祉については専門性もあり、十分な実態の認知がされていない。サークル、老人会等の活
発な活動を支援してほしい。

また、福祉の担い手（介護職員の不足、低賃金）が育っておらず、十分な対応ができていな
い。看護、介護の担い手を育てるための基金創設、支援体制の強化が必要ではないか。さら
に介護のレベルアップを望む。

民生委員といっても仕事が多く、自分の地区で抱えている人たちの支援委員会は、他になか
なか地域福祉や活性化については思い浮かばない。いろいろな分野の方々に多く呼びかけ、
全体会議的な要素で物事を考えてほしい。

マンネリ化もあるが、町内会がしっかりとやっている。

現場の声が大事だと思う。例えば、災害時の情報提供のあり方や災害対応の方法などは、実
際にそれらを必要とする人や団体と、具体的な話をする中で答えを見つけていくことが必要
だと思う。

「待つ福祉（申請）」だけでなく、「出かける福祉（アウトリーチ）」も必要だと思う。「へき
なん地域福祉ハッピープラン」は碧南市と碧南市社協が一体となって行う画期的な計画だと思
う。行政の制度政策と社協のコミュニティーソーシャルワークが相互補完しながら、我々
住民や民間団体を巻き込んだり、活用していただいて、地域福祉をキーワードとした「まち
づくり」のお手伝いができればと思う。

現在、地区と小学校区が入り組んでおり、さまざまな問題が生じている。ある時期には統一
した方がいいのでは？

その他

国、地方公務員は地域福祉について十分に知っているので、知恵、経験を活かし、先頭に立
ってご指導してもらうことが必要だと思う。私たち再青会の入会者もいるが、まだまだ軽蔑
されている現状だと思う。率先して入会され盛り立ててほしい。

今回のアンケートは文章とあり、うまく伝えられてないように思う。できれば、顔を合わせ
て自由に意見を交換できる場があればいいと思う。

地域福祉の内容が難しすぎて、私には上手にお答えすることができませんでした。ヒアリン
グ調査の内容を、もう少しわかりやすくしてほしい。

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位 け 置 づ	基本目標	1	福祉の意識を高める環境づくり						
	基本方針	1	地域における支え合い意識の向上						
既 存 事 業	実施事業								
	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価		今後（令和３年度以降）の方向性		担当課
	1	地域福祉に関する市民意識の向上	○高齢者や障害者、子育て家庭等に関する理解を深める講座を支援します。	A（順調に進んでいる）	市内を６地区に分け、「地域の出来事を自分事に」をスローガンに「地域福祉推進会議（地域住民が話し合う場）」を開催し、継続的に話し合いを重ねている。	継続	継続実施し、市民の理解を深める。	福祉課	
				A（順調に進んでいる）	各保育園、認定こども園において、地域の乳幼児を持つ母親や園児の保護者を対象に子育てにかかわる講座を開催した。	継続	保護者に向けて、安心して子育てができるよう育児・子どもの発達運営に関する状況発信や相談を行う。	こども課	
				A（順調に進んでいる）	出前講座に介護予防に関する講座、認知症に関する講座を開催した。 ※高齢者ほっとプラン（基本施策２－２（１）、（２））	継続	出前講座に介護予防に関する講座、認知症に関する講座を通じて普及に努める。	地域包括支援センター	
			○地域活動やボランティアに関する講座を支援します。	A（順調に進んでいる）	地域活動に関するスキルを学ぶ「まちづくりの担い手育成講座」を８回連続講座として実施したほか、碧南市市民活動センターで地域活動・ボランティア活動に役立つ各種講座を開催した。	継続	引き続き地域活動・ボランティア活動に役立つ講座を行う。	地域協働課	
	2	声掛け運動の推進	○市民が自主的に行うあいさつ運動を支援します。	A（順調に進んでいる）	各地区の「愛のパトロール」等で防犯活動とともに声掛け運動を実施した。	継続	パトロール活動とともに行う声掛け運動を継続して、市民が自主的に行うあいさつ運動につなげていく。	生涯学習課	
上 記 未 掲 載 事 業		計画施策－計画内容		評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課
	①				(上記未掲載事業なし)				
	②								

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位 け 置 づ	基本目標		1	福祉の意識を高める環境づくり						
	基本方針		2	福祉について学ぶ機会の創出						
	実施事業									
	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価		今後（令和３年度以降）の方向性		担当課	
既 存 事 業	1	地域と学校の連携強化	○地域住民や保護者等が参加できるような学校公開日等の行事を開催します。		A（順調に進んでいる）	花苗を保育園公民館、保護者や地域の方々に配布した。また、地域の方による「見守り隊」及び「スクールガード」の実施、地域の方を道徳授業の講師として招く活動を実施した。		継続	引き続き、地域住民や保護者が参加できるような学校公開日等の行事を開催する。	学校教育課
	2	学校教育における福祉教育の推進	○総合学習等によるボランティア活動体験や高齢者・障害者等との交流の機会を設定し、実践的な福祉教育を進めます。		A（順調に進んでいる）	各小中学校で福祉実践教室を実施し、点字や車椅子などの体験を通して障害を持つ方々との交流の機会を実施した。助産師や保育園の先生から学ぶ機会を実施した。また、福祉施設へのボランティアなど様々な形で多くの児童生徒が参加した。		継続	引き続き、総合学習等によるボランティア活動や交流の機会の設定を進める。	学校教育課
	3	地域福祉活動の機会づくり	○公民館等を地域福祉活動の拠点として活用する地区の取り組みを支援します		A（順調に進んでいる）	各公民館に地域連携推進員を配置し、人材の発掘や地区の取組の支援をしている。 その他、日進公民館を拠点に活動している日進みらいの会には引き続き敷地内の倉庫を貸与し、その活動にも関わり助言等を行っている。また、鷺塚公民館のわくわく鷺塚もりあげ隊と棚尾公民館の棚尾まちおこしの会の会議や活動にも事務局として参加し、活動を後押ししている。		継続	引き続き各団体を支援する。	地域協働課
上 記 未 掲 載 事 業		計画施策－計画内容			評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課
	①					(上記未掲載事業なし)				
	②									担当課

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位 け 置 づ	基本目標	1	福祉の意識を高める環境づくり						
	基本方針	3	地域組織活動の推進						
既 存 事 業	実施事業								
	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価		今後（令和３年度以降）の方向性		担当課
	1	町内会周知と加入促進	○町内会についての周知を積極的に実施します。		B（概ね順調だが、改善の余地あり）	ホームページで町内会加入を勧めるページを公開しているほか、町内会の啓発記事を年１回、広報へきなんに掲載している。また、市民課窓口で転入者・転居者に対して町内会加入促進チラシを渡し加入を促している。しかし、加入率はわずかだが減少傾向であるため、特に若い世代へのPRを強化するため異動の多い時期にSNSでのPRを行い、平成３０年度より外国人の加入率向上のため市民課へポルトガル語の加入促進チラシを用意した。	継続	引き続き町内会に加入することによるメリットを周知していく。	地域協働課
			○町内会加入のメリットを伝えながら、加入を促進します。		B（概ね順調だが、改善の余地あり）				
	2	町内会等地域活動の支援	○市政に関するわかりやすい情報を提供し、町内会活動を支援します。		A（順調に進んでいる）	毎月連絡委員幹事会を開催し、各種情報提供、意見交換を行い意思の疎通を図っている。	継続	引き続き連絡委員への情報提供、問い合わせ対応を積極的に行っていく。	地域協働課
上 記 未 掲 載 事 業		計画施策－計画内容		評価	現状・課題・評価の理由など	今後の方向性		担当課	
	①				（上記未掲載事業なし）				
	②								担当課

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位 け 置 づ	基本目標	2	世代間や地域での交流の機会づくり						
	基本方針	1	地域での交流の機会づくり						
	実施事業								
	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価		今後（令和３年度以降）の方向性		担当課
既 存 事 業	1	公共施設等を活用した交流の機会づくり	○公民館や学校等、公共施設を活用したイベントを行い、地域の子どもから高齢者までがふれあう機会づくりを進めます。	A（順調に進んでいる）	公民館まつり、文化講座等を各公民館において実施し、どなたでも気軽に参加できる様々なイベントを実施した。	継続	今後も同様の事業を実施し、世代間でふれあう機会づくりを進める。	生涯学習課	
			○老人クラブのふれあい農園で園児と一緒に農作業をする等、子どもと高齢者が交流できる機会を作ります。	A（順調に進んでいる）	幼稚園、保育園、認定こども園において、老人クラブの方と協働してふれあい農園で作物の栽培や収穫を体験したり、地域の敬老会に参加したり、園に招き伝承遊びをしたりする活動を実施した。	継続	今後も老人クラブの方と協働してふれあい農園で作物の栽培や収穫を体験したり、地域の敬老会に参加したり、園に招いて伝承遊びをしたりする活動を継続し、地域の方とふれあいを深めていく。	こども課	
	2	交流できる居場所づくりの推進	○地域住民の交流活動を促進するため、公民館等を活用した活動拠点の確保と提供を図ります。	A（順調に進んでいる）	各公民館のホールや研修室等を貸室として提供し、休日や平日の夜間でも住民の交流活動ができるようにしている。	継続	引き続き、各公民館を拠点として活動できるように提供する。	生涯学習課	
			○地域の交流の場づくりを支援します。	A（順調に進んでいる）	各公民館に地域連携推進員を配置し、地域住民との情報共有や活動拠点の提供を行っている。また、地域の交流の場づくりが進むよう、地域振興事業補助金や区民館等運営事業補助金、地域内連携まちづくり事業費補助金を交付し、資金面での支援も行っている。現在、日進地区では日進みらいの会が地域の方が交流できる場として月に１回、公民館でみらいカフェを開催している。	継続	引き続き地域活動を支援していく。	地域協働課	
上 記 未 掲 載 事 業		計画施策－計画内容		評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課
	①	交流できる居場所づくりの推進　―　○地域住民の交流活動を促進するため、公民館等を活用した活動拠点の確保と提供を図ります。		A（順調に進んでいる）	まちかどサロンにおいて、認知症カフェやランチ会などの事業を実施し、外出促進や介護予防、高齢者同士の交流を促進している。老人憩いの家の運営のため、老人クラブへ補助金を交付し、高齢者が気軽に集まれる情報交換やレクリエーション活動等の拠点の支援をしている。		継続	引き続き、まちかどサロン、老人憩いの家を拠点として交流活動を推進する。	担当課
	②								

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位 け 置 づ	基本目標		3	地域福祉活動を支える人づくり						
	基本方針		1	地域福祉を担う人材等の育成						
既 存 事 業	実施事業									
	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価		今後（令和３年度以降）の方向性		担当課	
	1	ボランティア育 成支援	○ボランティア養成講座の充実やボランティアでの参 加機会の環境づくりを行います。		A（順調に 進んでいる）	碧南市市民活動センターでの市民活動・ボランティア活動 に役立つ各種講座の開催や、市民公益活動活性化補助金の 交付により市民活動の立ち上げや活動の活性化をスキル 面、資金面両面で支援している。また、相談者と登録団 体・人材バンク登録者のマッチングを行い、活動する機会 を作っている。	継続	引き続き講座の開催、補助金の交付、マッ チングの実施を行い、活動の場づくり、ス キル面、資金面での支援を続ける。	地域協働課	
			○新たなボランティア団体の立ち上げや育成を支援し ます。							
	2	地域福祉リー ダーの育成	○地域福祉の推進役となるリーダーの育成を支援しま す。		A（順調に 進んでいる）	地域活動・市民活動の推進役となる人材を育成するため、 まちづくりの担い手育成講座を実施した。	継続	引き続き地域活動・市民活動の推進役を育 成するための講座を実施していく。	地域協働課	
上 記 未 掲 載 事 業		計画施策－計画内容			評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課
	①					(上記未掲載事業なし)				
	②									担当課

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位 け 置 つ	基本目標	4	多様化する福祉課題に対応する支援体制づくり						
	基本方針	1	情報提供及び支援ネットワークの充実						
既 存 事 業	実施事業								
	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価		今後（令和３年度以降）の方向性		担当課
	1	情報提供の充実	○広報や市ホームページ等の工夫や改善により、サービス情報を一層分かりやすく提供します。 ○サービス等の情報が行き届くよう、支援を必要とする人に直接関わる民生委員等への福祉情報の提供を充実します。	B（概ね順調だが、改善の余地あり）	ホームページの内容を業務ごとに整理し、分かりやすい表記にするよう掛けている。また、地域自立支援協議会の作業部会で、支援を必要とする人にどのようにすればサービス情報が届くか検討しているが、有効な具体的な方策が見つかっていない。 ※へきなん障害者ハーモニープラン（施策目標４－（２））	見直し・改善	民生委員に冊子「へきなんの福祉」の配布のみではなく、必要に応じて制度説明の機会を設けるよう努める。また、支援を必要とする人にどのようにすればサービス情報が届くか引き続き地域自立支援協議会の作業部会で検討を実施する。	福祉課	
				A（順調に進んでいる）	医療と介護ガイドマップや高齢者福祉サービス冊子を見直し、医療機関や介護事業所などを地域ごとの地図表記や、対象者分類ごとの表記にするなど、分かりやすい表記にするよう心掛けています。また、訪問型・通所型サービスガイドを作成し事業所毎の特徴などを記載しサービス内容を分かりやすくした。 ※碧南市高齢者ほっとプラン（基本施策３－３（４））	充実	冊子やホームページなど、分かりやすい表記に努める。	高齢介護課	
				A（順調に進んでいる）	広報、市ホームページへの掲載に加えて、３か所の地域包括支援センターの案内チラシを作成した。また、地区民協へ継続的に参加し、「顔の見える関係」づくりを通じて担当ケースへの支援体制を充実することに取り組んだ。 ※碧南市高齢者ほっとプラン（基本施策２－２（１）、（１））	充実	地域包括支援センターを身近な相談機関として認知していただけるよう、継続して周知に努める。	地域包括支援センター	
	2	支援ネットワークの充実	○相談事業の利用者に対し、的確かつ迅速に対応し、充実した支援をするため、各課等や社会福祉協議会等との連携を強化します。	A（順調に進んでいる）	毎月、社会福祉協議会と相談支援等連絡会議を開催し、連携強化を図っている。また、障害福祉サービスについて、高齢介護課や地域包括支援センターと連携し、適切なサービスを受けることができるよう連携している。 ※へきなん障害者ハーモニープラン（施策目標１－（１））	継続	引き続き、各課等や社会福祉協議会との連携強化に努める。	福祉課	
				A（順調に進んでいる）	〃地域包括ケア会議を開催し、地域包括支援センターや健康課との連携を図っている。医療と介護の連携推進事業としてＩＣＴの導入により、クラウド上で介護サービス利用者の医療、介護、健康等の情報が、支援者間で共有をすすめている。ＩＣＴ：Information and Communication Technologyの略称。日本語訳は 情報通信技術。 また、介護サービス機関連絡協議会とも定期的に会議を開催し高齢者の支援ネットワークの構築をすすめている。新たに１２事業所と高齢者等の見守りに関する協定を締結し、見守り活動の普及及び啓発を行った。 ※碧南市高齢者ほっとプラン（基本施策２－１（３）、２－２（３）、３－３（２））	継続	引き続き、関係機関との連携強化を図っていく。	高齢介護課	
				A（順調に進んでいる）	地域ケア会議については個別のケースについて個別地域ケア会議を開催し、関係者と課題解決の方策を検討した。 ※碧南市高齢者ほっとプラン（基本施策２－２（２））	継続	引き続き、関係機関との連携強化を図っていく。	担当課	
	上 記 未 掲 載 事 業	計画施策－計画内容		評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課
		①			(上記未掲載事業なし)				
②									

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位 け 置 づ	基本目標	4	多様化する福祉課題に対応する支援体制づくり						
	基本方針	2	安心して子どもを生み育てられる環境づくり						
既 存 事 業	実施事業								
	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価		今後（令和３年度以降）の方向性		担当課
	1	子育て支援体制の充実	○仕事と子育ての両立を支援するため、子育て支援事業の充実を図ります。		A（順調に進んでいる）	各子育て支援センターのたよりやチラシを相互に置くな ど、子育て支援に関わる事業周知の機会を増やし、利用の 促進を図った。	継続	子育て支援事業について、対象や内容を検討し、利用しやすい事業の提供により、更 なる利用の促進に努める。	こども課
	2	ボランティア等 による子どもの 遊び場づくり	○地域住民やボランティアが主体となって運営する取 り組みを支援します。		A（順調に 進んでいる）	青年ボランティアのヘキサポスタッフによる「プレイメイ ト事業」、子ども会「子どものつどい事業」において子ど もの遊び場づくりをした。	充実	引き続き、ヘキサポ、子ども会等の事業を 通じて子どもの遊び場づくりへの取組みを 支援するとともに参加者が増えるよう新し いイベントを計画する。	生涯学習課
			○子どもたちが外でのびのびと遊ぶことができるよう に、地域住民による自然体験学習の機会づくりを支援 します。						
	3	子どもに関わる 団体の情報集約 とネットワーク づくり	○子育て支援センター等を通じて、子育てに関わる情 報発信のネットワークづくりを進めます。		A（順調に 進んでいる）	保育園、幼稚園、認定こども園、児童センター、ららくる にしばたにて園庭開放や地域子育て支援センターのイベン トやプログラムを通じ、地域における子育て世帯間の交流 の場を提供している。	継続	引き続き、地域における子育て世帯間の交 流の場を提供していく。	こども課
上 記 未 掲 載 事 業		計画施策－計画内容		評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課
	①				(上記未掲載事業なし)				担当課
	②								

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位 け 置 つ	基本目標	4	多様化する福祉課題に対応する支援体制づくり						
	基本方針	2	高齢者・障害者・生活困窮者の自立支援						
既 存 事 業	実施事業								
	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価		今後（令和３年度以降）の方向性		担当課
	1	福祉サービスの 質の確保及び向 上	○サービス利用者のニーズを把握した上で、きめ細 かな福祉サービスの提供を促進します。 ○福祉サービス事業所への監査を実施し、サービスの 低下を防止するとともにサービス向上に向けた方 策を検討します。	A（順調に 進んでいる）	サービス等利用計画を確認するとともに、個々の担当相 談員と調整を行い、意見を参考に必要なサービスを提供 している。また、福祉サービス等事業所へは定期的な実 地指導を実施している。 ※へきなん障害者ハーモニープラン（施策目標１－ （２））	継続	引き続き、きめ細やかなサービス提供の促 進及びサービスの低下防止するため、福祉 サービス事業所と打ち合わせ会等を開催 し、サービス向上に向けた方策を検討す る。	福祉課	
				A（順調に 進んでいる）	要介護認定者が安心してサービスを受けることができる よう、サービス事業者への指導や相談員の派遣等を通 じ、サービスの質の向上を図っている。 また、介護サービス事業の関係者で介護サービス機関連 絡協議会を組織し、サービス事業、ケアマネジメントの 質の向上に取り組んでいる。 ※碧南市高齢者ほっとプラン（基本施策３－３（２））	継続	引き続き、サービス事業者への指導や相談 員の派遣等を通じ、サービスの質の向上を 図る。	高齢介護課	
				A（順調に 進んでいる）	包括的支援事業において相談者のアセスメントを通じて ニーズを把握・整理し適切な支援を行っている。 地域包括支援センター、市内介護支援事業所のケアマネ ジメント機能を向上のため地域包括支援センター主任介 護支援専門員と市内主任介護支援専門員の連携に取り組 んでいる。 ※碧南市高齢者ほっとプラン（基本施策３－３（３））	継続	引き続き、相談者への個別支援に尽力す る。また、介護支援専門員へのマネジメ ント支援に継続して取り組む。	地域包括支援 センター	
	2	介護者等の支援	○介護保険法や障害者総合支援法を踏まえたサービ スの内容や仕組み、手続きの方法について引き続き 周知を図ります。	A（順調に 進んでいる）	窓口、ホームページ及びガイドブックにて周知を実施し た。 ※へきなん障害者ハーモニープラン（施策目標４－ （３））	継続	引き続き、周知を図るとともに制度改 正の際の周知も迅速に行うよう努め る。	福祉課	
				A（順調に 進んでいる）	医療機関と介護サービス事業所を掲載した医療と介護ガ イドマップを作成し、窓口での相談時を中心に、配布し ている。 ※碧南市高齢者ほっとプラン（基本施策３－３（４））	継続	引き続き、周知を図るよう努める。	高齢介護課	
				A（順調に 進んでいる）	市が作成した介護保険パンフレットやセンター独自の制 度パンフレットを準備し、窓口で相談時に制度などにつ いてわかりやすい説明に取り組んでいる。 ※碧南市高齢者ほっとプラン（基本施策２－２）	継続	引き続き、相談窓口での対応を充実す るよう努める。	担当課	
	3	生活困窮者の自 立支援	○生活困窮者の相談に応じ、関係機関と連携し、必要 な情報提供や対応、助言を行います。	A（順調に 進んでいる）	生活困窮者自立支援法に基づき、社会福祉協議会が主た る窓口となり生活に困窮している方からの相談を受け付 け、本人同意のうえで支援を実施した。 その際には、本人の意向や現状に合わせた支援を行うた めに、福祉課（生活保護担当）、ハローワーク碧南を始 めとした必要と考えられる機関との情報共有、支援調整 会議を開催し、困窮状態からの早期脱却を目指した相談 受付を行った。	継続	今後も関係機関と連携をとりながら、 適切な支援を実施する。	福祉課	
	上 記 未 掲 載 事 業	計画施策－計画内容		評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課
①				（上記未掲載事業なし）					
②									

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位 け 置 づ	基本目標	5	安心・安全を高める地域づくり							
	基本方針	1	家庭・近所・地域での防災対策の充実							
	実施事業									
既 存 事 業	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価		今後（令和３年度以降）の方向性		担当課	
	1	災害時の支援体制づくり	○大規模災害に備えた避難所運営訓練や、資機材取扱い訓練等自主防災会と協力し、防災訓練を実施します。		B（概ね順調だが、改善の余地あり）	年１回地区持ち回りで市総合防災訓練を実施。平成２８年度から令和元年度まで大浜、中央、新川、旭の各地区会場及びその他地区自主防災会で実施し、防災関係機関の参加も含め延べ約８，５００名が参加した。		充実	従来通り各地区持ち回りで該当地区会場を中心に各自主防災会にても実施していただき、継続する中でより実効性を高めた訓練内容としていく予定。	防災課
	2	災害ボランティアと自主防災会との連携	○自主防災会の強化を図るとともに、各地域において大震災を想定した防災訓練を行う等、地域での防災対策を支援します。		A（順調に進んでいる）	地域の防災リーダーを育成するため、社会福祉協議会が毎年防災リーダー養成講座を２地区で実施。また、市防災課職員及び碧南防災ボランティア連絡会が各自主防災会の防災訓練に出向き、防災講座の実施や各種防災に関する指導を実施した。		継続	引き続き、防災リーダー養成講座を地区ごとに開催するとともに、各自主防災会の訓練を継続実施していただくよう依頼する。市職員及び防災ボランティアの協力体制は維持していく。	防災課
	計画施策－計画内容		評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課		
上 記 未 掲 載 事 業	①				(上記未掲載事業なし)					
	②									

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位 け 置 づ	基本目標		5	安心・安全を高める地域づくり						
	基本方針		2	地域の見守り・防犯活動の推進						
	実施事業									
	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価		今後（令和３年度以降）の方向性		担当課	
既 存 事 業	1	見守り活動の推進	○地域の自主的な見守り活動を支援します。		B（概ね順調だが、改善の余地あり）	各地区で自主的な見守り活動が行われており、活動資材として、ベスト・帽子等を配布した。課題として地区毎の自主的な活動に差があることが挙げられる。		継続	引き続き、地域の自主的な見守り活動を支援する。	地域協働課
			○小中学校等へ寄せられる不審者情報を電子メールにて周知し、保護者へ注意を促します。		A（順調に進んでいる）	不審者情報や緊急情報について電子メールやFAXで各学校へ周知した。		継続	引き続き、必要に応じた対応を心がけていく。	学校教育課
	2	地域ぐるみでの防犯対策の推進	○犯罪の発生状況や特徴をホームページ等で周知するとともに、防犯教室を開催します。		A（順調に進んでいる）	犯罪の発生状況や特徴をホームページ等で周知している。また、公民館高齢者教室にて、愛知県警「のぞみ」チームを派遣し防犯教室の開催、青色回転灯を装着したパトロール車による市内巡回パトロール活動を委託実施し、地域における防犯パトロール支援として、防犯リーダー研修会を開催した		継続	引き続き、犯罪の発生状況や特徴をホームページ等で周知するとともに、防犯教室を開催する。青色回転灯を装着したパトロール車による市内巡回パトロール活動を実施するとともに、地域における防犯パトロールを支援する。	地域協働課
			○青色回転灯を装着したパトロール車による市内巡回パトロール活動を実施するとともに、地域における防犯パトロールを支援します。							
上 記 未 掲 載 事 業		計画施策－計画内容			評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課
	①					（上記未掲載事業なし）				担当課
	②									

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位 置 づ	基本目標		5	安心・安全を高める地域づくり							
	基本方針		3	権利擁護の充実							
既 存 事 業	実施事業										
	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価			今後（令和３年度以降）の方向性		担当課	
	1	権利擁護の推進	○権利擁護に関する制度の普及、浸透を図るため、成年後見支援センターを設立し、情報提供や啓発を行い、対象者の把握や利用促進に取り組みます。		A（順調に進んでいる）	成年後見支援事業を社会福祉協議会に委託し、関係団体への周知や啓発を行うとともに相談に応じている。 ※へきなん障害者ハーモニープラン（施策目標５－（１））			継続	引き続き、周知を図るとともに制度改正の際の周知も迅速に行うよう努め、成年後見制度の利用促進を図る。	福祉課 高齢介護課
			計画施策－計画内容		評価	現状・課題・評価の理由など			今後の方向性		担当課
上 記 未 掲 載 事 業	①				(上記未掲載事業なし)						
	②										

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位 け 置 づ	基本目標		1	福祉の意識を高める環境づくり						
	基本方針		2	福祉について学ぶ機会の創出						
既 存 事 業	実施事業									
	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価			今後（令和３年度以降）の方向性		関連する事業等
	1	地域と学校の連携強化	〇交流の場をつくり、地域の異世代間のつながりをつくります。	A（順調に進んでいる）	碧南市内の全ての小中学校、高校で福祉実践教室を開催した。			継続	引き続き事業を実施し、交流の場や地域の異世代間のつながりづくりをする。	福祉教育、福祉実践教室
				A（順調に進んでいる）	夏休み中高生ボランティア体験教室を羽久手、天道、築山、日進、鷲塚、荒子、西端、大浜、棚尾、新川の各保育園で開催した。 市民ふれあいフェスティバルにおいて、中高生（碧南工業高校、新川中学校、中央中学校、南中学校）のボランティアが協力した。			継続		ボランティアセンター
	2	学校教育における福祉教育の推進	〇福祉教育の体験学習を推進します。	A（順調に進んでいる）	碧南市内の全ての小中学校、高校で福祉実践教室を開催した。			継続	引き続き、碧南市内の全ての小中学校、高校で福祉実践教室を開催し、福祉教育の推進を図る。	福祉教育、福祉実践教室
	3	地域福祉活動の機会づくり	〇中学生や高校生を対象に夏休み等の期間を利用して、高齢者や障害者施設等への体験学習の機会を提供します。	A（順調に進んでいる）	夏休み中高生ボランティア体験教室を開催し、羽久手、天道、築山、日進、鷲塚、荒子、西端、大浜、棚尾、新川の各保育園での保育園体験、普通救命講習（ＡＥＤ体験）、総合防災訓練での体験を実施した。 市民ふれあいフェスティバルにおいて、中高生（碧南工業高校、新川中学校、中央中学校、南中学校）のボランティアが協力した。			継続	引き続き、夏休み中高生ボランティア体験教室を開催し、体験学習の機会をつくる。	ボランティアセンター
				A（順調に進んでいる）	市民ふれあいフェスティバルにおいて、ボランティア連絡協議会と協働し、車いす体験、ガイドヘルプ体験、手話体験、点字体験、要約筆記体験ブースを展開、市民への啓発を行った。			継続	引き続き、ボランティア連絡協議会と協働し、市民へのボランティア活動の啓発を行う。	ボランティアセンター
上 記 未 掲 載 事 業		計画施策－計画内容		評価	現状・課題・評価の理由など			今後の方向性		担当課
	①									
	②									

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位 け 置 づ	基本目標		1	福祉の意識を高める環境づくり						
	基本方針		3	地域組織活動の推進						
	実施事業									
	計画施策		計画内容		令和2年度までの現状・課題・評価		今後（令和3年度以降）の方向性		関連する事業等	
既 存 事 業	1	町内会周知と加入促進	○地域福祉組織のネットワーク化を進め、町内会の充実を支援（促進）します。		B（概ね順調だが、改善の余地あり）	新川、中央、大浜、棚尾、旭、西端の市内全地区で地域福祉推進会議などを開催し、地域のネットワーク化を進めているが、町内会の充実までには至っていない。		継続	引き続き、各地区の地域福祉推進会議などを通じて、町内会を含めた住民組織のネットワーク化を図る。	地域福祉推進会議
	2	町内会等地域活動の支援	○地域活動を支援するため、ボランティア団体等と町内会との連携を図ります。		B（概ね順調だが、改善の余地あり）	各地区の地域福祉推進会議などで地域活動を行う団体と町内会の連携について検討しており、新川、中央、旭、西端の各地区で関係者の打合せを開催した。		継続	引き続き、各地区の地域福祉推進会議などを通じて、ボランティア団体等と町内会との連携を図る。	地域福祉推進会議
上 記 未 掲 載 事 業		計画施策－計画内容			評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課
	①									
	②									

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位置づけ	基本目標		2	世代間や地域での交流の機会づくり					
	基本方針		1	地域での交流の機会づくり					
	実施事業								
	計画施策		計画内容		令和2年度までの現状・課題・評価		今後（令和3年度以降）の方向性		関連する事業等
	1	公共施設等を活用した交流の機会づくり	○地域で取り組まれている様々な行事と連携し、異世代が交流できるイベントを支援します。		A（順調に進んでいる）	「たのしいなつのおもしろフェスティバル」（棚尾児童センター：参加者436名・ボランティア28名）、「棚尾公民館まつり」（参加者336名）に参加し、交流のきっかけづくりを行った。	継続	引き続き、各施設から地域へ交流の機会づくりをする。	児童センター
	2	交流できる居場所づくりの推進	○地域の子育て相談や子育てサロンの活動、気軽に集える居場所づくり等を支援します。		A（順調に進んでいる）	・利用者の方の子育て相談を実施した。 ・市内全地区（7小学校区）で、未就園児対象の「〇〇っ子あつまれ」を開催した。（棚尾保育園：棚尾・大浜っ子10回、日進っ子10回。西端保育園：西端・新川っ子8回。年齢別の「あつまれ」3回。荒子保育園：鷺塚・中央っ子8回、年齢別の「あつまれ」3回。）「おじいちゃん・おばあちゃんと一緒」も各保育園支援センター1回開催した。 ・子育てサークルの育成を行った（ここるつくしんかわ）。 ・ベビーサロン月1回開催した（ここるつくしんかわ）。	継続	引き続き、子育て支援センター等で利用者の方の子育て相談の実施と「〇〇っ子あつまれ」と年齢別の「あつまれ」を開催する。	子育て支援センター
					A（順調に進んでいる）	精神障害者等の居場所「ころころ」を、福祉センターあいくるで毎週木曜日に開催した。	継続	引き続き、精神障害者等の居場所「ころころ」を実施し、気軽に集える居場所づくりなどを支援する。	基幹相談支援センター
			○幼稚園・保育園や小・中学校の行事、町内会行事等における子どもの交流を通じて、市民の交流を進めます。		A（順調に進んでいる）	公民館まつりなどに参加し、地域住民と交流づくりをした。	継続	引き続き、公民館まつりなどに参加し、地域住民の交流を進める。	児童センター
	計画施策－計画内容		評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課	
	①								
②									

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位置づけ	基本目標	3	地域福祉活動を支える人づくり						
	基本方針	1	地域福祉を担う人材等の育成						
既存事業	実施事業								
	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価		今後（令和３年度以降）の方向性		関連する事業等
	1	ボランティア育成支援	○ボランティア養成講座を充実させ、ボランティアに気軽に参加できる環境づくりに努めます。	A（順調に進んでいる）	災害ボランティア養成講座、夏休み中高生ボランティア体験教室を開催したほか、市民ふれあいフェスティバルへ中高生にボランティアとして参加する機会を設けた。	継続	引き続き、ボランティア養成講座の更なる充実、ボランティアに気軽に参加できる環境づくりを行う。	ボランティアセンター	
			○ボランティア推進協議会等のボランティア組織の育成を支援します。	A（順調に進んでいる）	市民ふれあいフェスティバルやボランティアのつどいを通じて、ボランティア団体への活動協力をを行い、組織の育成支援を行った。	継続	引き続き、ボランティア組織の育成を支援する。	ボランティアセンター	
			○地域の新たなボランティア活動団体の立ち上げや育成を支援します。	A（順調に進んでいる）	市民活動センターと協働して、ボランティア希望者にボランティア団体などの情報提供をした。	継続	引き続き、市民活動センターなどと連携し、育成支援を行う。	ボランティアセンター	
	2	地域福祉リーダーの育成	○先進的な取り組みの勉強会の支援を行います。	A（順調に進んでいる）	地域福祉推進会議やコアメンバー会議を通じて、今後の取り組みについて支援を行った。	充実	各地区の地域福祉推進会議などを通じて、先進的な取り組みの情報提供に努める。	地域福祉推進会議	
			○リーダー育成研修を行い、地域福祉の推進役となるリーダーの育成に努めます。	B（概ね順調だが、改善の余地あり）	愛知県社会福祉協議会が主催するコミュニティソーシャルワーカー養成研修や愛知県が主催する生活支援コーディネーター養成研修を受講し、地域福祉の推進役となる人材育成を図った。	継続	引き続き、コミュニティソーシャルワーカー養成研修や生活支援コーディネーター養成研修などの受講による人材育成に努める。	コミュニティソーシャルワーカー養成研修 生活支援コーディネーター養成研修	
				B（概ね順調だが、改善の余地あり）	各地区の地域福祉推進会議などを通じたリーダー育成が今後の課題ではあるが、新川、中央、大浜、旭、西端の各地区でコアメンバーによる話し合いの場を立ち上げ育成を図った。	充実	全地区でコアメンバーによる話し合いの場の立ち上げを目指す。今年度既に立ち上がっている地区は引き続き開催し、リーダー育成のための内容の充実に努める。	地域福祉推進会議	
	上記未掲載事業	計画施策－計画内容		評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課
		①							
②									

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

既存事業	位 け 置 づ	基本目標	4	多様化する福祉課題に対応する支援体制づくり					
		基本方針	1	情報提供及び支援ネットワークの充実					
	実施事業								
	計画施策		計画内容	令和２年度までの現状・課題・評価			今後（令和３年度以降）の方向性		関連する事業等
	1	情報提供の充実	○社協だよりや社協ホームページ等を活用し、市民がより情報を入手しやすいように提供します。	A（順調に進んでいる）	ホームページや年３回発行の社協だよりを活用し、福祉サービス事業所の情報提供を実施した。	充実	市民が必要とする情報をより入手しやすいよう、内容の充実に努める。	社協PR事業	
			○地域支援を通じて、各地域の身近な課題の把握に努め、地域問題の解決に向けた支援に役立ていきます。	A（順調に進んでいる）	新川、中央、大浜、棚尾、旭、西端の市内全地区で地域福祉推進会議などを開催し、地域の課題把握と解決に向けた話し合いを実施した。	継続	引き続き、各地区の地域福祉推進会議などを通じて、課題の把握や解決に向けて検討する。	地域福祉推進会議	
	2	支援ネットワークの充実	○民生委員を始めとする身近な地域（福祉）関係者との支援ネットワークを作ります。	B（概ね順調だが、改善の余地あり）	新川、中央、大浜、棚尾、旭、西端の市内全地区で地域福祉推進会議などにて地域の関係者のネットワークづくりに努めたが、構築には至っていない。	充実	各地区の地域福祉推進会議などを通じて、身近な地域の関係者のネットワークの構築及び拡大に努める。	地域福祉推進会議	
			○地域のソーシャルワーカーや包括支援センター、障害者相談支援事業所等が連携し、身近で総合的な相談窓口の充実を図ります。	A（順調に進んでいる）	個別の支援を通じて、各相談支援機関と連携を図った。	継続	引き続き、関係機関と連携や協働を図り、総合的な相談体制づくりに努める。	地域包括支援センター	
				A（順調に進んでいる）	個別の支援を通じて、各相談支援機関と連携を図った。碧南市地域自立支援協議会の各部会にて、内容に応じて関係機関と連携し、課題の共有や検討を実施した。	継続		基幹相談支援センター	
				A（順調に進んでいる）	生活困窮者自立支援の相談において、地域包括支援センターや基幹相談支援センターと連携を図った。	継続		生活困窮者自立支援	
○障害者相談支援事業所等の人材を育成し、相談機能の充実に努めます。			A（順調に進んでいる）	碧南市地域自立支援協議会事業所部会にて人材育成のための意思決定支援に関する研修を３回開催し、延べ７２名が受講した。	充実	各分野の相談支援の充実につながるよう、フォローアップを行い人材育成に努める。	基幹相談支援センター		
上記未掲載事業		計画施策－計画内容		評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課
	①								
	②								

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位置づけ	基本目標	4	多様化する福祉課題に対応する支援体制づくり							
	基本方針	2	安心して子どもを生み育てられる環境づくり							
既存事業	実施事業									
	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価		今後（令和３年度以降）の方向性		関連する事業等	
	1	子育て支援体制の充実	〇地域と連携し、地域の中で安心して子どもを育てられる環境づくりに取り組みます。	A（順調に進んでいる）	親子で触れ合える親子遊びなど楽しい遊びを実施した。「所長さんとお話ししましょう」（ららくるにしばた：親子３組参加）を実施した。	継続	引き続き、地域の方との交流や未就園児の保護者向け講座、親子遊びを開催する。	子育て支援センター		
				A（順調に進んでいる）	碧南市地域自立支援協議会こども部会にて、障害児などの課題を中心に各機関と連携を図り、安心して子どもを育てられる環境づくりにつながるよう検討した。	継続	引き続き、碧南市地域自立支援協議会こども部会にて、地域の関係機関や事業所などとのネットワークづくりを図りながら検討する。	基幹相談支援センター		
	2	ボランティア等による子どもの遊び場づくり	〇各地区の老人クラブやボランティアと連携を図り、各地域の小中学校や公民館等で行われている既存の行事も活用しながら、こどもまつりの充実に努めます。	A（順調に進んでいる）	地域のボランティアやおやじの会と連携し、工作やゲームを実施した。東部児童センターで「こどもランド」を２日間開催した。１日目はボランティアによるマジック＆バルーンショーを行い、２日目は東中生１４名と教職員２名のボランティアの協力により、夏祭りを実施した。親子８６組、小中学生等も含めて２５２名が参加した。	継続	引き続き、各公民館まつりなどで地域のボランティアと連携し、工作やゲームを行う。	児童センター		
				A（順調に進んでいる）	児童センターなどで活動するボランティアが行う行事（「将棋・お話し会」を月１回開催、東部児童センターで「おもちゃ病院」（月２回開催）を通して、多世代が交流し触れ合うことができた。 ・ 榎尾児童センターで小学生対象の「お茶会」を開催し、小学生６名、ボランティア２名が参加した。 ・ 東部児童センターで、ボランティアの小学生対象の夏休み陶芸教室を２回連続講座で実施し、各回１５名、１４名が参加した。	継続	引き続き、児童センターなどで活動するボランティアが行う行事を通して、多世代交流の機会づくりを行う。	児童センター		
					A（順調に進んでいる）	中央、大浜、榎尾、旭、西端の各地区では、多世代がふれあう機会につながる取り組みを実施した。	充実	各地区の地域福祉推進会議などを通じて、多世代での交流に関する検討や充実を図る。	地域福祉推進会議	
	3	子どもに関わる団体の情報集約とネットワークづくり	〇地域の子育てに関する情報を集約し、子育てに関わる情報発信を行うとともにネットワークづくりを進めます。	A（順調に進んでいる）	「幼稚園へ遊びに行こう」にて榎尾幼稚園見学を実施した（未就園児親子１０組参加）。「パパと消防署に行こう」の行事を碧南消防署東分署で署員の協力を得て、消火体験等を実施した。１９組３８名が参加した。	継続	引き続き、各事業を通じて、更なるネットワークづくりに努める。	子育て支援センター		
				A（順調に進んでいる）	西端地区で毎月開催される教育懇話会にて、ららくるにしばたの所長が参加し、こどもについての情報を共有した。ららくるにしばたで「未就園児親子クッキング」を開催（親子８組が参加）した。	継続		児童センター		
				A（順調に進んでいる）	碧南市地域自立支援協議会こども部会にて、障害児通所支援サービスの情報を集約した「きっずサービスガイド」や「児童支援者のための支援マップ」を更新し、保護者や関係機関に配布した。			引き続き、関係機関や事業所とネットワークを活かしながら、障害児に関する情報の集約と発信を検討する。	基幹相談支援センター	
	上記未掲載事業		計画施策－計画内容		評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課
		①								
		②								

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

既 存 事 業	位 置 づ	基本目標	4	多様化する福祉課題に対応する支援体制づくり					
		基本方針	3	高齢者・障害者・生活困窮者の自立支援					
	実施事業								
	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価		今後（令和３年度以降）の方向性		関連する事業等
	1	福祉サービスの質の確保及び向上	○身近できめ細かな生活支援のニーズ把握に努め、必要なサービス・生活サポートの仕組みづくりを支援します。		B（概ね順調だが、改善の余地あり）	コアメンバーによる話し合いの場を新川、中央、大浜、旭、西端の各地区で立ち上げ、必要なサービス・生活サポートの仕組みづくりを検討した。	充実	全地区でコアメンバーによる話し合いの場の立ち上げを目指す。今年度既に立ち上がっている地区は引き続き開催し、必要なサービスや生活サポートの仕組みづくりのための内容の充実に努める。	地域福祉推進会議
			○福祉課題に応じた、在宅支援メニューの改善・開発を支援します。		B（概ね順調だが、改善の余地あり）	碧南市地域自立支援協議会の各部会で様々な課題に対する検討を行った。	充実	碧南市地域自立支援協議会の各部会を通じて課題に応じた検討をする。	基幹相談支援センター
	2	介護者等の支援	○介護者の交流会等、介護者支援の場を充実します。 ○介護者教室を開催し、介護に関する知識の習得及び		A（順調に進んでい	市開催のハートフルケアセミナーや認知症家族のつどいの参加を促した。	見直し・改善	より効果的に介護者の交流を図ることができるよう検討する。	地域包括支援センター
	3	生活困窮者の自立支援	○関係機関と連携し、生活に困っている方を把握する体制を整備します。		B（概ね順調だが、改善の余地あり）	関係機関と連携しながら、対象者をより広く把握できるように努めた。	充実	地域も含めた幅広いネットワーク体制を整備する。	生活困窮者支援
			○生活に困っている方の相談に応じ、その人の思いに沿って、自立に向けての支援を行います。		A（順調に進んでいる）	個別に支援プランを作成し、相談者の状況に応じた支援を実施した。 人員を増やし、相談支援体制の強化を図った。	継続	引き続き、生活に困っている方の相談に応じ、その人の思いに沿って、自立に向けての支援体制の強化に努める。	生活困窮者支援
			○就労に向けて必要な支援を行います。		A（順調に進んでいる） A（順調に進んでいる）	ハローワークや障害者就労相談支援事業所などと連携して、就労相談を実施した。 碧南市地域自立支援協議会就労支援部会にて、障害者雇用の理解促進のため、地元企業向けに障害者雇用企業見学会を開催する。	継続 継続	引き続き、相談者の状況に応じた就労支援のため、関係機関との連携を深めていく。 引き続き、碧南市地域自立支援協議会就労支援部会にて、就労に関する検討をする。	生活困窮者支援 基幹相談支援センター
上 記 未 掲 載 事 業		計画施策－計画内容		評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課
	①								
	②								

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位 け 置 づ	基本目標	5	安心・安全を高める地域づくり						
	基本方針	1	家庭・近所・地域での防災対策の充実						
既 存 事 業	実施事業								
	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価		今後（令和３年度以降）の方向性		関連する事業等
	1	災害時の支援体制づくり		A（順調に進んでいる）	碧南市総合防災訓練にて、災害ボランティアセンター立ち上げ訓練を実施した。	継続	引き続き、碧南市総合防災訓練を活用し、災害ボランティアセンター立ち上げ訓練を実施する。	ボランティアセンター	
				A（順調に進んでいる）	碧南市地域自立支援協議会障害者災害時支援部会にて検討し、身体障害者福祉協会５名、みどり会８名、すまいる４名、ハートフルあおみ２名、手をつなぐ育成会２名、碧南高浜聴力障害者協議会２１名、ぶちま〜る９名、親子の会カラフル２名、その他２名の合計５５名が避難訓練に参加した。	継続	引き続き、碧南市地域自立支援協議会障害者災害時支援部会にて、災害などの非常時に備えた訓練について検討する。	基幹相談支援センター	
				A（順調に進んでいる）	西端地区で地域での見守り検討会を開催し、避難行動要支援者についても意見交換をした。 棚尾地区自主防災訓練に地域の福祉事業所利用者の参加調整を図り、避難訓練に避難行動要支援者が参加した。 中央地区では、防災に関連し災害時に連携できる仕組みや体制についてコアメンバーで意見交換をした。	充実	各地区の地域福祉推進会議などを通じて、市内全域において避難行動要支援者の支援につながるよう、地域との連携ができる体制づくりに努める。	地域福祉推進会議	
	2	災害ボランティアと自主防災会との連携		A（順調に進んでいる）	鷺塚公民館にて防災講座「家族を守ろう〜今私にできること〜」を、大浜公民館にて防災講座「自分で防災〜支援が届くまで」を開催した。参加延人数は、鷺塚公民館で３４名、大浜公民館で４７名が参加した。	充実	地域と連携し、地域に合わせた防災講座を市内２地区で開催し、市民の防災意識の向上に努める。	ボランティアセンター	
				A（順調に進んでいる）	碧南防災ボランティア連絡会の定例会に協力し、情報共有を図った。	継続	引き続き、碧南防災ボランティア連絡会への活動協力を行う。	ボランティアセンター	
上 記 未 掲 載 事 業		計画施策ー計画内容		評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課
	①								
	②								

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位 け 置 づ	基本目標		5	安心・安全を高める地域づくり						
	基本方針		2	地域の見守り・防犯活動の推進						
既 存 事 業	実施事業									
	計画施策		計画内容		令和2年度までの現状・課題・評価		今後（令和3年度以降）の方向性		関連する事業等	
	1	見守り活動の推進	○民生委員やボランティア・市民活動団体、老人クラブ等との連携を図りながら、子どもや高齢者の見守り活動を支援します。		B（概ね順調だが、改善の余地あり）	新川、中央、大浜、旭、西端の各地区のコアメンバーによる話し合いにおいて、見守りに関する意見交換をした。	充実	各地区の地域福祉推進会議などを通じて、子どもや高齢者の具体的な見守り活動について検討する。	地域福祉推進会議	
	2	地域ぐるみでの防犯対策の推進	○高齢者の悪質商法対策等、防犯に関する情報を提供していきます。		A（順調に進んでいる）	ふれあいいきいきサロンにて、高齢者の防犯の情報提供や警察官による防犯情報の提供を実施した。	継続	引き続き、関係者との情報共有や高齢者などへの情報提供に努める。	地域包括支援センター ふれあいいきいきサロン	
			○近所のつながりを強め、地域の防犯活動を支援します。		B（概ね順調だが、改善の余地あり）	新川、中央、大浜、棚尾、旭、西端の市内全地区で地域福祉推進会議などを開催し、近所のつながりの大切さについて話し合いを行い、防犯に関するご意見もあったが、具体的な支援には至っていない。	見直し・改善	引き続き、各地区の地域福祉推進会議などを通じて、近所のつながりと防犯につながるよう具体的な検討をする。	地域福祉推進会議	
上 記 未 掲 載 事 業		計画施策－計画内容			評価	現状・課題・評価の理由など		今後の方向性		担当課
	①									
	②									

へきなん地域福祉ハッピープラン 庁内ヒアリングシート

位 け 置 づ	基本目標		5	安心・安全を高める地域づくり							
	基本方針		3	権利擁護の充実							
	実施事業										
	計画施策		計画内容		令和２年度までの現状・課題・評価			今後（令和３年度以降）の方向性		関連する事業等	
	既存事業	1	権利擁護の推進	○高齢者や障害者、子どもの様々な権利擁護に関する総合相談体制の充実を図り、その人らしい生活の実現に向けた支援を行います。		A（順調に進んでいる）	顧問弁護士による出張相談会を年４回開催し、専門相談の機会を提供するとともに、高齢、障害、児童の各分野の相談支援機関との連携強化を行った。		継続	引き続き、成年後見支援センターや日常生活自立支援事業を実施し、関係機関との連携による総合相談体制の充実に努める。また、出張相談会を市内各地で開催し、成年後見制度の利用促進及び、センターの周知啓発活動に努める。	
				A（順調に進んでいる）	地域包括支援センターや基幹相談支援センターでの相談により、虐待防止や財産保護などの権利擁護の推進を図った。		充実	地域包括支援センターや基幹相談支援センターでの総合相談を通じて、その人らしい生活の実現に向けた支援に努める。		地域包括支援センター 基幹相談支援センター	
○地域において虐待、成年後見制度等をテーマにした権利擁護に関する講習会を開催し、誰でも安心して暮らせる地域づくりを進めます。				A（順調に進んでいる）	市民向け講演会「家族信託と成年後見制度の上手な使い方」を開催し、制度及び成年後見支援センターの周知啓発活動を行った。		充実	引き続き、勉強会などの啓発活動を実施し、権利擁護に関する周知に努める。		碧南市成年後見支援センター	
				A（順調に進んでいる）	碧南市地域自立支援協議会権利擁護部会にて障害福祉サービス事業所などを対象に虐待防止チェックリストを用いたアンケート調査を実施した。		継続	引き続き、碧南市地域自立支援協議会権利擁護部会にて、権利擁護に関する検討をする。		基幹相談支援センター	
上記未掲載事業		計画施策－計画内容			評価	現状・課題・評価の理由など			今後の方向性		担当課
	①										
	②										

へきなん地域福祉ハッピープラン

第3次碧南市地域福祉計画

第5次碧南市地域福祉活動計画

＜骨子案＞

碧南市・碧南市社会福祉協議会

令和2年●月

第1章 計画の概要

1 地域福祉とは

(1) 地域福祉の定義

「ふくし」とは…

ふだんの くらしの しあわせ

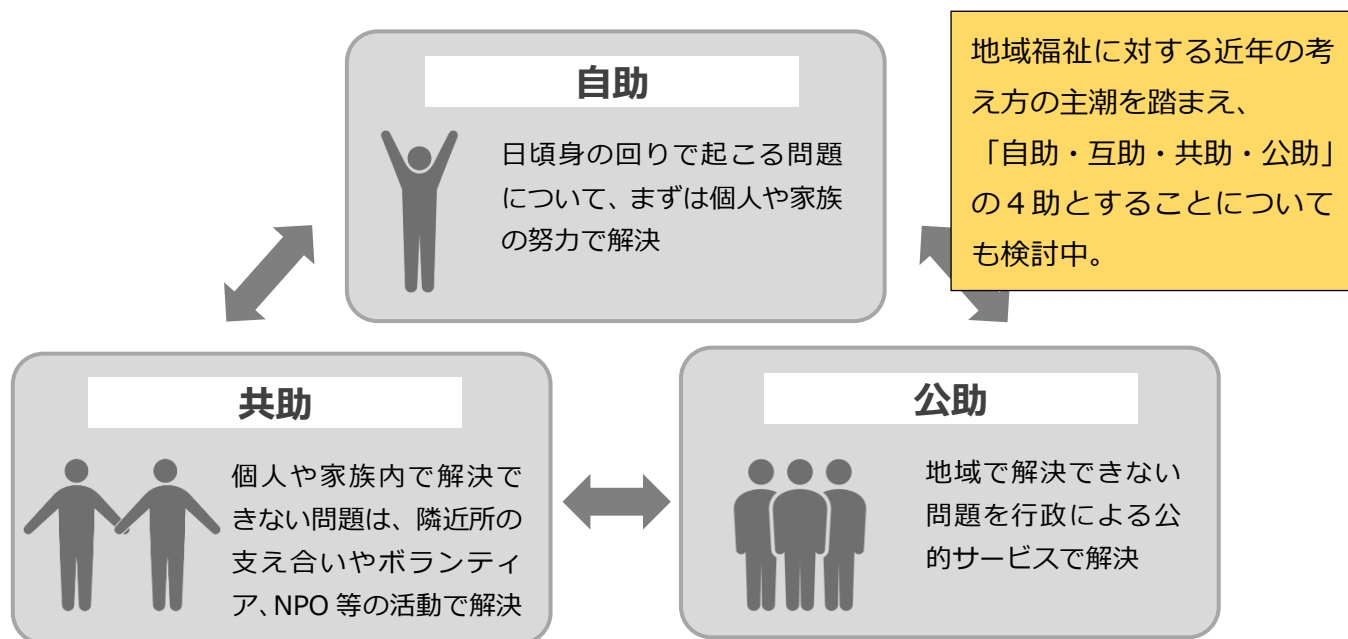
これまで「福祉」は、高齢者や障害のある人、子どもなどの対象者ごとに分かれた制度に基づいて支援体制が整えられ、サービスが提供されてきました。しかし、地域社会が大きく変容する現代社会において、誰もがふだんの生活に不安や不便を抱える可能性があります。

地域福祉とは、そういった課題を行政のサービスだけではなく、隣近所や地域、事業所が主体的に関わり合う中で解決していくことをいいます。

地域は、そこに暮らす住民が主体的に関わり合い、地域のことを自分ごととして考えることでよりよくなっていきます。そのため、ボランティアなどの民間の公益的な活動も、行政の穴埋めではなく、「わたしたちの」地域をつくる大きな力となります。また、労力のかかる支援だけでなく、地域の中で顔の見える関係をつくることや、ちょっとした見守り・手助けをすることなども地域福祉につながります。

(2) 地域福祉を進めるための自助・共助・公助

地域福祉を進めるためには、「自助」「共助」「公助」の視点を持って、重層的に取り組んでいくことが大切です。また、これまではそれぞれが役割分担して取り組みを進めることに重きが置かれていましたが、昨今の多様化・複雑化する地域生活課題に対応していく多面は、それぞれが重なり合って、柔軟に、できることをやっていくことが大切です。

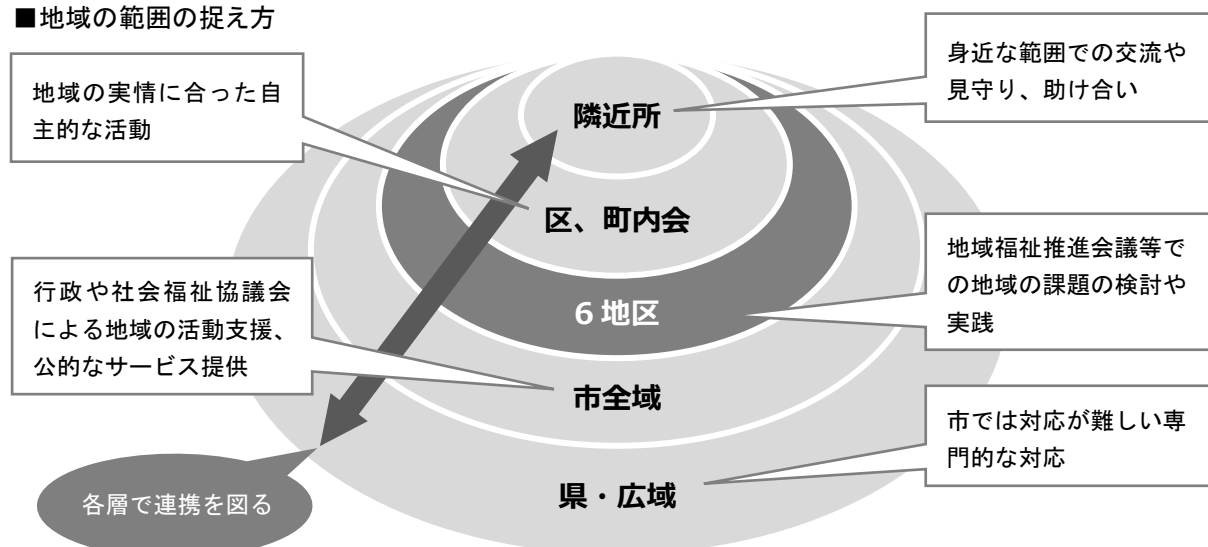


(3) 地域福祉を進めるための圏域の考え方

地域福祉を推進していくには、身近な隣近所での支え合いから、行政や社会福祉協議会、福祉事業所による専門的な支援まで、地域の課題や実情を踏まえた取り組みが必要になります。

本市では、これまで市内6地区（新川地区、中央地区、大浜地区、棚尾地区、旭地区、西端地区）において地域福祉推進会議を開催し、地域福祉を進める主要な圏域として役割を担ってきました。今後も、6地区を単位とした課題検討や取り組みの実践を進めつつ、地域を重層的に捉え、各階層が相互に連携し、適切な範囲において多様な施策を展開していきます。

■地域の範囲の捉え方



2 計画策定の背景

(1) 策定の趣旨

近年、国全体では人口減少や少子高齢化の進行、都市化や情報化、国際化の進展などにより、社会は大きく変化しています。一人ひとりの暮らしについても、単身世帯や核家族の増加による世帯の縮小、働き方やライフスタイル、価値観の多様化などにより、かつての地域社会の関係性は変容し、地域のつながりの希薄化がみられます。そんな中、地域を取り巻く課題はますます複雑化・多様化しています。例えば、ひきこもりやごみ屋敷、生活困窮者等の新たな社会問題や、50歳代の無職の子どもと80歳代の介護が必要な親の「8050問題」といった複合的な課題を抱える世帯など、従来の分野ごとの福祉制度では対応できない課題がみられます。こうした課題に対応していくには、分野にとらわれず、地域で包括的に困りごとを受け止めることや、関係者の横断的な連携により支援体制を強化することが求められます。

碧南市（以下、「本市」という。）では、行政と碧南市社会福祉協議会が個別に策定してきた「碧南市地域福祉計画」（市策定）、「碧南市地域福祉活動計画」（社会福祉協議会策定）を一体とし、平成28年に「へきなん地域福祉ハッピープラン（第2次碧南市地域福祉計画・第4次碧南市地域福祉活動計画）」（以下、「前回計画」という。）を策定しました。近年は、市内の6地区で「地域福祉推進協議会」が開催され、定期的な会合が行われたり、様々な主体的な地域活動が進められています。また、市民の地域参加については、「碧南市協働のまちづくりに関する基本条例」（平成25年施行）により、市民や行政が協力し合ってより良い碧南市をつくるための基本ルールが定められています。この考えに基づき、地域の様々な組織が協力して地域自治を進める「地域まちづくり組織」の設置が進んでいます。

一方で、今後本市でもますます少子高齢化が進み、人口も縮小していくことが見込まれる中、これまで以上に支援を必要とする人が増えてくることが懸念されます。そのため、行政や社会福祉協議会が課題を抱えている人に寄り添い、支えていくことはもちろん、地域や身近な隣近所で互いに支え合っていくことが重要となっています。

このたび前回計画が期間満了を迎えるにあたり、あらためて市民や地域の活動団体等が抱える課題や意識、方向性を把握するとともに、これまで推進してきた施策の評価・見直しを行い、新たな本市における地域福祉の方向性を示す必要があります。以上を踏まえ、「第3次碧南市地域福祉計画」と「第5次碧南市地域福祉活動計画」を一体とした「へきなん地域福祉ハッピープラン」を策定します。

(2) 国の動き

国では近年、「地域共生社会」の実現に向けた様々な動きがみられます。平成29年に「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」が成立し、社会福祉法についても改正されました。これにより、地域福祉計画は福祉分野の各計画の上位計画として位置づけられることとなりました。併せて、「地域福祉計画策定のガイドライン」も新たに示されています。

■地域福祉に関する近年の動き

年月	通知等	内容等
平成28年 6月	「ニッポン一億総活躍プラン」閣議決定	あらゆる場で誰もが活躍できる、全員参加型の社会を目指す。平成27年に「新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン」で示された、すべての人が世代や背景を問わず、安心して暮らし続けられるまちづくり（全世代・全対象型地域包括支援）という視点を踏まえ、「地域共生社会の実現」が盛り込まれている。
7月	「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部の設置	地域共生社会を実現するための具体策を検討するため設置される。
10月	地域強化力検討会の設置	「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部の下、住民主体による地域課題の解決力強化・体制づくり、市町村による包括的相談支援体制等について検討を行うため設置される。市町村における包括的な支援体制の整備のあり方や、今後強化すべき社会保障・生活支援の機能について検討され、この結果が社会福祉法等の改正へと反映される。
平成29年 6月	社会福祉法の改正	「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」により改正される。「我が事・丸ごと」の地域福祉推進の理念や、市町村が包括的な支援体制づくりに努める旨が規定される。また、地域福祉計画の充実にあたり、福祉の各分野における共通事項を定め上位計画として位置づけることも明記される。
12月	地域福祉計画策定ガイドライン提示	地域福祉の推進に関する事項として5つの事項を一体的に定める計画として、「市町村地域福祉計画」を策定することが努力義務とされる。
平成30年 4月	改正社会福祉法の施行	
令和元年 5月	地域共生社会推進検討会の設置	市町村における包括的な支援体制の整備のあり方や、今後強化すべき社会保障・生活支援の機能について検討するために設置される。令和元年12月にとりまとめられ、3つの支援（「断らない相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」）を一体的に行う市町村の新たな事業の創設等について提示される。

3 計画の位置づけ

(1) 「地域福祉計画」と「地域福祉活動計画」策定の位置づけ

- **「地域福祉計画」**は、社会福祉法第107条に基づいて行政が策定する市町村地域福祉計画です。地域福祉を推進していくための「理念」や「仕組み」を定めた、市の地域福祉推進に関する総合的な方向性や施策を示すものです。
- **「地域福祉活動計画」**は、住民や、地域で福祉活動を行う人々、福祉に関するサービス等を提供する事業所等が協力して、地域福祉を推進していくことを目的とした民間の活動・行動計画です。社会福祉協議会が中心となって取り組むべきことを定めています。

「地域福祉計画」と「地域福祉活動計画」は、ともに地域福祉の推進を目指すもので、互いに補完・補強し合う関係にあります。また、策定過程においては住民が参加し、事業者・社会福祉協議会・行政と協働することが重要となり、計画策定自体が住民の福祉意識の向上や、住民相互の関係づくりにつながります。そのため、両計画の内容を共有し、それぞれの計画の実現を支援するための施策を盛り込むことが求められます。

こうした点を踏まえ、本市では、前回計画から両計画を一体的に策定しています。本計画においても、行政と社会福祉協議会が相互に地域福祉の課題や方向性を共有し、取り組みを充実させていく必要があるため、引き続き一体的に策定することとします。

■ 「地域福祉計画」と「地域福祉活動計画」の関係

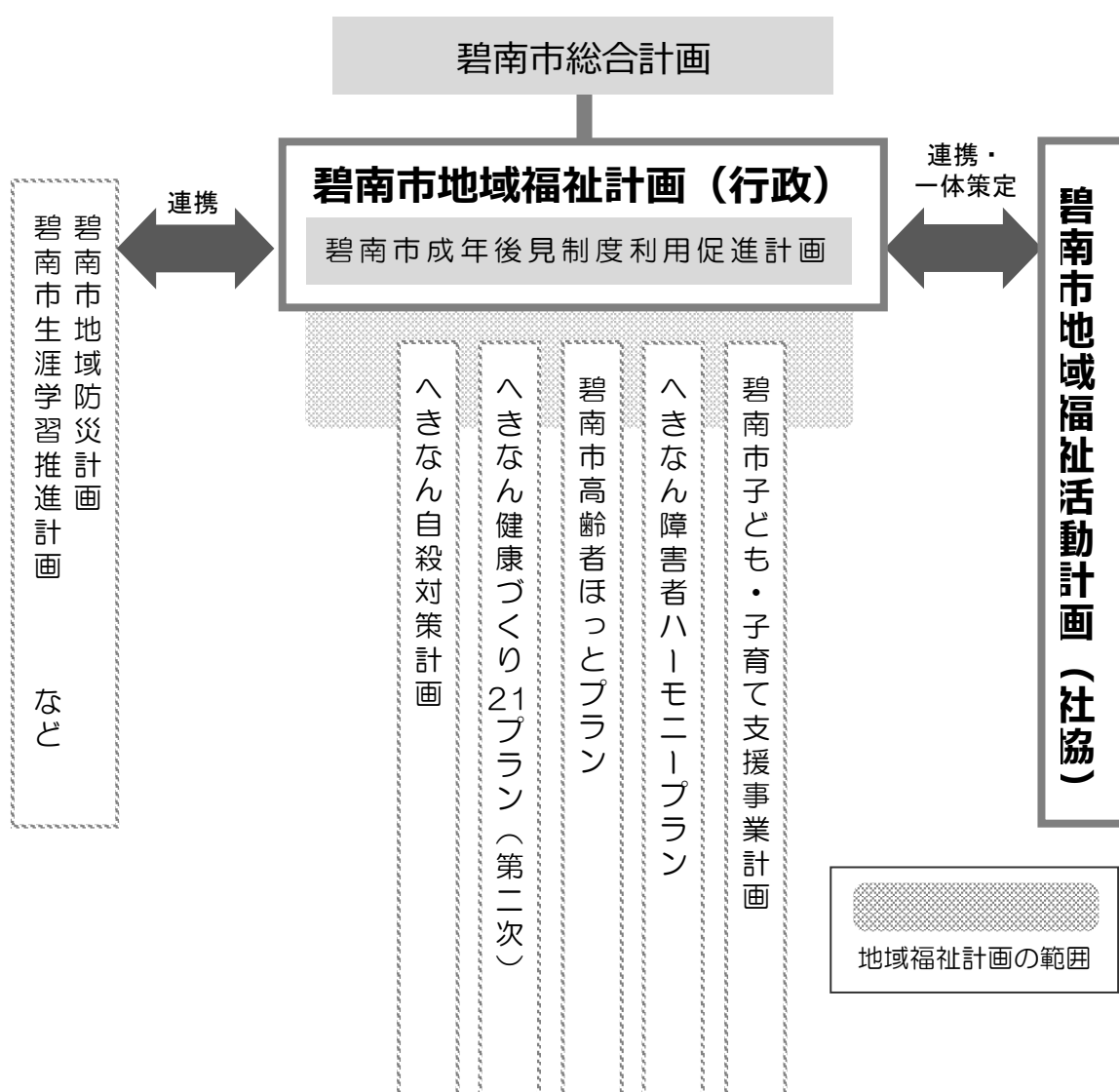


（２）他計画との関連

本計画は、本市の最上位計画である「総合計画」との整合を図り、策定します。また、「社会福祉法」の改正により、地域福祉計画が福祉の各分野の上位計画となったことも踏まえ、子ども・子育て、障害福祉、介護・高齢者福祉などの本市の他の福祉分野の計画とも整合性を図ります。

さらに、「成年後見制度の利用の促進に関する法律」に基づく「成年後見制度利用促進計画」も本計画に内包することとします。

■他計画との関係



（３）社会福祉協議会の概要

社会福祉協議会（以下、「社協」という。）は、「社会福祉法」第109条に「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として規定された社会福祉法人です。

社協は、以下の事業を行う地域福祉活動の推進組織として、中核的な役割が求められています。

- ①社会福祉を目的とする事業の企画及び実施
- ②社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助
- ③社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成等
- ④その他、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業

これを踏まえ、社協では、本市における社会福祉事業その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図ることを目的として活動しています。

つまり、行政の手の行き届かない社会福祉に関する様々な事業を行うことで、住民が安心して暮らせるまちづくりを進めています。

4 計画の期間

本計画の計画期間は、6年とし、必要に応じ、見直しを行います。

■計画の期間

年度	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
地域福祉計画 (行政)	へきなん地域福祉 ハッピープラン 〔第2次地域福祉計画 第4次地域福祉活動計画〕					へきなん地域福祉 ハッピープラン 〔第3次地域福祉計画 第5次地域福祉活動計画〕					
地域福祉活動計画 (社協)											

5 計画の策定体制

本計画の対象は、本市に暮らす住民や、活動する団体、事業所等、本市に関わりを持つすべての人を対象とします。そのため、性別・年齢・障害の有無、国籍等に関わらず誰もが福祉の担い手であり、受け手となります。そのため、計画策定段階においても住民が参加し、地域の課題を自分ごととして考えていくため、次のような体制で計画の策定を進めました。

（１）碧南市地域福祉計画策定委員会

学識経験者、福祉関係団体等、社協、公募市民、行政で構成した「碧南市地域福祉計画策定委員会」において、地域福祉に関わる様々な分野から本計画の施策、内容等について検討を行い、計画に反映しました。

（２）碧南市地域福祉計画策定委員会作業部会

本市の福祉課長を部会長とし、関係各課及び社会福祉協議会の職員を部会員として構成した「碧南市地域福祉計画策定委員会作業部会」において、計画策定の進め方や課題、計画案の検討・作成を行いました。

（３）地域福祉推進会議

市内6地区（新川地区、中央地区、大浜地区、棚尾地区、旭地区、西端地区）において、これまでの各地域の取り組みを踏まえ、今後の方向性等を地域住民同士で検討するため、地域福祉推進会議を各地区2回開催しました。会議は、ワークショップ形式で実施しました。

（４）市民意識調査

住民の福祉についての考えや意見等を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的として、18歳以上の本市で暮らす住民を対象にアンケート調査を実施しました。

また、令和元年度に実施した碧南市市政アンケートにおいても、地域福祉に関連する項目について、結果を活用・分析を行いました。

（５）団体等ヒアリング調査

福祉やまちづくりに関わる団体等の考えや意見等を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的として、各分野で活躍する団体等を対象に調査シートによるヒアリング調査を実施しました。

（６）関係課ヒアリング調査

前回計画の施策や事業の進捗状況及び今後の方向性等を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的として、関係各課や社協等を対象に調査シートによるヒアリング調査を実施しました。

第2章 碧南市の状況

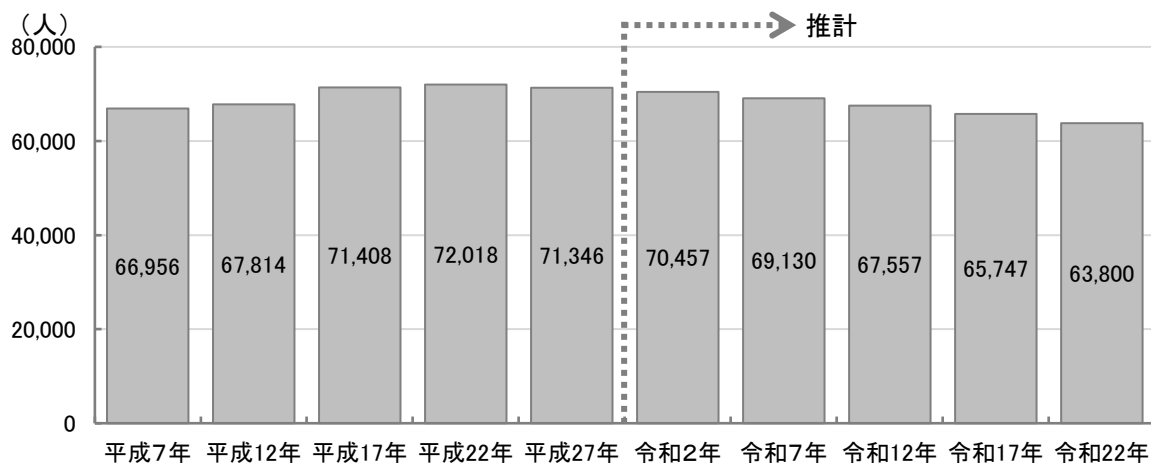
1 碧南市の現状

(1) 人口の状況

本市の総人口は、平成22年までは増加していましたが、平成27年では減少に転じており、今後も減少していくことが見込まれます。

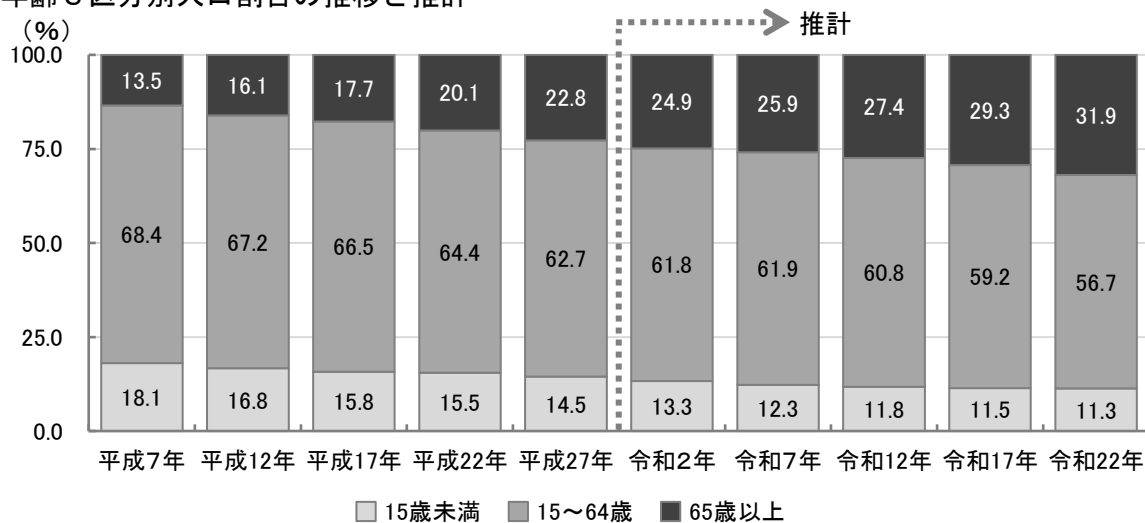
年齢3区分別人口割合をみると、15歳未満、15～64歳の人口割合が減少、65歳以上の人口割合が増加しており、今後も少子高齢化が進行していくことが見込まれます。

■総人口の推移と推計



資料：(平成27年まで) 国勢調査、(令和2年以降) 国立社会保障・人口問題研究所

■年齢3区分別人口割合の推移と推計

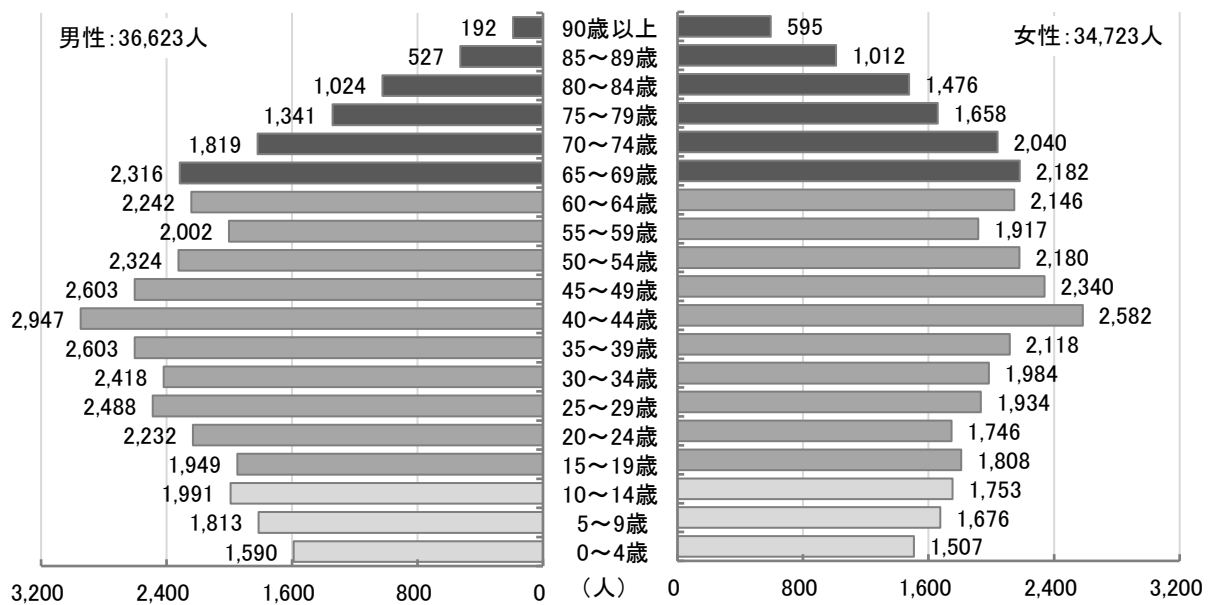


資料：(平成27年まで) 国勢調査、(令和2年以降) 国立社会保障・人口問題研究所

人口ピラミッドをみると、本市には多くの自動車関連企業が立地することから、男性の人口が多くなっています。特に20～30歳代では男性の人口が女性よりも2,000人程度多くなっています。一方で、高齢になるほどその差は小さくなり、70歳以上では各年齢層で女性が男性の人口を上回っています。

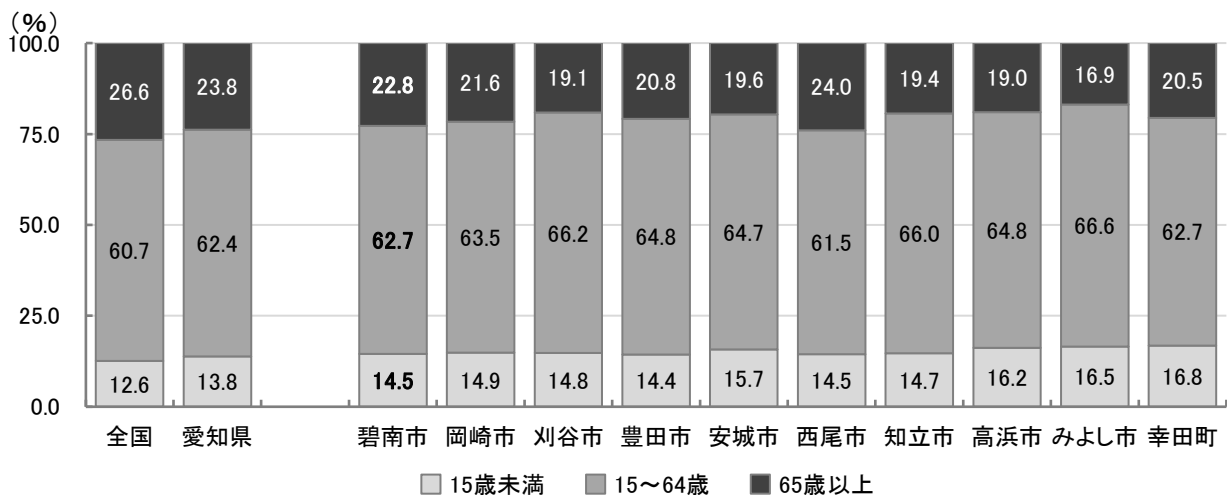
全国、愛知県、西三河地域と年齢3区分別人口割合を比較すると、本市の高齢化率（65歳以上人口の割合）は全国や愛知県よりも低くなっていますが、西三河地域ではやや高めとなっています。

■人口ピラミッド（平成27年）



*年齢不詳者 271人 資料: 国勢調査

■全国、愛知県、西三河地域との年齢3区分別人口割合の比較（平成27年）



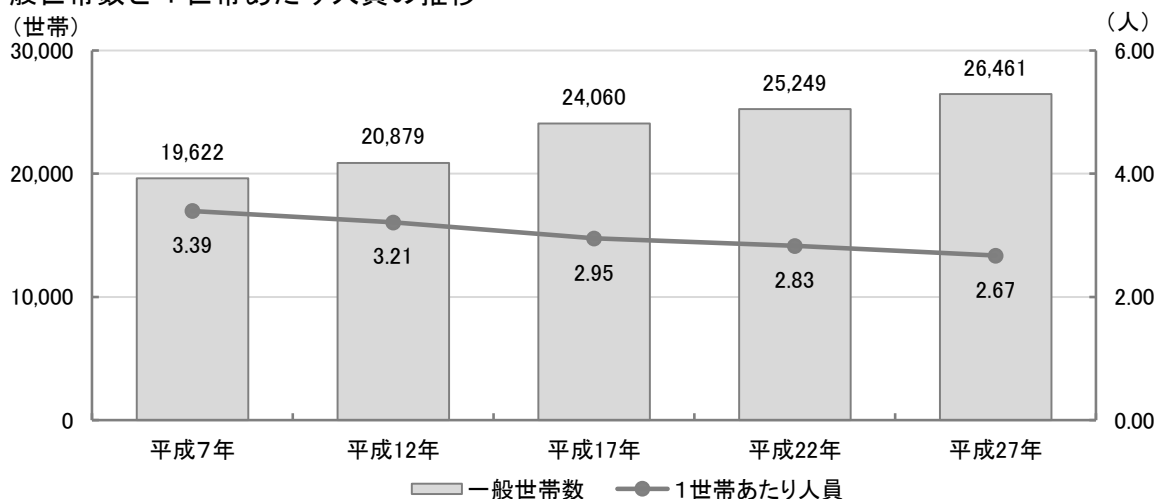
資料: 国勢調査

(2) 世帯の状況

一般世帯数と1世帯あたり人員数は、一般世帯数が年々増加している一方で、1世帯あたり人員数は減少し、世帯が縮小しています。

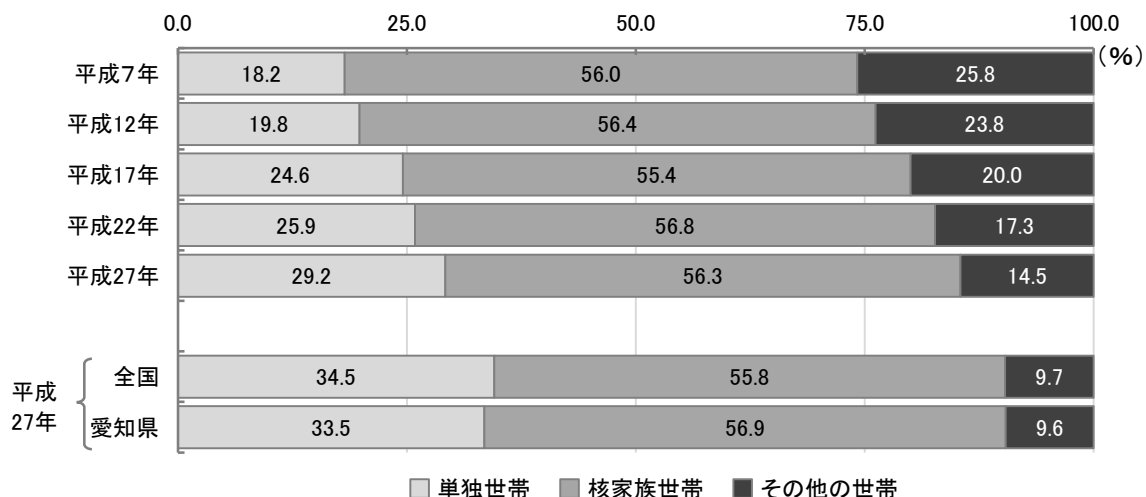
世帯の家族類型別割合をみると、単独世帯は年々増加しており、多世代世帯を含むその他の世帯は年々減少しています。一方で、全国や愛知県と比較すると、本市は「その他の世帯」の割合が高く、多世代世帯が多い状況がうかがえます。

■一般世帯数と1世帯あたり人員の推移



資料：国勢調査

■世帯の家族類型別割合の推移と全国、愛知県との比較



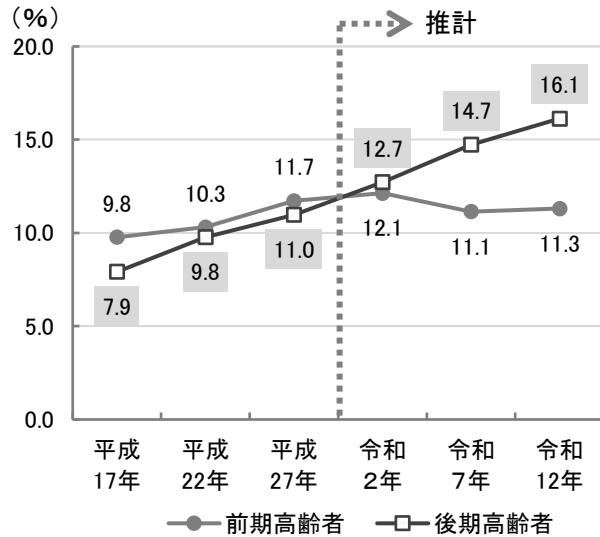
資料：国勢調査

(3) 高齢者の状況

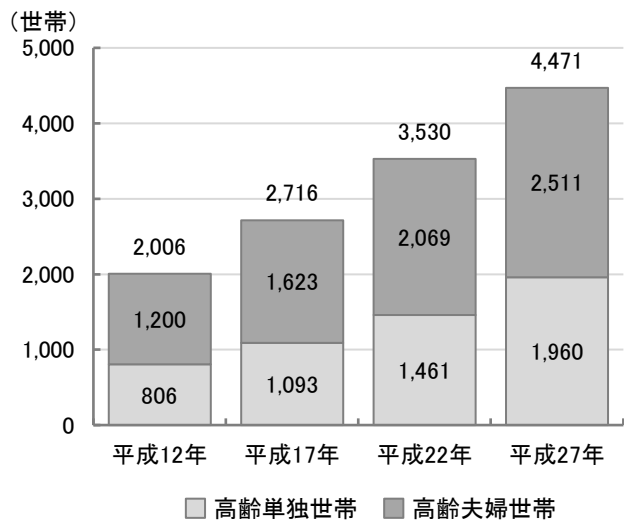
前期・後期高齢者人口割合は、平成27年までは前期高齢者が後期高齢者の割合より高くなっていますが、今後は逆転し、後期高齢者の割合が増加していくことが見込まれます。

高齢者のみの世帯数は、高齢単独世帯、高齢夫婦世帯ともに年々増加しています。

■前期・後期高齢者人口割合の推移と推計



■高齢者のみの世帯数の推移



資料：(平成27年まで) 国勢調査、
(令和2年以降) 国立社会保障・人口問題研究所

資料：国勢調査

(4) 子どもの状況

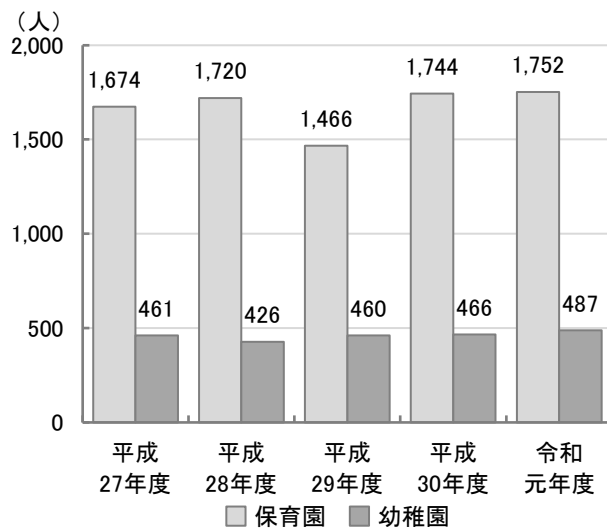
保育園・幼稚園の児童数は、年度により増減しており、保育園の児童数は平成29年度で大きく減少し、その後は1,700人台となっています。幼稚園の児童数は、平成29年度以降、増加しています。

小学校の児童数は、平成27年から令和元年度にかけておおむね減少傾向となっています。中学校の生徒数は、年度により増減しています。

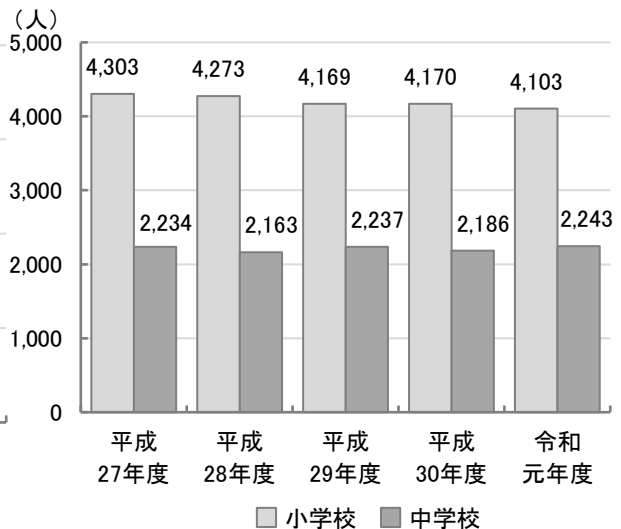
児童クラブのクラブ数は増加していましたが、平成29年以降は横ばいとなっています。通所児童数は平成30年までは年々増加していましたが、平成31年では減少しています。

ひとり親世帯数は、母子世帯数が増加しています。

■保育園・幼稚園の児童数の推移



■小学校・中学校の児童・生徒数の推移



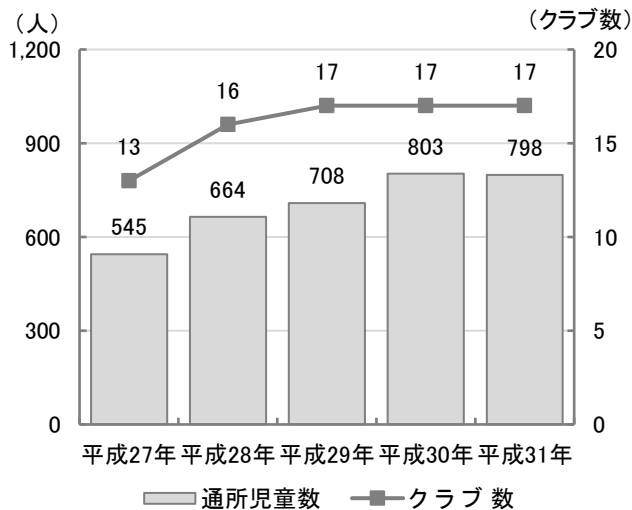
資料：(保育園) 子ども課 (各年度4月1日)

資料：教育委員会 (各年度5月1日)

※令和元年度より認定こども園も含めて掲載。

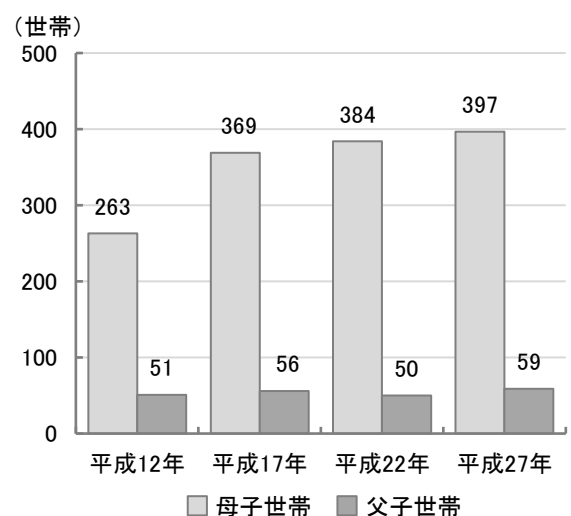
(幼稚園) 学校基本調査 (各年度5月1日)

■児童クラブのクラブ数と通所児童数の推移



資料：こども課 (各年4月1日)

■ひとり親世帯数の推移

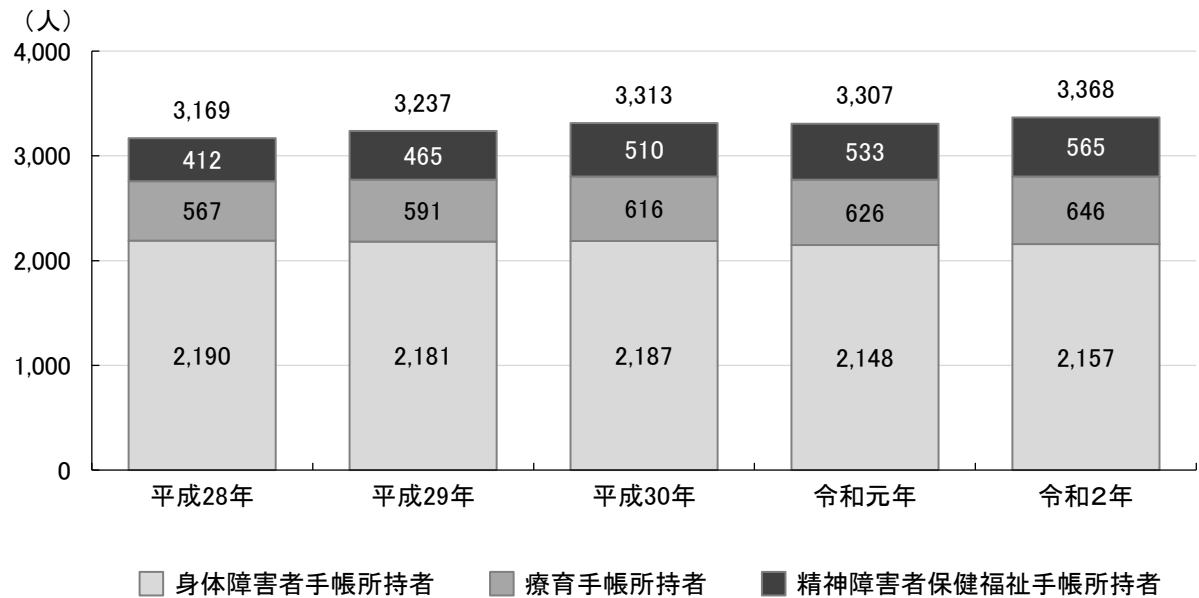


資料：国勢調査

（５）障害のある人の状況

障害者手帳所持者数は、全体で増加しています。手帳別にみると、身体障害者手帳所持者数は概ね横ばい傾向、療育手帳所持者数、精神障害者保健福祉手帳所持者数は増加傾向となっています。

■障害者手帳所持者数の推移

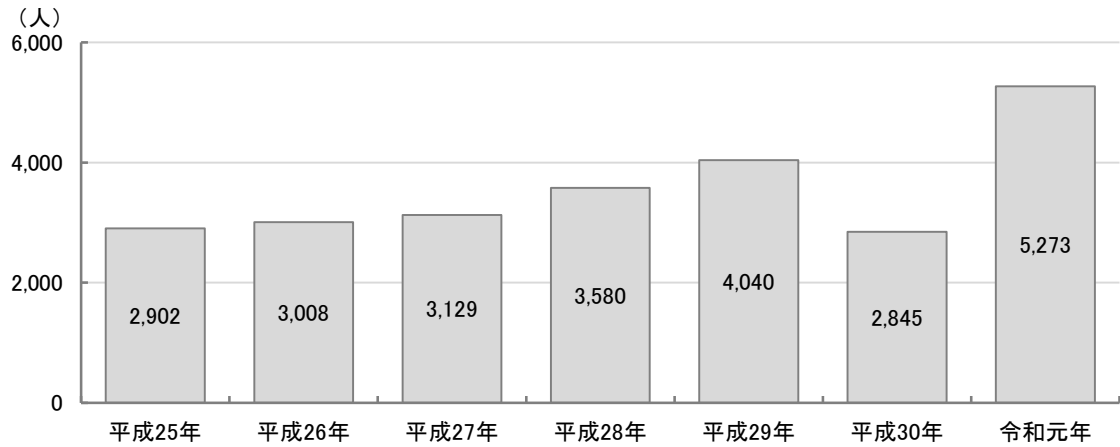


資料：福祉課（各年4月1日）

（６）外国人の状況

外国人住民は、平成29年まで一貫して増加していましたが、平成30年で大きく減少、令和元年では再び大きく増加し、5,000人を超えています。

■外国人住民の推移

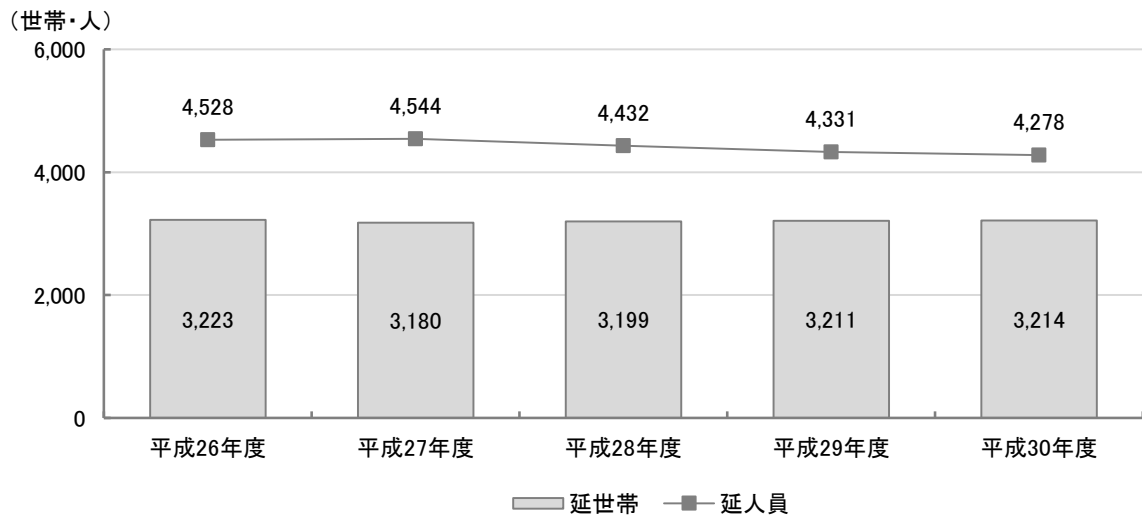


資料：住民基本台帳（各年10月1日）

（７）生活保護の状況

生活保護受給延世帯数は年度により増減しており、3,200人前後で推移しています。生活保護受給延人員は、年々減少しています。

■生活保護受給延世帯数、人員の推移

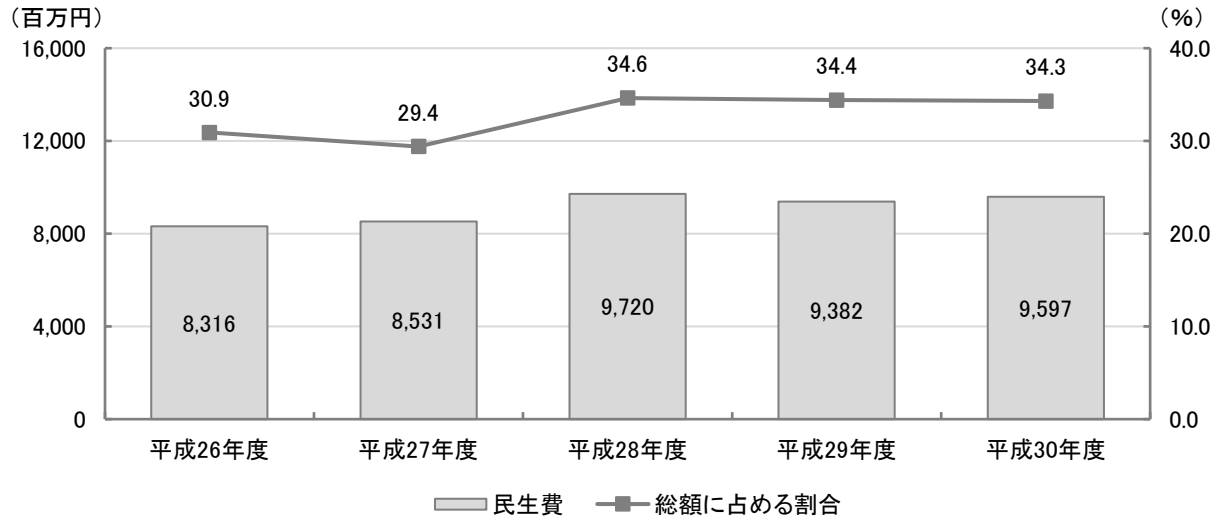


資料：福祉課

(8) 民生費の状況

民生費は、平成28年度に約10億円と増加し、その後は年度により増減しています。総額に占める割合は、近年は3割半ば程度で推移しています。

■ 民生費の推移



資料：行政課

2 市民意識調査結果

市民アンケート報告書作成後、抜粋して作成予定。

3 団体調査結果

団体ヒアリング調査実施後、報告書を抜粋予定。

4 地域福祉推進会議

地域福祉推進会議実施後、内容を取りまとめたものを作成予定。
(地区別計画の内容と重複する場合は削除することも検討中)

5 現行計画の評価

前回計画の取り組みを評価するため、各施策や計画内容について、関係各課及び社協に調査を実施し、進捗状況を把握しました。評価の判定区分はA～Dの4段階となっており、以下のような内容となっています。

■評価の判定区分

A	順調に進んでいる
B	概ね順調だが、改善の余地あり
C	事業の大幅な改善が必要
D	実施していない

基本目標1 福祉の意識を高める環境づくり

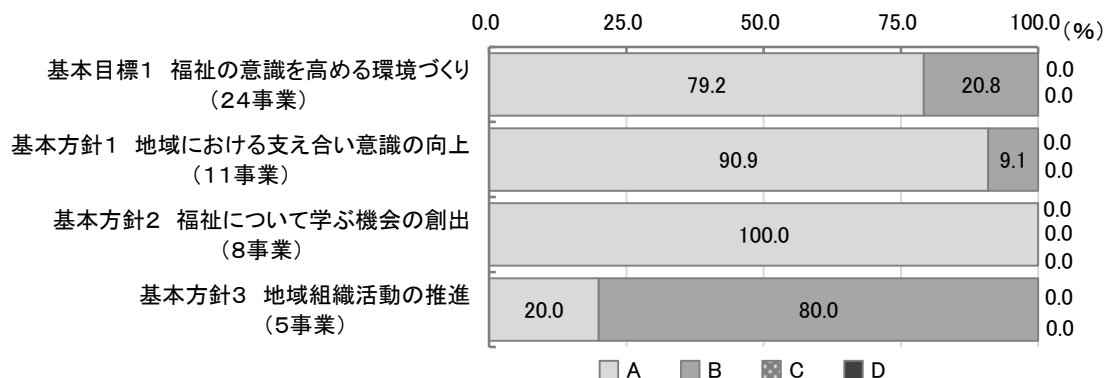
「基本目標1 福祉の意識を高める環境づくり」の全体の評価は、A評価が79.2%、B評価が20.8%となっています。

基本方針ごとにとみると、「基本方針1 地域における支え合い意識の向上」では、A評価が約9割となっています。講座等を通じた地域福祉に関する意識啓発や、各地区の「愛のパトロール」による声掛け運動等が進められています。一方で、地域での自主的なあいさつ運動については各地区の状況に応じた取り組みが求められます。

「基本方針2 福祉について学ぶ機会の創出」では、すべてA評価となっています。学校での福祉実践教室や、ボランティア体験教室、イベント等を通じて、地域と学校の連携強化や福祉教育、地域福祉活動の機会づくりが進められています。

「基本方針3 地域組織活動の推進」では、B評価が8割となっています。町内会の加入を促進するための地域福祉組織のネットワーク化や、ホームページやチラシによる啓発、外国語でのPRを行っています。加入率は減少しており、効果的な働きかけが課題となっています。

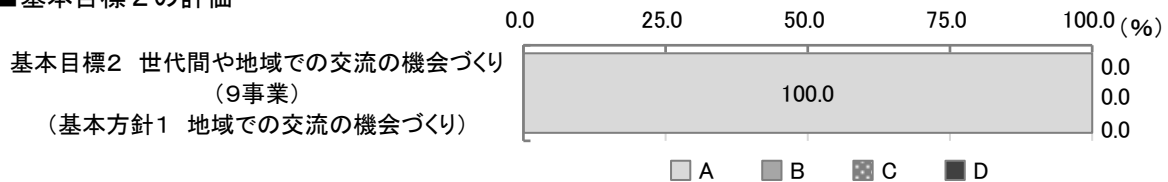
■基本目標1の評価



基本目標2 世代間や地域での交流の機会づくり

「基本目標2 世代間や地域での交流の機会づくり」「基本方針1 地域での交流の機会づくり」の評価は、すべてA評価となっています。公民館や、幼稚園・保育園等を活用した交流や、学校や町内会での多世代交流が進んでいます。また、各公民館には地域連携推進員が配置され、日進地区では「日進みらいの会」で定期的に地域住民が交流するカフェが開催されています。

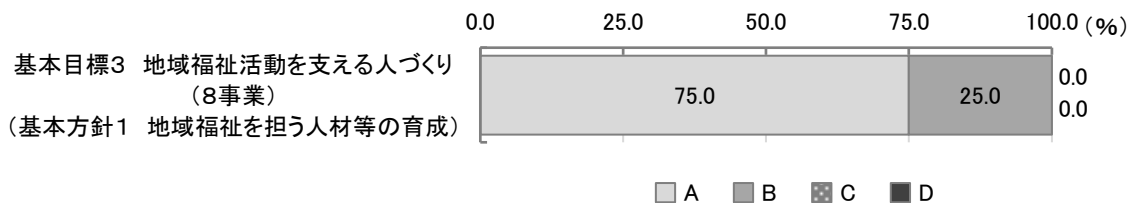
■基本目標2の評価



基本目標3 地域福祉活動を支える人づくり

「基本目標3 地域福祉活動を支える人づくり」「基本方針1 地域福祉を担う人材等の育成」の評価は、A評価が75.0%、B評価が25.0%となっています。講座等の開催や市民活動センターとの連携により、ボランティアや地域福祉のリーダーの確保・育成を進めています。今後は、地域福祉推進会議などを通じて、全地区でリーダーを育成していくことが課題となっています。

■基本目標3の評価



基本目標4 多様化する福祉課題に対応する支援体制づくり

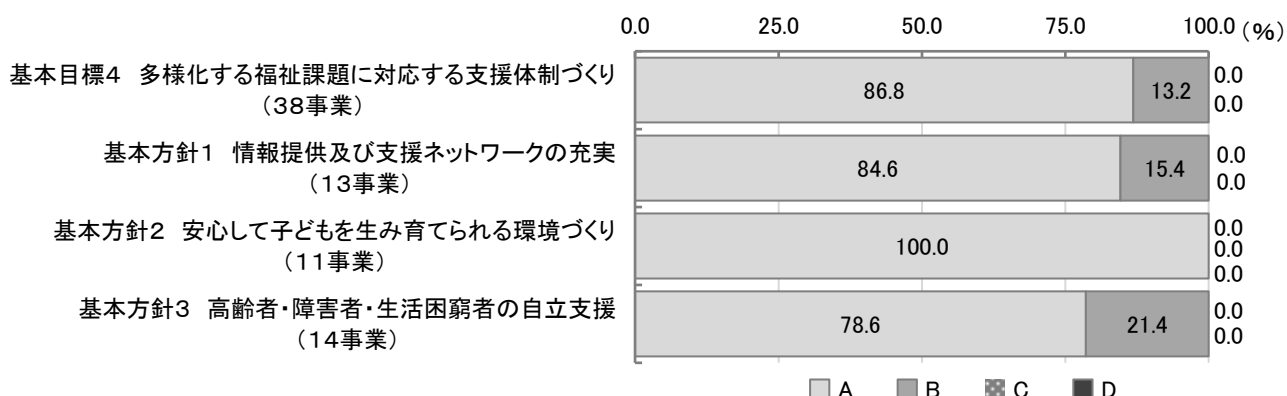
「基本目標4 多様化する福祉課題に対応する支援体制づくり」の全体の評価は、A評価が86.8%、B評価が13.2%となっています。

基本方針ごとにみると、「基本方針1 情報提供及び支援ネットワークの充実」では、A評価が84.6%となっています。ホームページや広報紙による情報提供や、わかりやすい表現での情報発信、相談者への迅速な対応を行うための連携強化が進められています。一方で、地域の関係者のネットワークづくりについては、地域福祉推進会議等を通じて充実させていくことが課題となっています。

「基本方針2 安心して子どもを生み育てられる環境づくり」では、すべてA評価となっています。地域やボランティア、他の福祉分野の専門機関と連携しながら、子育て支援体制の充実や、子どもの遊び場づくり、子育てに関するネットワークづくりを進めています。

「基本方針3 高齢者・障害者・生活困窮者の自立支援」では、A評価が約78.6%となっています。課題やニーズに沿った福祉サービスの提供や、家族介護者の負担を軽減するための場の設置や情報提供、関係機関と連携した生活困窮者への相談や就労等の支援を進めています。今後は、身近な地域で生活をサポートできる仕組みを市内全地区につくっていくことや、家族介護者がより効果を感じられる交流の機会づくり等が課題となっています。

■基本目標4の評価



基本目標5 安心・安全を高める地域づくり

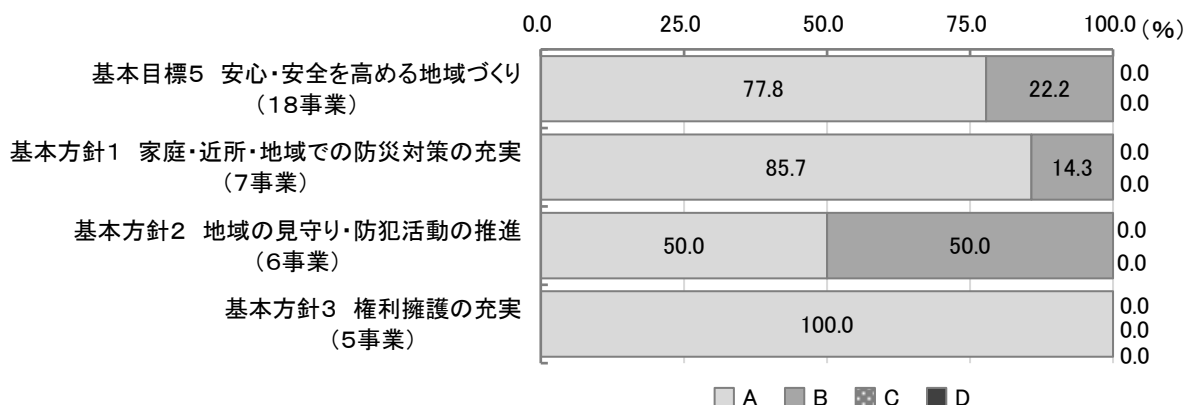
「基本目標5 安心・安全を高める地域づくり」の全体の評価は、A評価が77.8%、B評価が22.2%となっています。

基本方針ごとに見ると、「基本方針1 家庭・近所・地域での防災対策の充実」では、A評価が8割半ばとなっています。地域と連携した訓練の実施や、災害ボランティアと自主防災会の連携に向けた情報共有や人材育成を進めています。今後は避難行動要支援者の支援体制について、地域との協働をより進めていくことが課題となっています。

「基本方針2 地域の見守り・防犯活動の推進」では、A評価、B評価がそれぞれ5割となっています。子どもや高齢者への見守り活動に関する地域での意見交換や、防犯に関する情報提供等を行っています。地区によって見守り活動の実施に差があるため、地域の実状に沿った活動ができるよう、検討していくことが課題となっています。

「基本方針3 権利擁護の充実」では、すべてA評価となっています。権利擁護に関する相談や、虐待の防止や成年後見制度の認知度を高める講習等を実施しています。また、社協に成年後見支援センターが設立され、権利擁護に関する情報発信や相談への対応を行っています。

■基本目標5の評価



第3章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

地域で築く つながり 支えあうまち へきなん

各種調査結果や上位計画を踏まえて基本理念の解説などを記載予定。

2 基本目標

基本目標 1

福祉の意識の醸成と担い手の確保・育成

地域福祉を推進していくには、住民一人ひとりが身近な地域や福祉について意識を高め、より多くの住民や地域福祉に関わることが大切です。多様な方法で、地域福祉に関する住民の関心を醸成する働きかけや、地域福祉に携わる人材の確保・育成や活動の支援を進めます。

基本目標 2

地域の支え合いの仕組みづくり

支え合う地域づくりを進めるには、地域の住民同士が交流する中で顔の見える関係をつくり、地域の課題を地域で解決できるような仕組みを構築していくことが求められます。イベント・行事や地域の拠点などを活用し様々な世代の交流を促進するとともに、町内会や地域福祉推進会議等の地域活動の活性化を図ります。また、分野や所属を超えて様々な機関や団体が連携を図ることで、地域のネットワークの構築を図ります。

基本目標 3

安心・安全に暮らせる地域づくり

誰もが安心して地域で暮らしていくには、あらゆる困りごとや悩みを相談できる場があることや、困りごとの解決につながる支援を受けられることが必要です。行政や社協、事業所、地域等、様々な機関が連携し、相談支援体制や多様な支援・サービスの提供を図ります。

また、地域で暮らしていくために必要な住居や移動手段の確保や、市民の人権を守る権利擁護の取組、本市でも関心が高い防災対策及び防犯や見守りについても施策を推進します。

4 施策の体系

以下の施策の体系に基づき、第4章の基本計画を展開します。

基本目標	方向性
1 福祉の意識の醸成と担い手の確保・育成	1 地域福祉に関する市民意識の向上
	2 福祉教育の推進
	3 地域福祉の担い手・リーダーの確保・育成
	4 ボランティア活動の促進・支援
2 地域の支え合いの仕組みづくり	1 地域の関わりあいや交流の促進・居場所づくり
	2 地域活動の支援
	3 多様な分野・組織の連携・協働の促進
3 安心・安全に暮らせる地域づくり	1 相談支援体制の強化
	2 多様なサービスの充実
	3 誰もが住みやすい環境づくり
	4 権利擁護の推進
	5 地域ぐるみの防災対策の充実
	6 地域の見守り・防犯活動の推進

第4章 基本計画

前頁の方向性に対応する行政・社協の施策及び市民として取り組むことの詳細を設定予定。

第5章 地区別計画

地域福祉推進会議の状況を踏まえ、市内6地区がこの6年間で優先的に取り組むことを設定予定。

第6章 計画の推進

P D C Aサイクルや計画進捗評価を行う合議体等について記載予定。